

科学研究費助成事業

第 2 段 審査 の 手 引

基盤研究（A・B・C）（審査区分「一般」）

若手研究（A・B）

国際共同研究加速基金（帰国発展研究）

平成 2 9 年 1 月

独立行政法人日本学術振興会

科学研究費助成事業（科研費）の審査について

科学研究費助成事業（科研費）は、わが国の学術振興に寄与すべく、人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、学術研究を格段に発展させることを目的とする競争的資金です。

学術研究は、研究者コミュニティが自ら選ぶ研究者が、科学者としての良心に基づき、個々の研究の学術的価値を相互に評価・審査し合うピアレビュー（Peer Review）のシステムにより発展してきました。

科研費にかかわる審査は、こうしたシステムの一翼を担う重要な要素です。そして、科研費の審査委員は、学術の振興のために名誉と責任あるピアレビューアーの役割を任されています。研究者同士が「建設的相互批判の精神」に則って行う科研費の審査は、学術研究の将来を左右すると言っても過言ではありません。このため、次の点に留意することとしています。

審査は応募者の研究を尊重することが前提です。審査委員は、応募者の研究計画が自身の専門分野に近いかどうかにはかかわらず、応募者がどのような研究を行おうとしているのかを理解し、その意義を評価・審査することとしています。また、科研費の審査は研究課題の審査ですので、研究計画調書の内容に基づいて研究計画の長所（強い点）と短所（弱い点）を見極めて評価するとともに、審査意見ではそれらを具体的に指摘することとしています。

一方で、応募者は、自ら設定した課題の背景や経緯、国内外での位置づけ、新規性、独自性、創造性や具体的な研究計画が審査委員に分かるように研究計画調書に記載することが求められています。

審査委員と応募者がこのような姿勢で審査に臨むことにより、ピアレビューによる科研費の審査が健全に機能します。

科研費の審査委員としての経験は、学術的視野をさらに広げる貴重な機会でもあります。そして、学術コミュニティ全体が「建設的相互批判の精神」に則った審査を積み重ねることで、日本の学術水準の向上につながることを期待されます。

は し が き

本手引は、科学研究費助成事業(以下、この手引において「科研費」といいます。)の第2段審査を担当される審査委員の方々の審査の便宜のために作成しています。本手引により遺漏なく審査されるようお願いいたします。

目 次

1	審査の仕組み	1
2	審査における基本的な留意事項	2
3	第2段審査（合議審査）の指針	4

資料	科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程（抜粋）	8
別添1	科学研究費委員会組織図	22
別添2	科学研究費助成事業配分方式	23
別添4	基盤研究（A・B・C）（審査区分「一般」）、 若手研究（A・B）の第1段審査における評価基準等	24
別添6	国際共同研究加速基金（帰国発展研究）の第1段審査における評価基準等	30

〔参 考〕

1	研究種目（審査区分）の目的・性格	35
2	審査機構図（抜粋）	37
3	平成29年度科学研究費助成事業 系・分野・分科・細目表	38

1 審査の仕組み

以下、日本学術振興会における審査の仕組みをご説明しますので、全文を必ず読んでくださるようお願いいたします。

(1) 審査の基本：ピアレビュー

学術研究は、研究者コミュニティが自ら選んだ研究者が、科学者としての良心に基づき、学術的価値について、評価・審査するピアレビューにより発展してきました。科研費の審査も、このピアレビューにより行われます。審査委員に選ばれた方々は、すでに科研費等の取得を通して学術研究のあり方についての見識を持ったピアレビューアーとしてふさわしい方々です。ピアレビューの意義を十分に理解して審査に当たっていただきますようお願いいたします。

(2) 利益相反

科研費の審査委員は、公的研究費の配分に関わるという公的な立場と同時に、一人の研究者としての立場にもあるため、それらの立場が相反するという緊張関係、即ちいわゆる「利益相反(Conflict of Interest)」の状態に入ることになります。このような「利益相反」は、「利害関係」とは異なり、審査委員になることによって誰もが直ちにその状態に入るものでありますので、そのことを十分に自覚しながら公平で公正な審査を行う心構えをもっていただくことをお願いします。

(3) 利害関係者の排除

審査に当たり、審査対象者の中に「利害関係者」に当たる方が含まれていることが判明した場合には、科研費の審査における公正性を確保するため、個々の研究課題の審査について、利害関係にある審査委員は評価に関わらないこととしています。

(「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」第8条第一号によって、「研究代表者、研究分担者又は連携研究者である場合」等、ご自身が関与した応募研究課題はもちろん、「研究課題の研究代表者、研究分担者、連携研究者との関係において」親族関係、緊密な共同研究を行う関係、同一研究単位での所属関係、密接な師弟関係等、ご自身と密接な関係にある研究者の応募研究課題の審査・評価には関わらないこととされています。詳細は2頁を参照してください。)

(4) 審査種目と審査の仕方

2段階審査: 科研費のうち、「基盤研究」、「若手研究」及び「国際共同研究加速基金(帰国発展研究)」の審査は、書面による第1段階審査(書面審査)と、合議による第2段階審査(合議審査)の2段階審査によって行われます。

第1段階審査(書面審査)

「基盤研究(C)」及び「若手研究(B)」については、4人の審査委員に、「基盤研究(S・A・B)」、「若手研究(A)」及び「国際共同研究加速基金(帰国発展研究)」については6人の審査委員に、個々の研究計画の学術的価値等について個別に評価を行っていただきます。項目別評点及び総合評点をつけるだけでなく、審査意見を必ず記入していただきます。

第2段審査（合議審査）

第1段審査委員とは別の審査委員が専門分野ごとの小委員会に分かれて評価を行います。第1段審査委員による審査項目別評点、総合評点、Tスコア(下記参照)及び審査意見が、審査委員名、所属機関名とともに審査資料として提示されます。これらの資料、統計処理した資料及び個々の研究計画調書をもとに、審査委員の合議により採択研究課題を選定します。

Tスコアとは

第1段審査においては、応募研究課題ごとに1～5点の総合評点を相対評価で付すこととしていますが、その際、極端に評点が隔たらないよう評点分布の目安を設けており、第1段審査委員はこの目安に基づき評点を付すこととしています。

しかし、それでも個々の審査委員によっては評点の分布にばらつきが出るため、平均点と標準偏差により、審査委員ごとの評点のばらつきを補正(平均点が3、標準偏差が0.6となるように)することを目的として算出した数値です。

< Tスコア > の算出方法

$$(A - B) \times 0.6 / C + 3$$

A : 当該審査委員が付した評点

B : 当該審査委員が全応募研究課題に付した評点の平均点

C : 当該審査委員の標準偏差

2 審査における基本的な留意事項

審査を行う際の基本的な留意事項として、以下の点を確認してください。

(1) 審査に関する利害関係の排除

科研費の審査における公正性を確保するため、個々の研究課題の審査について、利害関係のある審査委員は評価に関わらないこととしています。

審査委員が応募研究課題の採否の結果により、①自ら利益を得ること、又は②第三者から、学術的評価以外の考慮を含めた審査ではないかという疑念を持たれることがないようにしなければなりません。

このため、第2段審査委員が、応募研究課題の研究代表者、研究分担者又は連携研究者との関係において、上記①又は②に該当すると自ら判断する場合には、審査グループごとの審査においては当該研究課題の審査に加わらないこと、また、小委員会全体の合議において、採択候補課題に利害関係のある場合、併せて、利害関係のある採択候補課題について申告していただきます。また、当該審査グループから審査結果の報告が行われる際には一時的に退席していただくこととしています。

なお、次のような場合には、利害関係には当たらないと判断されますので、利害関係について、あまりに広くとらえすぎることのないようにお願いします。

- (ア)単に同じ学会・研究会に所属している場合
- (イ)単に同じ学部・学科、研究科・専攻に所属している場合

また、利害関係者の排除については、第1段審査委員においても同様であり、該当する場合には、当該研究課題の審査は行わないこととしており、必要に応じて別途利害関係に当たらない審査委員が第1段審査を行っています。

【参考】

(利害関係者の排除)

第8条 評価に関する利害関係の排除の取扱いについては、次のとおりとする。

一 科学研究費、特別研究員奨励費、国際共同研究加速基金（帰国発展研究）の場合

- (1) 評価者等自身が研究課題の研究代表者、研究分担者又は連携研究者である場合は、評価に加わらないこととする。
- (2) 評価者等が、研究課題の研究代表者、研究分担者又は連携研究者との関係において、次に掲げるものに該当すると自ら判断する場合は、評価に加わらないこととする。
 - ① 親族関係もしくはそれと同等の親密な個人的関係
 - ② 緊密な共同研究を行う関係
(例えば、共同プロジェクトの遂行、共著研究論文の執筆もしくは同一目的の研究会メンバーにおいて、緊密な関係にある者)
 - ③ 同一研究単位での所属関係（同一講座の研究者等）
 - ④ 密接な師弟関係もしくは直接的な雇用関係
 - ⑤ 研究課題の採否又は評価が評価者等の直接的な利益につながると見なされるおそれのある対立的な関係もしくは競争関係

(「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」第8条の一)

(2)秘密保持と研究者倫理の遵守

研究計画調書の内容等、審査に当たって、知り得た情報はいかなる形においても、他人に漏らしてはなりません。

審査の過程で知り得た他人の独自性のあるアイデアや未発表の研究結果を審査委員自身の利益のために利用することはもちろん、第三者に漏らすことも、研究者倫理及び社会的倫理に反するものであると認識してください。

なお、第1段審査委員(書面審査委員)の氏名等は、第2段審査(合議審査)における審査資料においては明示されますが、対外的には、審査を実施した年度の翌年度までは非公開となっている(2年間審査を依頼するケースが多いため。)ことに注意してください。

また、第2段審査委員自身の氏名等については、審査を実施した年度が終了するまで非公開としています。

(3)応募者の審査希望の細目について

系・分野・分科・細目表は、科研費の審査希望分野の分類表です。

応募者が審査を希望する細目を選定し、応募しているため、それを尊重し、「不適切な細目への応募」といった理由だけで評価を下げずに、学術的価値についての審査を行ってください。

3 第2段審査(合議審査)の指針

第2段審査の実施に当たっては、本手引の8～34頁に抜粋を掲載している「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」等のほか、以下の点に留意し、適切かつ公正に行ってください。

1 共通事項

(1) 学術的価値の評価

研究課題の審査は、当該応募研究課題の研究目的が実現した場合の学術的な意義に基づいて行ってください。

なお、他の研究費制度との関係については、(8)にご留意ください。

(2) 第1段審査に対する理解

研究課題の選定に当たっては、「基盤研究(A・B・C)(審査区分「一般」、若手研究(A・B)の第1段審査における評価基準等」及び「国際共同研究加速基金(帰国発展研究)の第1段審査における評価基準等」について十分理解した上で、応募研究課題に対する第1段審査の評価結果を適切に把握し、審査を行ってください。

(3) 第1段審査と第2段審査の関係

第2段審査においては、基本的に、第1段審査の結果を尊重し、採択候補研究課題の調整を図ることとしています。

ただし、明確な理由があり、第1段審査の結果を大幅に覆して採択候補研究課題を決定する必要がある場合は、小委員会全体の合議を経た上で、適切に扱うこととします。

(4) 審査資料の確認

審査資料に関し、第1段審査の結果をとりまとめた「研究計画調書目録」だけで判断するのではなく、第1段審査における審査委員の審査意見を記入した「評価表」及び各応募研究課題の「研究計画調書」の内容についても確認し、採択候補研究課題を選定してください。

特に、①配分枠のボーダーライン付近に位置する研究課題、②利害関係者の排除により第1段審査委員が他と異なっている研究課題、③第1段審査委員の評価が大きく異なる研究課題の審査に当たっては、慎重に対応してください。

(5) 審査グループにおける合議審査の遵守

分科(人文・社会科学系の小委員会にあっては細目)ごとに設ける審査グループでの審査においては、必ず複数の審査委員の合議により、採択候補研究課題を選定してください。

審査グループの人数が多い分科においては、審査委員ごとに役割分担を定めることについては差し支えありませんが、その際においても、複数の審査委員が重複して分担することとし、1人の審査委員の判断により、審査結果を決定することのないようにしてください。

ただし、利害関係を有する研究課題については、審査に加わらないこととしているため、同じ

審査グループの審査委員にその旨申告の上、適切に対応してください。

(6)配分予定額の決定について

採択候補研究課題に対する配分予定額については、基本的に、研究種目ごとに定める充足率に従って決定することとしますが、第1段審査の「研究経費の妥当性」欄における評価結果も踏まえ、明らかに問題がある場合は、第2段審査委員が査定してください。

(7)人権の保護及び法令等の遵守への対応について

研究計画の遂行において人権保護や法令等の遵守が必要とされる研究課題については、関連する法令等に基づき、研究機関内外の倫理委員会等の承認を得るなど必要な手続き・対策等を行った上で、研究計画を実施することになります。このため、第1段審査の評価項目としては考慮しないこととしていますが、研究を実施するに当たり所定の手続き・対策等に不十分な点が見受けられるなど、研究機関に対して予め指摘が必要と考えられる場合には、その考えに至った根拠がコメント欄に記入されています。

なお、「人権の保護及び法令等の遵守への対応」欄について、研究機関に対して予め指摘が必要と考えられる場合には、応募者に所定の手続き・対策等に不十分な点が見受けられた旨を伝達するとともに、特に採択された場合には、応募者が所属する研究機関に対して所定の手続き・対策等を行うよう通知します。また、不採択であった場合でも、審査結果の開示において所定の手続き・対策等に不十分な点があった旨を表示します。

(8)不合理な重複や過度の集中に関する扱い等について

競争的資金の不合理な重複や過度の集中を避けるため、選定した採択候補研究課題について、研究計画調書の「研究費の応募・受入等の状況・エフォート」欄を参照し、該当しないか確認してください。

なお、競争的資金の不合理な重複や過度の集中に該当することを理由として不採択研究課題とする場合は、必ず小委員会全体の合議を経て決定してください。

ただし、単に、他の研究費制度(科学技術振興機構(JST)や日本医療研究開発機構(AMED)が実施している事業等)の助成対象となり得るという理由や、応募者が他の研究費制度による事業を実施中であるという理由だけで、評価を下げるといった不利益な取扱いをしてはいけません。

※ WPIプログラムのような拠点形成型の競争的資金は、科研費のような個々の研究課題に対する研究助成費ではありません。このような事業においては、研究活動は科研費等の外部資金により実施することとされており、関係研究者の科研費への応募は、研究資金の不合理な重複や過度の集中には該当しません。

「競争的資金の適正な執行に関する指針」－抜粋－

(平成17年9月9日競争的資金に関する関係府省連絡会申し合わせ(平成24年10月17日改正))

不合理な重複・過度の集中の考え方

「不合理な重複」：

同一の研究者による同一の研究課題(競争的資金が配分される研究の名称及びその内容をいう。以下同じ。)に対して、複数の競争的資金が不必要に重ねて配分される状態であって、次のいずれかに該当する場合をいう。

- ① 実質的に同一(相当程度重なる場合を含む。以下同じ。)の研究課題について、複数の競争的資金に対して同時に応募があり、重複して採択された場合
- ② 既に採択され、配分済の競争的資金と実質的に同一の研究課題について、重ねて応募があった場合
- ③ 複数の研究課題の間で、研究費の用途について重複がある場合
- ④ その他これらに準ずる場合

「過度の集中」：

同一の研究者又は研究グループ(以下「研究者等」という。)に当該年度に配分される研究費全体が、効果的、効率的に使用できる限度を超え、その研究期間内で使い切れないほどの状態であって、次のいずれかに該当する場合をいう。

- ① 研究者等の能力や研究方法等に照らして、過大な研究費が配分されている場合
- ② 当該研究課題に配分されるエフォート(研究者の全仕事時間に対する当該研究の実施に必要とする時間の配分割合(%))に比べ、過大な研究費が配分されている場合
- ③ 不必要に高額な研究設備の購入等を行う場合
- ④ その他これらに準ずる場合

(9)若手研究(B)において2つの細目を選定した課題の審査について

平成25年度より、若手研究(B)に応募する際に、研究計画が新興・融合的で複数の分野での審査を希望する場合に、「系・分野・分科・細目表」から2つの細目を選定できる仕組みを導入しています。

第1段審査においては、1つの細目を選定した応募課題と2つの細目を選定した応募課題を同一の審査基準で審査することとしていますので、それぞれの応募課題を区別することなく、評定基準に示した評点分布の目安に近づくよう『総合評点』を付すこととしています。

第2段審査においては、2つの細目を選定した応募課題を審査する5つの小委員会(※)を設置します。また、2つの細目を選定した応募課題について、選定した細目の組み合わせに応じて3つ(①系を超えて細目を選定した場合、②分野を超えて同一系内の細目を選定した場合、③同一分野内の細目を選定した場合)に分類し、①については「複数細目小委員会」にお

いて、②及び③については各系の複数細目小委員会において審査を行うこととします。

※ 「複数細目小委員会」、「総合系複数細目小委員会」、「人文社会系複数細目小委員会」、「理工系複数細目小委員会」、「生物系複数細目小委員会」

2 審査会の進め方

審査方針、審査の進め方、審査に当たっての留意事項等の確認



審査グループ毎での合議審査

- ① 第1段審査結果の確認
- ② 合議審査による採択候補課題の選定
- ③ 全体合議で報告を要する課題に係るコメントの作成（全体合議で配付）
- ④ グループ審査結果の事務局への提出



全体合議

- ① 審査グループから審査結果の報告
- ② 審査結果についての質疑・応答、小委員会全体での審議
- ③ 小委員会全体での調整、採択課題の決定

3 研究種目別事項

○ 基盤研究(C)における「私立学校・高等専門学校調整枠」

基盤研究(C)において設けている「私立学校・高等専門学校調整枠」は私立学校の振興に配慮し、私立大学に所属する研究者に対する研究助成の充実を図るための調整、技術教育振興等への貢献度について配慮し、高等専門学校に所属する研究者に対する研究助成の充実を図るために設けられた調整枠です。

審査方法としては、配分枠のボーダーライン付近に位置する補欠研究課題もしくは不採択研究課題のうち、上記に該当する研究者の研究課題について、採択すべきかどうか検討してください。

科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程（抜粋）

平成18年9月22日
独立行政法人日本学術振興会
科学研究費委員会決定
一部改正 平成19年2月19日
一部改正 平成19年5月23日
一部改正 平成19年10月1日
一部改正 平成19年12月17日
一部改正 平成20年9月25日
一部改正 平成21年1月27日
一部改正 平成21年9月29日
一部改正 平成22年1月20日
一部改正 平成22年5月26日
一部改正 平成22年9月29日
一部改正 平成23年1月26日
一部改正 平成23年8月5日
一部改正 平成23年10月5日
一部改正 平成24年2月7日
一部改正 平成24年9月28日
一部改正 平成25年2月6日
一部改正 平成25年10月8日
一部改正 平成26年10月7日
一部改正 平成27年10月6日
一部改正 平成28年7月14日
一部改正 平成28年10月5日

第1章 総則

（目的）

第1条 この規程は、科学研究費委員会（以下「委員会」という。）（別添1）において行う科学研究費助成事業に係る審査及び評価（以下「評価」という。）に関し必要な事項を定めることにより、その適正な実施を図ることを目的とする。

（用語の定義）

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 研究課題 科学研究費（特別推進研究、基盤研究、挑戦的萌芽研究、挑戦的研究、若手研究、研究活動スタート支援、奨励研究）、特別研究員奨励費及び国際共同研究加速基金（帰国発展研究）の対象となる個々の研究をいう。
- 二 成果公開 研究成果公開促進費（研究成果公开发表、国際情報発信強化、学術図書、データベース）の対象となる個々の事業をいう。
- 三 審査委員又は評価者 委員会並びに委員会規程第8条、第10条及び第12条に定める部会、小委員会、運営小委員会に属する委員及び専門委員をいう。
- 四 被評価者 下記の者のうち、評価の対象となっている者を総称する場合をいう。
（下記の者のうち審査の対象となっている者を総称する場合は「応募者」という。）

- (1) 科学研究費(特別推進研究、基盤研究、挑戦的萌芽研究、挑戦的研究、若手研究、研究活動スタート支援、奨励研究)の研究課題の研究代表者
 - (2) 研究成果公開促進費(研究成果公開発表、国際情報発信強化、学術図書、データベース)の成果公開の代表者
 - (3) 特別研究員奨励費の研究課題の研究代表者
 - (4) 国際共同加速基金(帰国発展研究)の研究課題の研究代表者
- 五 審査意見書作成者 特別推進研究の審査において、審査意見書の作成を依頼された者をいう。
- 六 評価協力者 基盤研究(S)の研究進捗評価及び特別推進研究の追跡評価において、研究課題ごとに選定する学識経験のある者をいう。

(評価の種類)

第3条 評価の種類は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 審査(事前評価)
- 二 研究進捗評価
- 三 中間評価
- 四 追跡評価

(評価の時期)

第4条 評価の時期は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 審査 応募書類の受理後、速やかに行う。
- 二 研究進捗評価 第3章に定める時期に行う。(特別推進研究、基盤研究(S)の研究課題に限る。)
- 三 中間評価 第4章に定める時期に行う。(国際情報発信強化の成果公開に限る。)
- 四 追跡評価 第5章に定める時期に行う。(特別推進研究の研究課題に限る。)

(評価の方法)

第5条 評価は、独創性、先駆性、学問的意義及び社会・経済への貢献度を考慮しつつ、次の各号に掲げる方法を組み合わせて行う。

- 一 書面による評価
- 二 合議による評価
- 三 ヒアリングによる評価
- 四 現地調査による評価

(守秘の徹底)

第6条 評価の過程は、非公開とする。

- 2 審査委員(評価者)、審査意見書作成者及び評価協力者(以下「評価者等」という。)は、評価の過程で知ることができた次の各号に掲げる情報を他に漏らしてはならない。
 - 一 計画調書、研究進捗状況報告書、事業進捗状況報告書及び自己評価書並びにそれらの内容(被評価者が情報提供に同意したものを除く。)
 - 二 評価においてヒアリング又は現地調査対象の研究課題若しくは成果公開となっているかどうかに関する情報(被評価者に通知するまでの間)
 - 三 評価者等の発言内容及び評価に関連して評価者等を特定できる情報(氏名、所属機関及び専門分野を含む)
 - 四 評価者等が行う評点及びその集計結果
 - 五 評価の結果(被評価者に開示されるまでの間)
 - 六 各部会、各小委員会、各運営小委員会に属する評価者等の氏名等(公表されるまでの間)
 - 七 その他非公開とされている情報
- 3 評価者等は、評価結果についての問い合わせに応じないものとする。

(研究者倫理の遵守)

第7条 評価者等は、評価の過程で知り得た他人の独自性のあるアイデア及び未発表の研究成果を自身の利益のために利用すること及び第三者に漏らすことは、研究者倫理及び社会的倫理に反するため、行ってはならない。

(利害関係者の排除)

第8条 評価に関する利害関係の排除の取扱いについては、次のとおりとする。

- 一 科学研究費、特別研究員奨励費、国際共同研究加速基金(帰国発展研究)の場合
 - (1) 評価者等自身が研究課題の研究代表者、研究分担者又は連携研究者である場合は、評価に加わらないこととする。
 - (2) 評価者等が、研究課題の研究代表者、研究分担者又は連携研究者との関係において、次に掲げるものに該当すると自ら判断する場合は、評価に加わらないこととする。
 - ① 親族関係もしくはそれと同等の親密な個人的関係
 - ② 緊密な共同研究を行う関係
(例えば、共同プロジェクトの遂行、共著研究論文の執筆もしくは同一目的の研究会メンバーにおいて、緊密な関係にある者)
 - ③ 同一研究単位での所属関係(同一講座の研究者等)
 - ④ 密接な師弟関係もしくは直接的な雇用関係
 - ⑤ 研究課題の採否又は評価が評価者等の直接的な利益につながると見なされるおそれのある対立的な関係もしくは競争関係
- 二 研究成果公開促進費の場合
 - (1) 審査委員自身が、成果公開の応募者である場合は、評価に加わらないこととする。
 - (2) 審査委員が、成果公開の応募者又は応募団体(学会、研究者グループ等)との関係において、次に掲げるものに該当すると自ら判断する場合は、評価に加わらないこととする。
 - ① 親族関係もしくはそれと同等の親密な個人的関係
 - ② 事業遂行における緊密な関係
(例えば、研究成果公开发表に係るシンポジウム講演者、国際情報発信強化に係る学術刊行物の編者、学術図書の執筆・編者及び翻訳・校閲者、データベース作成における協力者)
 - ③ 同一研究単位での所属関係(同一講座の研究者等)
 - ④ 密接な師弟関係もしくは直接的な雇用関係
 - ⑤ 成果公開の採否が審査委員の直接的な利益につながると見なされるおそれのある対立的な関係もしくは競争関係

(評価結果の開示等)

第9条 審査の結果の開示は、第13条に定めるとおりとする。

- 2 研究進捗評価の結果の開示及び公表は、第17条に定めるとおりとする。
- 3 中間評価の結果の開示及び公表は、第21条に定めるとおりとする。
- 4 追跡評価の結果の開示及び公表は、第25条に定めるとおりとする。
- 5 審査委員(評価者)及び評価協力者の氏名等は、評価終了後、一般に公開する。

第2章 審査（事前評価）

（審査の方針）

第10条 審査は、平成15年11月14日科学技術・学術審議会決定「独立行政法人日本学術振興会が行う科学研究費助成事業の審査の基本的考え方」を踏まえ、次の方針により行うものとする。

一 全研究種目共通の方針

- (1) 平成24年12月に内閣総理大臣決定された「国の研究開発評価に関する大綱的指針」の趣旨及び平成14年6月に文部科学大臣決定された「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」（最終改定 平成26年5月）に則り、厳正な審査を行う。
- (2) 研究課題及び成果公開は、各研究種目の目的、性格に即し、国内外の学術研究の動向に照らし特に重要なものを選定する。

研究課題の選定に当たっては、研究目的の明確さ、研究の独創性、学術的な波及効果等を考慮するとともに、当該研究者の従来の研究経過・成果をも厳正に評価する（挑戦的萌芽研究、挑戦的研究を除く。）。その上で、研究計画に妥当性があり、研究成果の期待できるものを選定するようにする。なお、その際、新しい学問分野の開拓及び進展のほか、別添13「競争的資金の適正な執行に関する指針」（平成17年9月（平成24年10月 改正）競争的資金に関する関係府省連絡会申し合わせ）を踏まえ、研究資金の不合理な重複や過度の集中の排除についても十分配慮する。

なお、単に研究課題が他の研究費制度の助成対象となり得ること、あるいは、他の研究費制度による事業を実施中であることのみをもって、不利益な取扱いを行わないこととする。

また、成果公開の選定に当たっては、我が国の学術の振興と普及に資するとともに、学術の国際交流に寄与するものを選定するようにする。
- (3) 研究代表者が研究分担者とともに研究組織を構成する研究課題にあつては、研究組織の構成が適切であり、かつ、各々の研究分担者の果たす役割が明確であるものを選定する。
- (4) 採択した研究課題又は成果公開に対しては、その研究又は事業の内容に対応する必要な額を配分する。また、配分額は原則として10万円単位とする。
- (5) 特別推進研究、基盤研究（審査区分「特設分野研究」を除く）又は若手研究の研究課題のうち研究期間が4年以上のものであつて、研究期間の最終年度に当たる研究課題の研究代表者が、当該研究の進展を踏まえ、研究計画を再構築することを希望して応募した研究課題（以下「研究計画最終年度前年度の応募課題」という。）については、当該科学研究費による研究のこれまでの成果を適切に評価した上で、他の新規応募研究課題と同等の扱いにより、厳正に審査を行う。
- (6) 研究課題の他の研究種目（審査区分）又は専門分野への移し換えはしない。
- (7) 相手方の同意・協力や社会的コンセンサスを必要とする研究課題又はアンケート調査等を行う研究課題については、人権及び利益の保護の取扱いについて十分配慮する必要がある。
- (8) ヒト遺伝子解析研究等（ヒトゲノム・遺伝子解析研究、特定胚の取扱いを含む研究、ヒトES細胞の樹立及び使用を含む研究、遺伝子組換え実験、遺伝子治療臨床研究及び疫学研究を含む研究）に係る研究課題については、法令等の遵守への対応に十分配慮する必要がある。

二 研究種目（審査区分）別の方針

(1) 科学研究費（特別推進研究）（略）

(2) 科学研究費（基盤研究、挑戦的萌芽研究、若手研究、研究活動スタート支援）

① 共通事項

ア 各専門分野への配分方法

基盤研究(審査区分「特設分野研究」を除く)、挑戦的萌芽研究、若手研究及び研究活動スタート支援については、人文学、社会科学から自然科学の各分野にわたって調和を図るとともに、学術研究の実態に適合するようあらかじめ専門分野別の配分枠を設けるものとする。

新規応募研究課題に係る専門分野毎の配分枠は、文部科学省から示される配分予定額をもとに、別添2「科学研究費助成事業配分方式」(以下、「配分方式」という。)により算出した額とする。

イ 配分額の調整

上記「ア」の配分方法に加え、次の事項につき、第2段審査(合議審査)において必要な調整を行う。

- a 人文学、社会科学の研究の振興のための調整
- b 私立学校の振興並びに技術教育振興等への貢献度に配慮し、私立大学、高等専門学校に所属する研究者に対する研究助成の充実を図るための調整
- c その他必要が認められる調整

ウ 配分予定額の決定

採択候補研究課題(基盤研究(審査区分「特設分野研究」)を除く)の配分予定額については、基本的に研究種目ごとに定める充足率に従って決定するが、明らかに問題がある場合には、第1段審査(書面審査)の評価項目の一つである「研究経費の妥当性」の評価結果も踏まえ、第2段審査(合議審査)を行う審査委員が査定する。

エ 研究計画の大幅な変更を行おうとする継続研究課題の取扱い

基盤研究(B・C)審査区分「特設分野研究」を除く研究種目等については、変更を行おうとする研究計画の内容を十分に審査することとし、経費の増額については、新規応募研究課題の配分に影響を及ぼすことを考慮し、その適否を決定する。

オ 翌年度以降の内約額の取扱い

翌年度以降に内約する金額の配分については、採択された研究課題の研究が十分遂行し得るよう配慮すること。ただし、科学研究費補助金を交付する研究種目にあっては、内約額が増加することによって、翌年度以降の新規応募研究課題の審査に少なからず影響を及ぼすことも考慮すること。

カ 研究進捗評価結果の取扱い

研究進捗評価結果については、研究進捗評価結果を受けた研究課題の研究代表者が、最終年度前年度の応募をした研究課題及び研究進捗評価を受けた研究課題の研究期間に引き続いて応募した研究課題の審査に活用することとし、第1段審査(書面審査)においては、研究計画と研究進捗評価結果を受けた研究課題の関連性を審査する際に活用するとともに、第2段審査(合議審査)においては、特に採否の議論を行う際の参考資料とする。

なお、研究進捗評価の評価基準のうち、「A」は、「当初目標に向けて順調に進展しており、期待通りの成果が見込まれる」という評価であり、最も高い評価は、「A+」(「当初目標

を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる)」であることに留意すること。

キ 他の研究課題の受入・応募等の状況の取扱い

- a 他の研究課題の受入・応募等の状況は、第2段審査(合議審査)において「研究資金の不合理な重複や過度の集中にならず、研究課題が十分遂行し得るかどうか」を判断する際の参考とする。
- b 採択候補研究課題については、研究計画調書の「研究費の応募・受入等の状況・エフォート」欄を参照し、研究資金の不合理な重複や過度の集中に該当しないかどうかを確認する。
- c 応募研究課題を研究資金の不合理な重複や過度の集中に該当することを理由として不採択とする場合には、小委員会全体の合議により決定する。

ク エフォートの取扱い

エフォート(研究代表者又は研究分担者の全仕事時間に対する当該研究課題の実施に要する時間の割合)は、第2段審査(合議審査)において「研究課題が十分遂行し得るかどうか」を判断する際の参考とする。

ただし、エフォートは、研究課題の遂行が可能であると判断した研究代表者又は研究分担者が、研究計画調書作成時において、予想で記載しているものであり、その割合については、採択後に変更することができる点に留意する。

ケ 補助事業完了理由書等の取扱い

研究が予想以上に進展し、継続研究課題の当初の到達目標をすでに達成したため、研究種目を変えて更なる研究発展を目指す場合に提出された補助事業完了理由書については、新たに応募された研究課題の第2段審査(合議審査)を行う小委員会において、その内容を確認し適否を判断する。

当該小委員会において、その内容が不適切と判断された場合には、新たに応募された研究課題は審査の対象外とする。

② 個別事項

ア 基盤研究(S)

- a 一人又は比較的少人数の研究者で組織する研究計画であって、これまでの研究成果を踏まえて、さらに独創的、先駆的な研究を格段に発展させるための研究課題を選定する。また、採択件数が限られていることから、分科ごとの応募件数等にとらわれず、学術的に真に優れた研究課題を選定する。
- b 研究課題の研究期間は、原則として5年とする。
- c 同一の研究代表者の基盤研究(S)の応募研究課題と基盤研究(A)の応募研究課題については、両方の応募研究課題を比較しつつ採否を検討することは避け、それぞれの応募研究課題が採択に値するかどうかを個別に判断する。

イ 基盤研究(A)(B)(C)

a 審査区分「一般」

- (ア) 独創的、先駆的な研究を格段に発展させるためのもので、特色ある研究を格段に発展させるための研究課題を選定する。
- (イ) 研究課題の研究期間は、3年から5年以内の範囲において、期待される研究成果をあげるための適切な期間とする。
- (ウ) 同一の研究代表者の基盤研究(A)の応募研究課題と基盤研究(S)の応募研究課題については、両方の応募研究課題を比較しつつ採否を検討することは避け、それぞれの応募研究課題が採択に値するかどうかを個別に判断する。

b 審査区分「海外学術調査」

- (ア) 独創的、先駆的な研究を格段に発展させるための研究課題を選定する。
- (イ) 研究の対象及び方法において、主たる目的が、国外の特定地域におけるフィールド調査、観測又は資料収集を行う研究課題を選定する。なお、設備備品の購入は、少額なパソコン等を除き、海外での調査、観測又は資料収集に直接使用するものに限られることに留意する。
- (ウ) 研究課題の研究期間は、3年から5年以内の範囲において、期待される研究成果をあげるための適切な期間とする。
- (エ) 同一の研究代表者の基盤研究(A)の応募研究課題と基盤研究(S)の応募研究課題については、両方の応募研究課題を比較しつつ採否を検討することは避け、それぞれの応募研究課題が採択に値するかどうかを個別に判断する。

c 審査区分「特設分野研究」

- (ア) 特設分野研究における独創的、先駆的な研究を格段に発展させるためのもので、特色ある研究を格段に発展させるための研究課題を選定する。
- (イ) 研究課題の研究期間は、期待される研究成果をあげるための適切な期間とし、募集の1回目は3年から5年、募集の2回目は3年又は4年、募集の3回目は3年とする。
- (ウ) 各分野への配分方法
新規応募研究課題に係る各特設分野毎の配分枠は、文部科学省から示される配分予定額とする。
- (エ) 配分予定額の決定
採択候補研究課題の配分予定額については、書面審査の評価項目の一つである「研究経費の妥当性」の評価結果を踏まえ、合議審査において決定する。

ウ 挑戦的萌芽研究

- a 独創的な発想に基づく、挑戦的で高い目標設定を掲げた芽生え期の研究課題を選定する。
- b 研究課題の研究期間は、3年以内の範囲において、期待される研究成果をあげるための適切な期間とする。

エ 若手研究（A）（B）

- a 新規応募研究課題の開始年度の4月1日現在で39歳以下の研究者が一人で行う研究であって、将来の発展が期待できる優れた着想を持つ研究課題を選定する。
特に若手研究(A)については、従来の研究経過や各研究分野の特性に応じた研究者の研究活動等を考慮し、研究代表者がその研究を遂行し、研究成果をあげることが期待できる研究課題を選定する。
- b 研究課題の研究期間は、2年から4年以内の範囲において、期待される研究成果をあげるための適切な期間とする。

オ 研究活動スタート支援（略）

(3) 科学研究費（挑戦的研究）（略）

(4) 科学研究費（奨励研究）（略）

(5) 研究成果公開促進費（略）

(6) 特別研究員奨励費

- ① 我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ若手研究者を育成するため、独立行政法人日本学術振興会の特別研究員が行う、又は外国人特別研究員が受入研究者と共同して行う、将来の発展が期待できる優れた着想を持つ研究課題を選定する。また、審査に当たっては、研究目的の明確さ、研究計画の独創性等を考慮するとともに、研究成果が期待できる研究課題を選定する。
- ② 研究課題の研究期間は、3年以内の範囲において、期待される研究成果をあげるための適切な期間とする。

(7) 国際共同研究加速基金（帰国発展研究）

- ① 人文学、社会科学から自然科学の各分野にわたって調和を図るとともに、学術研究の実態に適合するようあらかじめ配分方式により算出した専門分野別の配分枠を設けるものとする。
- ② 応募時点において日本国外の研究機関に所属する日本人研究者が、帰国後に日本国内の研究機関に所属し日本を主たる拠点として一人又は複数の研究者で行う研究計画であって、独創的、先駆的な研究を格段に発展させるための研究課題を選定する。
- ③ 研究課題の研究期間は、交付申請した年度から起算して3年目の年度末までとする。
- ④ 採択候補研究課題の配分予定額については、基本的に研究種目ごとに定める充足率に従って決定するが、明らかに問題がある場合には、第1段審査(書面審査)の評価項目の一つである「研究経費の妥当性」の評価結果も踏まえ、第2段審査(合議審査)を行う審査委員が査定する。この際、採択された研究課題の研究が十分遂行し得るよう配慮すること。

(審査の実施体制)

第11条 委員会において行う審査は、次に掲げる部会等において行うものとする。

部会等の名称	審査事項
審査・評価第一部会に置く運営小委員会及び3小委員会	・特別推進研究の研究課題
審査・評価第二部会に置く運営小委員会及び15小委員会	・基盤研究(S)の研究課題
審査第一部会に置く運営小委員会及び19小委員会	・基盤研究(A)(審査区分「一般」)の研究課題 ・基盤研究(B)(審査区分「一般」)の研究課題 ・若手研究(A) ・国際共同研究加速基金(帰国発展研究)の研究課題
審査第一部会に置く4小委員会	・基盤研究(A)(審査区分「海外学術調査」)の研究課題 ・基盤研究(B)(審査区分「海外学術調査」)の研究課題
審査第二部会に置く運営小委員会及び19小委員会	・基盤研究(C)(審査区分「一般」)の研究課題 ・挑戦的萌芽研究の研究課題 ・若手研究(B)の研究課題(応募時に複数細目を選択した研究課題(以下、「複数細目研究課題」という。)を除く)
審査第二部会に置く運営小委員会及び5小委員会	・若手研究(B)の研究課題のうち複数細目研究課題
審査第二部会に置く運営小委員会	・特別研究員奨励費の研究課題
審査第三部会に置く運営小委員会及び8小委員会	・研究活動スタート支援の研究課題
奨励研究部会に置く運営小委員会及び5小委員会	・奨励研究の研究課題
成果公開部会に置く運営小委員会及び1小委員会	・国際情報発信強化の成果公開
成果公開部会に置く運営小委員会及び4小委員会	・研究成果公開発表の成果公開 ・学術図書の成果公開 ・データベースの成果公開

特設分野研究部会に置く運営小委員会及び9小委員会	・基盤研究(B) (審査区分「特設分野研究」)の研究課題 ・基盤研究(C) (審査区分「特設分野研究」)の研究課題
挑戦的研究部会に置く運営小委員会及び65小委員会	・挑戦的研究(開拓)の研究課題 ・挑戦的研究(萌芽)の研究課題

(審査の方法)

第12条 審査の方法は、次のとおりとする。

一 審査・評価第一部会 (略)

二 審査・評価第二部会 (略)

三 審査第一部会

(1) 基盤研究(A)(B)(審査区分「一般」)

① 新規研究課題

〔研究課題の採択決定までの進め方〕

ア 各小委員会は、第1段審査を行う審査委員が個々の研究課題の研究計画調書及び研究進捗評価結果について専門的見地から審査する第1段審査の審査結果を基にして、広い立場から総合的に必要な調整を行うことを主眼として、合議により採択研究課題を決定する。(二段審査制)

イ 第1段審査を行う審査委員は、別添4の評定基準等に基づき、研究計画調書及び研究進捗評価結果により審査を行う。

〔各小委員会等における採択研究課題の決定までの進め方〕

ア 各小委員会は、審査を円滑に進めるため、分科(人文社会系の小委員会にあつては細目)ごとに審査グループを設けることとする。

イ 各審査グループは、配分方式を準用し、「配分枠」を分科(細目)ごとに按分した額を配分目安額として、合議により、採択候補研究課題を選定する。

ウ 各小委員会は、配分方式により算出した研究分野(各小委員会)ごとの「配分枠」を基に採択研究課題を決定する。

エ 各小委員会は、採択研究課題を決定する際に、「配分枠」の範囲内で多くの研究課題を採択するために、採択候補研究課題の充足率を著しく下げるなど、不適切な配分予定額の調整は避ける。

オ 各小委員会は、各審査グループが選定した採択候補研究課題について、全体での合議により必要な調整を行い、採択研究課題を決定する。

カ 各小委員会は、採択研究課題を決定するにあたり、他の研究資金との不合理な重複や過度の研究費の集中の可能性がないか考慮することとする。

② 継続研究課題

〔研究課題の採択決定までの進め方〕

各小委員会は、研究計画の大幅な変更を行おうとする継続研究課題について、合議により採否を決定する。

(2) 基盤研究(A)(B)(審査区分「海外学術調査」) (略)

(3) 若手研究(A)

① 新規研究課題

〔研究課題の採択決定までの進め方〕

ア 各小委員会は、第1段審査を行う審査委員が個々の研究課題の研究計画調書及び研究進捗評価結果について専門的見地から審査する第1段審査の審査結果を基にして、広

い立場から総合的に必要な調整を行うことを主眼として、合議により採択研究課題を決定する。(二段審査制)

ただし、各小委員会が選定する補欠研究課題については、運営小委員会の合議により決定する。

イ 第1段審査を行う審査委員は、別添4の評定基準等に基づき、研究計画調書及び研究進捗評価結果により審査を行う。

〔各小委員会等における採択研究課題の決定までの進め方〕

ア 各小委員会は、審査を円滑に進めるため、分科(人文社会系の小委員会にあつては細目)ごとに審査グループを設けることとする。

イ 各審査グループは、分科(細目)の専門的見地から、合議により、若手研究(A)にふさわしい採択候補研究課題を厳選する。

ウ 各小委員会は、配分方式により算出した研究分野(各小委員会)ごとの「配分枠」を基に、採択研究課題を決定する。

エ 各小委員会は、採択研究課題を決定する際に、「配分枠」の範囲内で多くの研究課題を採択するために採択候補研究課題の充足率を著しく下げるなど、不適切な配分予定額の調整は避ける。

オ 各小委員会は、各審査グループが選定した採択候補研究課題について、全体での合議により必要な調整を行い、採択研究課題を決定する。

なお、「配分枠」の範囲内では採択できないが、若手研究(A)として採択すべき研究課題がある場合には、当該研究課題を補欠研究課題として選定することができる。

カ 各小委員会は、採択研究課題を決定するにあたり、他の研究資金との不合理な重複や過度の研究費の集中の可能性がないか考慮することとする。

キ 運営小委員会は、各小委員会が選定した補欠研究課題について、別に設けられる「配分調整枠」等を基に、合議により、採否を決定する。

なお、その際、各分野間の採択件数のバランスに配慮する。

② 継続研究課題

〔研究課題の採択決定までの進め方〕

各小委員会は、研究計画の大幅な変更を行おうとする継続研究課題について、合議により採否を決定する。

(4) 国際共同研究加速基金(帰国発展研究)

① 新規研究課題

〔研究課題の採択決定までの進め方〕

ア 各小委員会は、第1段審査を行う審査委員が個々の研究課題の研究計画調書について専門的見地から審査する第1段審査の審査結果を基にして、広い立場から総合的に必要な調整を行うことを主眼として、合議により採択候補研究課題を選定する。(二段審査制)

イ 第1段審査を行う審査委員は、別添6の評定基準等に基づき、研究計画調書により審査を行う。

ウ 運営小委員会は、各小委員会が選定した採択候補研究課題について、合議により採択研究課題を決定する。

〔各小委員会等における採択研究課題の決定までの進め方〕

ア 各小委員会は、配分方式により算出した「配分枠」をもとに算出される採択予定件数に基づき、合議により必要な調整を行い、採択候補研究課題を選定する。

イ 運営小委員会は、各小委員会が選定した採択候補研究課題について、配分総額の範囲内で、合議により採択研究課題を決定する。

四 審査第二部会

- (1) 基盤研究（C）、若手研究（B）（複数細目研究課題、審査区分「特設分野研究」を除く）

① 新規研究課題

〔研究課題の採択決定までの進め方〕

ア 各小委員会は、第1段審査を行う審査委員が個々の研究課題の研究計画調書及び研究進捗評価結果について専門的見地から審査する第1段審査の審査結果を基にして、広い立場から総合的に必要な調整を行うことを主眼として、合議により採択研究課題を決定する。（二段審査制）

イ 第1段審査を行う審査委員は、別添4の評定基準等に基づき、研究計画調書及び研究進捗評価結果により審査を行う。

〔各小委員会における採択研究課題の決定までの進め方〕

ア 各小委員会は、審査を円滑に進めるため、分科（人文社会系の小委員会にあつては細目）ごとに審査グループを設けることとする。

イ 各審査グループは、配分方式により算出した研究分野（各小委員会）ごとの「配分枠」と「平均応募額」等により算出される採択予定件数に基づき、合議により採択候補研究課題を選定する。

ウ 各審査グループは、「配分枠」のボーダーライン付近にある応募研究課題の中から、「私立学校・高等専門学校調整枠」により採択する研究課題を選定する。

エ 各小委員会は、各審査グループが選定した採択候補研究課題について、次のa～cに該当する場合には、全体での合議を行い、採択研究課題を決定する。

a 第1段審査の結果を大幅に覆して採否を決定する場合

b 研究計画調書に記載された研究経費を大幅に減額して採択する場合

c その他、各小委員会が小委員会全体での合議が必要であると判断する場合

オ 各小委員会は、上記「エ」の合議を行う必要がないと判断した場合には、各審査グループの合議の結果に基づき、採択研究課題を決定する。

カ 各小委員会は、採択研究課題を決定するにあたり、他の研究資金との不合理な重複や過度の研究費の集中の可能性がないか考慮することとする。

〔各研究課題への配分額の調整〕

ア 各研究課題への配分額については、配分額に関する審査結果を踏まえた上で、配分総額が「配分枠」の範囲となるように、各小委員会における採択研究課題全体の平均充足率を調整することにより算出される額とする。

イ 運営小委員会は、上記「ア」の調整の結果、特定の小委員会の採択研究課題全体の平均充足率が、他の小委員会の採択研究課題全体の平均充足率と比較し著しく低いと判断した場合には、配分方式により算出される専門分野別の「配分枠」とは別に設けられる「配分調整枠」により各小委員会の採択研究課題全体の平均充足率に著しい不均衡が生じないように調整を行う。

② 継続研究課題

〔研究課題の採択決定までの進め方〕

各小委員会は、研究計画の大幅な変更を行おうとする継続研究課題について、合議により採否を決定する。

- (2) 若手研究（B）（複数細目研究課題）

① 新規研究課題

〔研究課題の採択決定までの進め方〕

ア 各小委員会は、第1段審査を行う審査委員が個々の研究課題の研究計画調書及び研

究進捗評価結果について専門的見地から審査する第1段審査の審査結果を基にして、広い立場から総合的に必要な調整を行うことを主眼として、合議により採択研究課題を決定する。(二段審査制)

イ 第1段審査を行う審査委員は、別添4の評定基準等に基づき、研究計画調書及び研究進捗評価結果により審査を行う。

〔各小委員会における採択研究課題の決定までの進め方〕

ア 各系小委員会(複数細目小委員会を除く4小委員会。)は、審査を円滑に進めるため、分野ごとに審査グループを設けることとする。

イ 同一分野内の複数細目を選択した研究課題については、配分方式により算出した研究分野(各系小委員会)ごとの「配分枠」と「平均応募額」等により算出される採択予定件数に基づき、各審査グループで採択候補研究課題を選定し、小委員会全体での合議により、各系小委員会において採択研究課題を決定する。

ウ 分野を超えた同一系内の複数細目を選択した研究課題については、配分方式により算出した研究分野(各系小委員会)ごとの「配分枠」を基に算出される採択予定件数に基づき、小委員会全体での合議により、各系小委員会において採択研究課題を決定する。

エ 系を超えた複数細目を選択した研究課題については、配分方式により算出した複数細目小委員会の「配分枠」を基に算出される採択予定件数に基づき、小委員会全体での合議により、複数細目小委員会において採択研究課題を決定する。

オ 各小委員会は、採択研究課題を決定するにあたり、次のa～cに該当する場合には留意することとする。

a 第1段審査の結果を大幅に覆して採否を決定する場合

b 研究計画調書に記載された研究経費を大幅に減額して採択する場合

c その他、各小委員会が小委員会全体での合議が必要であると判断する場合

カ 各小委員会は、採択研究課題を決定するにあたり、他の研究資金との不合理な重複や過度の研究費の集中の可能性がないか考慮することとする。

〔各研究課題への配分額の調整〕

ア 各研究課題への配分額については、配分額に関する審査結果を踏まえた上で、配分総額が「配分枠」の範囲となるように、各小委員会における採択研究課題全体の平均充足率を調整することにより算出される額とする。

イ 運営小委員会は、上記「ア」の調整の結果、特定の小委員会の採択研究課題全体の平均充足率が、他の小委員会の採択研究課題全体の平均充足率と比較し著しく低いと判断した場合には、配分方式により算出される専門分野別の「配分枠」とは別に設けられる「配分調整枠」により各小委員会の採択研究課題全体の平均充足率に著しい不均衡が生じないように調整を行う。

② 継続研究課題

〔研究課題の採択決定までの進め方〕

各小委員会は、研究計画の大幅な変更を行おうとする継続研究課題について、合議により採否を決定する。

(3) 挑戦的萌芽研究

〔継続研究課題の採択決定までの進め方〕

各小委員会は、研究計画の大幅な変更を行おうとする継続研究課題について、合議により採否を決定する。

(4) 特別研究員奨励費

〔研究課題の採択決定までの進め方〕

運営小委員会は、次の評定要素に着目しつつ、総合的な判断の上、合議により採択研究課題を決定する。

【評定要素】

- ・研究目的は具体的かつ明確に設定されているか。
- ・研究計画及び研究方法は独創的なものであるか。
- ・研究計画は十分に練られ、その進め方が着実なものとなっているか。
- ・研究計画に照らし、研究経費の内容が適切であるか。

五 審査第三部会 (略)

六 奨励研究部会 (略)

七 成果公開部会 (略)

八 特設分野研究部会 (略)

九 挑戦的研究部会 (略)

(審査結果の開示)

第13条

一 特別推進研究 (略)

二 基盤研究 (S) (略)

三 基盤研究 (A・B・C) (審査区分「特設分野研究」を除く)、若手研究 (A・B)、研究活動スタート支援

採択されなかった研究代表者のうち、応募時に第1段審査の結果の開示を希望した者に対して、1)応募細目における採択されなかった研究課題全体の中での細目(分野)におけるおおよその順位、2)評定要素ごとの審査結果、3)その他の評価項目の評定結果を開示する。

複数細目研究課題については、1)同一分野内の複数細目を選択した研究課題、分野を超えた同一系内の複数細目を選択した研究課題又は系を超えた複数細目を選択した研究課題における採択されなかった研究課題全体の中でのおおよその順位、2)それぞれの細目の評定要素ごとの審査結果、3)その他の評価項目の評定結果を開示する。

四 挑戦的研究 (略)

五 奨励研究 (略)

六 国際情報発信強化 (略)

七 研究成果公開発表、学術図書、データベース (略)

八 基盤研究 (B・C) (審査区分「特設分野研究」) (略)

九 国際共同研究加速基金 (帰国発展研究)

採択されなかった研究代表者のうち、応募時に第1段審査の結果の開示を希望した者に対して、1)応募細目における採択されなかった研究課題全体の中での細目(分野)におけるおおよ

その順位、2) 評定要素ごとの審査結果、3) その他の評価項目の評定結果を開示する。

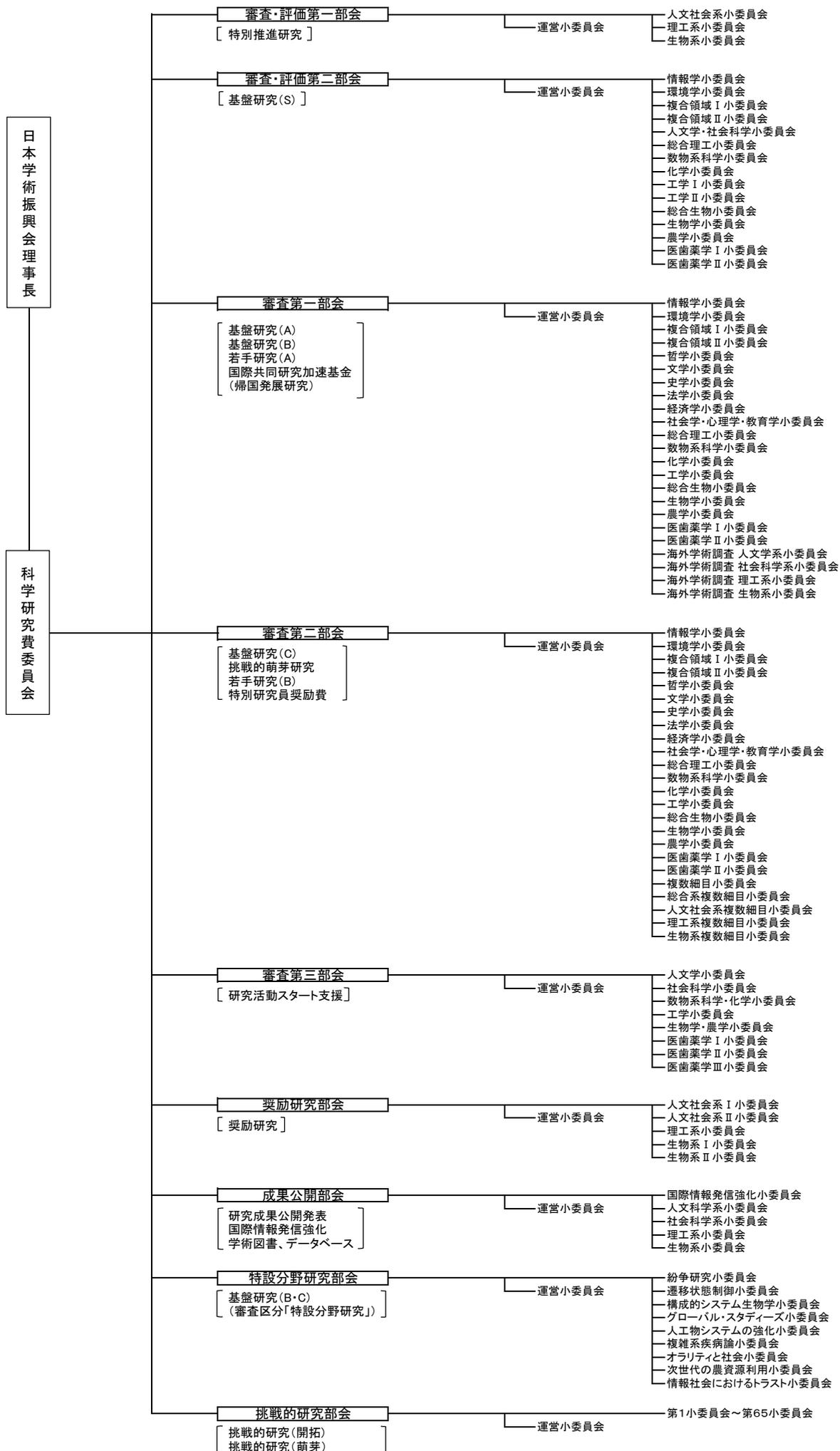
第3章 研究進捗評価 (略)

第4章 中間評価 (略)

第5章 追跡評価 (略)

科学研究費委員会組織図

別添1



科学研究費助成事業配分方式

(基盤研究 (B・C) (審査区分「特設分野研究」)、「奨励研究」、「研究成果公開促進費」、「特別研究員奨励費」を除く。)

○基盤研究 (S・A・B)、若手研究 (A)、研究活動スタート支援の専門分野毎の配分枠

$$(B - A) \times \frac{a + b}{2}$$

(注) 要素： A = 当該研究種目 (審査区分) の継続の研究課題の本年度分の内約額
 B = 当該研究種目 (審査区分) の本年度配分予定額
 a = 当該研究種目 (審査区分) の本年度新規応募研究経費 (継続研究課題の増額申請分を含む) (C) に対する当該専門分野に係る本年度新規応募研究経費 (継続研究課題の増額申請分を含む) (D) の構成比 [D / C]
 b = 当該研究種目 (審査区分) の本年度新規応募研究課題数 (E) に対する当該専門分野に係る本年度新規応募研究課題数 (F) の構成比 [F / E]

○基盤研究 (C)、挑戦的萌芽研究、若手研究 (B)、国際共同研究加速基金 (帰国発展研究)、挑戦的研究の専門分野毎の配分枠

$$A \times \frac{a + b}{2}$$

(注) 要素： A = 当該研究種目の全研究期間の配分予定額
 a = 当該研究種目の全研究期間の新規応募研究経費 (C) に対する当該専門分野に係る全研究期間の新規応募研究経費 (D) の構成比 [D / C]
 b = 当該研究種目の新規応募研究課題数 (E) に対する当該専門分野に係る新規応募研究課題数 (F) の構成比 [F / E]

※ 「挑戦的研究」の配分においては、「当該研究種目」を「挑戦的研究 (開拓)」、「挑戦的研究 (萌芽)」と読み替えるものとする。

基盤研究（A・B・C）（審査区分「一般」）、若手研究（A・B）の 第1段審査における評価基準等

科学研究費助成事業（科研費）は、全ての研究分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる学術研究を格段に発展させることを目的とするものです。配分審査にあたって、各審査委員は、応募研究課題について、この目的に大きく寄与するかどうかを適切かつ公正に判断することが求められます。

第1段審査においては、各研究課題について、以下の研究内容、研究計画等に関する個別の評価要素に関する絶対評価を行った上で、最終的に、5段階による総合評点を相対的な評価に基づいて付すこととします。

なお、各評価要素ごとに行う絶対評価において、「2 やや不十分である」又は「1 不十分である」を付した場合には、当該評価要素のいずれの項目について「やや不十分である」又は「不十分である」と判断したか、その理由を選択することとします。この選択された項目については、第2段審査において審査委員に示すとともに、不採択者のうち第1段審査結果の開示を希望した者にも開示します。

第2段審査では、第1段審査における総合評点の素点とTスコア（平均点と標準偏差により審査委員ごとの素点のばらつきを補正した数値）化した評点を基に、個別の評価要素の評点や応募状況等を適切に勘案して、研究課題の採否及び研究費の配分額を決定します。

審査にあたり、高い総合評点を付す研究課題は、必ずしも、全ての個別要素において高い評価を得た研究課題である必要はありません。例えば、特段に独創的、革新的な研究課題ではないが、学術的・社会的に大きな波及効果が期待できるものなどがこれにあたります。

研究分野の特性など、学術研究の多様性に配慮しつつ、幅広く重要な研究を見だし、学術研究が進展するよう、適切な評価を行ってください。

また、利害関係にある研究者が研究組織に参加している応募研究課題（第8条の一参照）の審査は行わないでください。

「基盤研究」や「若手研究」の性格は、研究者が、これまでの研究経過等を踏まえ、さらに研究を進展させ、大きな成果を挙げられるよう支援することです。したがって、第1段審査では、以下に述べる6つの要素を中心に評価を行い、それに基づく、研究課題の採否に関する各審査委員の判断を第2段審査を行う審査委員に的確に示すことを念頭に審査を行ってください。

i 評価基準

〔評価要素〕 () 内は、研究計画調書における参照箇所を示します。

(1) 研究課題の学術的重要性・妥当性 (「研究経費」、「研究目的」欄など)

- ・学術的に見て、推進すべき重要な研究課題であるか。
- ・研究構想や研究目的が具体的かつ明確に示されているか。
- ・応募額の規模に見合った研究上の意義が認められるか。

評点区分	評 定 基 準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

(2) 研究計画・方法の妥当性 (「研究計画・方法」、「研究経費の妥当性・必要性」欄など)

- ・研究目的を達成するため、研究計画は十分練られたものになっているか。
- ・研究計画を遂行する上で、当初計画どおりに進まないときの対応など、多方面からの検討状況は考慮されているか。
- ・研究期間は妥当なものか。
- ・経費配分は妥当なものか。
- ・研究代表者が職務として行う研究、または別に行う研究がある場合には、その研究内容との関連性及び相違点が示されているか。
- ・公募の対象としていない以下のような研究計画に該当しないか。
 - ①単に既製の研究機器の購入を目的とした研究計画
 - ②他の経費で措置されるのがふさわしい大型研究装置等の製作を目的とする研究計画
 - ③商品・役務の開発・販売等を直接の目的とする研究計画 (商品・役務の開発・販売等に係る市場動向調査を含む。)
 - ④業として行う受託研究

(「研究計画最終年度前年度の応募研究課題」のみ該当)

- ・研究計画最終年度前年度の応募研究課題については、研究が当初計画どおり順調に推進された上で、その成果が今回再構築された研究計画に十分生かされているか。また、今回応募された研究を推進することによって、格段の研究発展が見込まれるものであるか。
なお、研究課題の審査にあたっては、新規応募研究課題と同一の基準で行ってください。

評点区分	評 定 基 準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

(3) 研究課題の独創性及び革新性（「研究目的」、「研究計画・方法」欄）

- ・研究対象、研究手法やもたらされる研究成果等について、独創性や革新性が認められるか。

評点区分	評 定 基 準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

(4) 研究課題の波及効果及び普遍性（「研究目的」、「研究計画・方法」欄）

- ・当該研究分野もしくは関連研究分野の進展に対する大きな貢献、新しい学問分野の開拓等、学術的な波及効果が期待できるか。
- ・科学技術、産業、文化など、幅広い意味で社会に与えるインパクト・貢献が期待できるか。

評点区分	評 定 基 準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

(5) 研究遂行能力及び研究環境の適切性（「研究組織」、「研究計画・方法」、「研究業績」、「これまでに受けた研究費とその成果等」、「今回の研究計画を実施するに当たっての準備状況及び研究成果を社会・国民に発信する方法」欄など）

- ・これまでに受けた研究費とその研究成果を評価し、これまでの研究業績等から見て、研究計画に対する高い遂行能力を有していると判断できるか。
- ・複数の研究者で研究組織を構成する研究課題にあつては、組織全体としての研究遂行能力は十分に高いか、また各研究分担者は十分大きな役割を果たすと期待されるか。
- ・研究計画の遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等、研究環境は整っているか。
- ・研究課題の成果を社会・国民に発信する方法等は考慮されているか。

評点区分	評 定 基 準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

(6) 研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性（「研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性」欄及び「平成27年度又は平成28年度研究進捗評価結果表」）（該当する研究課題のみ）

- ・研究進捗評価結果を踏まえ、更に発展することが期待できるものとなっているか。

評点区分	評 定 基 準
4	更に格段の発展が期待できる
3	更に発展が期待できる
2	更なる発展はあまり期待できない
1	更なる発展はほとんど期待できない
—	研究進捗評価を受けた研究課題との関連性はない別個の研究課題である

〔総合評点〕

各研究課題の採択について、上記の評定要素に関する評価結果を参考に、下表の基準に基づいて、5段階評価を行い、総合評点を付してください。

その際、絶対評価を基本としつつも、研究種目・区分ごとに担当する研究課題全体の中で、下表右欄の評点分布を目安として評点を付すこととし、評点の偏った評価とならないようにしてください。（担当研究課題数が少ない場合は、この限りではありません。）

なお、「利害関係」にあたる研究課題の場合は「利害関係の理由」欄に理由を記入してください。

評点区分	評 定 基 準	評点分布 の目安
5	非常に優れた研究提案であり、最優先で採択すべき	10%
4	優れた研究提案であり、積極的に採択すべき	20%
3	優れた研究内容を含んでおり、採択してもよい	40%
2	採択するには研究内容等にやや不十分な点があり、採択の優先度が低い	20%
1	採択するには研究内容等に不十分な点があり、採択を見送ることが適当である	10%
—	利害関係があるので判定できない	—

〔審査意見の記入〕

第2段審査において、第1段審査の結果を適切に反映させるために、審査意見は非常に重要です。

「審査意見」欄には、全ての研究課題について、当該研究課題の長所と短所を中心とした審査意見を必ず記入してください。

なお、審査意見を記入していなければ、評点を採用しない場合があります。

(参考) 平成28年度新規採択研究課題の採択率

基盤研究 (A) (一般)	24.7%
基盤研究 (B) (一般)	25.3%
基盤研究 (C) (一般)	29.9%
若手研究 (A)	24.6%
若手研究 (B)	30.1%

ii その他の評価項目

研究経費の妥当性（「研究経費の妥当性・必要性」欄など）

科研費の効果的・効率的配分を図る観点から、研究経費の妥当性・必要性について以下の点を考慮し、下記の評定区分により、評定をしてください。（「（空白）」以外の評定区分は、各評定基準の記載内容に明らかに該当すると判断する場合。）

なお、「△」又は「×」の評定をする場合は、その判断に至った根拠を具体的に「コメント」欄に記入してください。

- ・研究経費の内容は妥当であり、有効に使用されることが見込まれるか。
- ・設備備品の購入経費等は研究計画遂行上真に必要なものが計上されているか。
- ・研究設備の購入経費、旅費又は人件費・謝金のいずれかの経費が90%を超えて計上されている場合には、研究計画遂行上有効に使用されることが見込まれるか。

評定区分	評 定 基 準 (評定に当たっては、欄外「配分状況」を参考にしてください)
(空白)	平均的な充足率であれば当該研究の遂行が可能である
○	研究計画の内容から判断し、充足率を高くすることが望ましい
△	研究計画の内容から判断し、充足率を低くすることが望ましい
×	研究経費の内容に問題がある

(参考) 平成28年度配分状況（新規採択研究課題の平均充足率）

基盤研究 (A) (一般)	72.2%
基盤研究 (B) (一般)	71.1%
基盤研究 (C) (一般)	72.4%
若手研究 (A)	67.6%
若手研究 (B)	61.9%

iii 留意事項

(1) 「人権の保護及び法令等の遵守への対応」欄の取扱いについて

研究計画の遂行において人権保護や法令等の遵守が必要とされる研究課題については、関連する法令等に基づき、研究機関内外の倫理委員会等の承認を得るなど必要な手続き・対策等を行った上で、研究計画を実施することとなります。このため、第一段審査の評価項目として考慮する必要はありません。

なお、研究を実施するに当たり所定の手続き・対策等に不十分な点が見受けられるなど研究機関に対して予め指摘が必要と考える場合には、その考えに至った根拠を具体的に「コメント」欄に記入してください。

また、「本項目に該当しない」又は「特段の問題はない（判断できない場合も含む。）」場合には、「コメント」欄への記入は不要です。

（２）「研究費の応募・受入等の状況・エフォート」欄の取扱いについて

他の研究課題の受入・応募等の状況については、第２段審査において「研究資金の不合理的な重複や過度の集中にならず、研究課題が十分遂行し得るかどうか」を判断する際の参考とすることとしています。このため、第１段審査においては考慮しないでください。

（３）「エフォート」欄の取扱いについて

エフォート（研究代表者又は研究分担者の全仕事時間に対する当該研究課題の実施に要する時間の割合）については、第２段審査において「研究課題が十分遂行し得るかどうか」を判断する際の参考とすることとしています。このため、第１段審査においては考慮しないでください。

国際共同研究加速基金（帰国発展研究）の第1段審査における評価基準等

科学研究費助成事業（科研費）は、全ての研究分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる学術研究を格段に発展させることを目的とするものです。配分審査にあたって、各審査委員は、応募研究課題について、この目的に大きく寄与するかどうかを適切かつ公正に判断することが求められます。

第1段審査においては、各研究課題について、以下の研究内容、研究計画等に関する個別の評価要素に関する絶対評価を行った上で、最終的に、5段階による総合評点を相対的な評価に基づいて付すこととします。

なお、各評価要素ごとに行う絶対評価において、「2 やや不十分である」又は「1 不十分である」を付した場合には、当該評価要素のいずれの項目について「やや不十分である」又は「不十分である」と判断したか、その理由を選択することとします。この選択された項目については、第2段審査において審査委員に示すとともに、不採択者のうち第1段審査結果の開示を希望した者にも開示します。

第2段審査では、第1段審査における総合評点の素点とTスコア（平均点と標準偏差により審査委員ごとの素点のばらつきを補正した数値）化した評点を基に、個別の評価要素の評点や応募状況等を適切に勘案して、研究課題の採否及び研究費の配分額を決定します。

審査にあたり、高い総合評点を付す研究課題は、必ずしも、全ての個別要素において高い評価を得た研究課題である必要はありません。例えば、特段に独創的、革新的な研究課題ではないが、学術的・社会的に大きな波及効果が期待できるものなどがこれにあたります。

研究分野の特性など、学術研究の多様性に配慮しつつ、幅広く重要な研究を見だし、学術研究が進展するよう、適切な評価を行ってください。

また、利害関係にある研究者が研究組織に参加している応募研究課題（第8条の一参照）の審査は行わないでください。

国際共同研究加速基金（帰国発展研究）の性格は、日本国外の研究機関に所属する日本人研究者が、これまでの研究経過等を踏まえ、日本を主たる拠点として、さらに研究を発展させ、大きな成果を挙げられるよう支援することです。したがって、第1段審査では、以下に述べる5つの要素を中心に評価を行い、それに基づく、研究課題の採否に関する各審査委員の判断を第2段審査を行う審査委員に的確に示すことを念頭に審査を行ってください。

i 評定基準

〔評定要素〕 () 内は、研究計画調書における参照箇所を示します。

(1) 研究課題の学術的重要性・妥当性 (「研究経費」、「研究目的」欄など)

- ・学術的に見て、推進すべき重要な研究課題であるか。
- ・研究構想や研究目的が具体的かつ明確に示されているか。
- ・応募額の規模に見合った研究上の意義が認められるか。

評点区分	評 定 基 準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

(2) 研究計画・方法の妥当性 (「研究計画・方法」、「研究経費の妥当性・必要性」欄など)

- ・研究目的を達成するため、研究計画は十分練られたものになっているか。
- ・研究計画を遂行する上で、当初計画どおりに進まないときの対応など、多方面からの検討状況は考慮されているか。
- ・研究期間は妥当なものか。
- ・経費配分は妥当なものか。
- ・公募の対象としていない以下のような研究計画に該当しないか。
 - ①単に既製の研究機器の購入を目的とした研究計画
 - ②他の経費で措置されるのがふさわしい大型研究装置等の製作を目的とする研究計画
 - ③商品・役務の開発・販売等を直接の目的とする研究計画 (商品・役務の開発・販売等に係る市場動向調査を含む。)
 - ④業として行う受託研究

評点区分	評 定 基 準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

(3) 研究課題の独創性及び革新性（「研究目的」、「研究計画・方法」欄）

- ・ 研究対象、研究手法やもたらされる研究成果等について、独創性や革新性が認められるか。

評点区分	評 定 基 準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

(4) 研究課題の波及効果及び普遍性（「研究目的」、「研究計画・方法」欄）

- ・ 当該研究分野もしくは関連研究分野の進展に対する大きな貢献、新しい学問分野の開拓等、学術的な波及効果が期待できるか。
- ・ 科学技術、産業、文化など、幅広い意味で社会に与えるインパクト・貢献が期待できるか。

評点区分	評 定 基 準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

(5) 研究遂行能力の適切性（「研究組織」、「研究計画・方法」、「研究業績」、「これまでに海外で交付を受けた研究費とその成果等」、「今回の研究計画を実施するに当たっての準備状況及び研究成果を社会・国民に発信する方法」欄など）

- ・ これまでに受けた研究費とその研究成果を評価し、これまでの研究業績等から見て、研究計画に対する高い遂行能力を有していると判断できるか。
- ・ 日本を主たる拠点として活動するまでの間に必要な準備を進めているか。
- ・ 研究課題の成果を社会・国民に発信する方法等は考慮されているか。

評点区分	評 定 基 準
4	優れている
3	良好である
2	やや不十分である
1	不十分である

〔総合評点〕

各研究課題の採択について、上記の評定要素に関する評価結果を参考に、下表の基準に基づいて、5段階評価を行い、総合評点を付してください。

その際、絶対評価を基本としつつも、研究種目・区分ごとに担当する研究課題全体の中で、下表右欄の評点分布を目安として評点を付すこととし、評点の偏った評価とならないようにしてください。（担当研究課題数が少ない場合は、この限りではありません。）

なお、「利害関係」にあたる研究課題の場合は「利害関係の理由」欄に理由を記入してください。

評点区分	評 定 基 準	評点分布 の目安
5	非常に優れた研究提案であり、最優先で採択すべき	10%
4	優れた研究提案であり、積極的に採択すべき	20%
3	優れた研究内容を含んでおり、採択してもよい	40%
2	採択するには研究内容等にやや不十分な点があり、採択の優先度が低い	20%
1	採択するには研究内容等に不十分な点があり、採択を見送ることが適当である	10%
—	利害関係があるので判定できない	—

〔審査意見の記入〕

第2段階審査において、第1段階審査の結果を適切に反映させるために、審査意見は非常に重要です。

「審査意見」欄には、全ての研究課題について、当該研究課題の長所と短所を中心とした審査意見を必ず記入してください。

なお、審査意見を記入していなければ、評点を採用しない場合があります。

(参考) 平成27年度新規採択研究課題の採択率

国際共同研究加速基金（帰国発展研究） 31.1%

ii その他の評価項目

研究経費の妥当性（「研究経費の妥当性・必要性」欄など）

科研費の効果的・効率的配分を図る観点から、研究経費の妥当性・必要性について以下の点を考慮し、下記の評定区分により、評定をしてください。（「(空白)」以外の評定区分は、各評定基準の記載内容に明らかに該当すると判断する場合。）

なお、「△」又は「×」の評定をする場合は、その判断に至った根拠を具体的に「コメント」欄に記入してください。

- ・研究経費の内容は妥当であり、有効に使用されることが見込まれるか。
- ・設備備品の購入経費等は研究計画遂行上真に必要なものが計上されているか。
- ・研究設備の購入経費、旅費又は人件費・謝金のいずれかの経費が90%を超えて計上されている場合には、研究計画遂行上有効に使用されることが見込まれるか。

評定区分	評 定 基 準 (評定に当たっては、欄外「配分状況」を参考にしてください)
(空白)	平均的な充足率であれば当該研究の遂行が可能である
○	研究計画の内容から判断し、充足率を高くすることが望ましい
△	研究計画の内容から判断し、充足率を低くすることが望ましい
×	研究経費の内容に問題がある

(参考) 平成27年度配分状況(新規採択研究課題の平均充足率)
国際共同研究加速基金(帰国発展研究) 87.7%

iii 留意事項

「人権の保護及び法令等の遵守への対応」欄の取扱いについて

研究計画の遂行において人権保護や法令等の遵守が必要とされる研究課題については、関連する法令等に基づき、研究機関内外の倫理委員会等の承認を得るなど必要な手続き・対策等を行った上で、研究計画を実施することとなります。このため、第一段審査の評価項目として考慮する必要はありません。

なお、研究を実施するに当たり所定の手続き・対策等に不十分な点が見受けられるなど研究機関に対して予め指摘が必要と考える場合には、その考えに至った根拠を具体的に「コメント」欄に記入してください。

また、「本項目に該当しない」又は「特段の問題はない(判断できない場合も含む。)」場合には、「コメント」欄への記入は不要です。

1. 研究種目（審査区分）の目的・性格	35
（平成29年度公募要領より）	
2. 審査機構図（抜粋）	37
3. 平成29年度科学研究費助成事業 系・分野・分科・細目表	38
（平成29年度公募要領より）	

1 研究種目(審査区分)の目的・性格

(平成29年度公募要領より)

(1)基盤研究(A・B・C)

ア) 対象：一人又は複数の研究者で組織する研究計画であって、独創的、先駆的な研究を格段に発展させるための研究計画

イ) 応募総額：応募総額により次の3種類に区分

基盤研究(A) 2,000万円以上 5,000万円以下

基盤研究(B) 500万円以上 2,000万円以下

基盤研究(C) 500万円以下

ウ) 研究期間：3～5年間

(2)若手研究(A・B)

ア) 対象：平成29年4月1日現在で39歳以下の研究者(昭和52年4月2日以降に生まれた者)が一人で行う研究計画であって、将来の発展が期待できる優れた着想を持つ研究計画

イ) 応募総額：応募総額により次の2種類に区分

若手研究(A) 500万円以上 3,000万円以下

若手研究(B) 500万円以下

ウ) 研究期間：2～4年間

(3)国際共同研究加速基金(帰国発展研究)

(平成28年度公募要領より)

ア) 趣旨：海外の研究機関等において、優れた研究実績を重ねた「独立した研究者(PI: Principal Investigator)」が、日本に帰国後すぐに研究を開始できるよう、研究費を支援するものです。

当該研究者が日本を主たる拠点として研究を実施することにより、当該研究者を通じた外国人研究者との連携等による日本の研究活動の活性化に資するとともに、帰国直後の研究費支援があることで若手研究者の海外挑戦の後押しにつながることも期待しています。

イ) 対象：下記の応募資格を有する日本国外の研究機関に所属する日本人研究者が、帰国後に日本国内の研究機関(注1)に所属し日本を主たる拠点(注2)として一人又は複数の研究者で行う研究計画であって、独創的、先駆的な研究を格段に発展させるための研究計画

ウ) 応募資格：応募時点において、

①日本国外の研究機関に教授、准教授又はそれに準ずる身分(ポストドクターを除く)を有し、所属している者であること

②現に日本国外に居住する日本国籍を有する者であること

③科研費応募資格を有していない者であること

エ) 応募総額：5,000万円以下

オ) 研究期間：3年以内(研究期間は交付申請した年度から起算して3年目の年度末までとします。また、日本国内の研究機関に所属し科研費の応募資格を取得した場合に平成30年4月30日までに交付申請を行うことができます。)

なお、交付申請後から経費を執行することができます(採択(条件付

交付内定（注3）以降、直ちに経費を執行することはできません）。

<留意事項>

- ① 応募時点において帰国後の所属先が確定していなくても応募することができます。
- ② 平成30年4月30日までに交付申請を行うことができない場合（日本国内の研究機関（注1）において産前産後の休暇又は育児休業を取得することに伴い交付申請を留保する場合を除く）には、条件付交付内定を取り消します。
- ③ 交付申請にあたっては、日本を主たる拠点として研究を遂行するために、教授、准教授相当（ポストドクターは除く）として日本国内の研究機関（注1）に所属することが必要です。
- ④ 国際共同研究加速基金（帰国発展研究）の受給は1回限りとします。

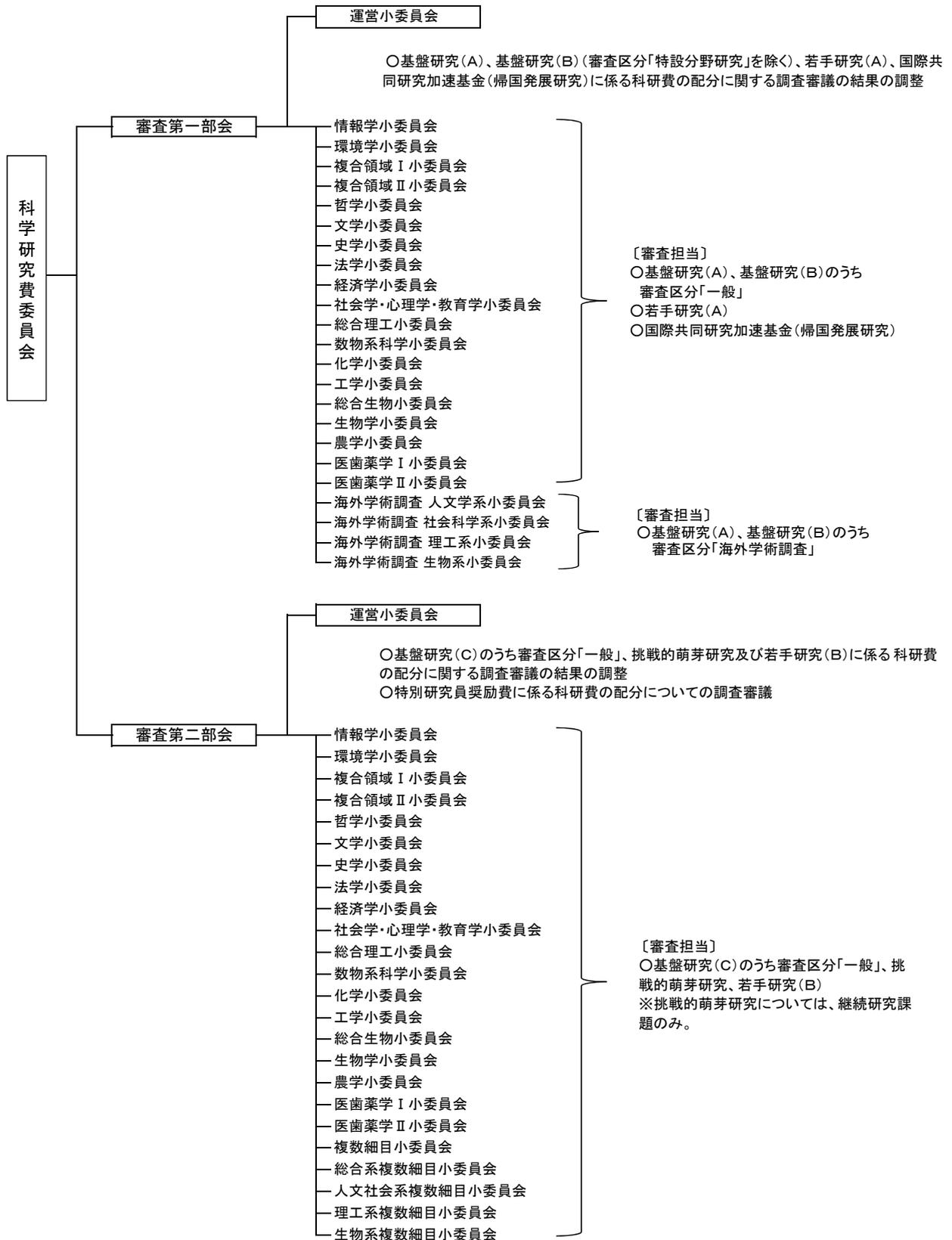
（注1） 帰国後に所属する研究機関は、科学研究費補助金取扱規程（文部省告示）第2条に規定される研究機関であることが必要です。

（注2） 海外の研究機関とのクロスアポイントメント等、海外の研究機関において引き続き研究を遂行することについて直ちに妨げませんが、交付申請時に、全仕事時間に対する日本の所属研究機関における職務の割合が、少なくとも概ね50%程度であることを確認します。明らかに満たさない場合は研究費を交付しないことがあります。

（注3） 審査を経て研究課題が採択となった場合に、「条件付交付内定」が行われます。その際、「日本国内の研究機関に所属し、科研費の応募資格を取得すること」という条件を満たした場合には研究機関を通じ、平成30年4月30日を期限として随時交付申請を行うことができます。

2 審査機構図(抜粋)

◇基盤研究(A・B・C)(審査区分「特設分野研究」を除く)、挑戦的萌芽研究(継続研究課題のみ)、若手研究(A・B)及び国際共同研究加速基金(帰国発展研究)の第2段審査(合議審査)は、科学研究費委員会審査第一部会または審査第二部会において、次表のとおり、専門分野ごとに小委員会を設けて行います。



3 系・分野・分科・細目表

(1)平成29年度科学研究費助成事業 系・分野・分科・細目表

備考欄において、「A」、「B」又は「C」が付されている細目は、全ての研究種目(審査区分「海外学術調査」を除く。)において、キーワードにより分割されたグループごとに第1段審査を行うので、これらの細目に応募する場合には、「系・分野・分科・細目表」付表キーワード一覧(43頁～62頁参照)により、必ず「A」、「B」又は「C」を選択し、応募してください。

「※」の表示のある細目は、基盤研究(C)(審査区分「一般」)において、キーワードにより分割されたグループごとに第1段審査を行うので、基盤研究(C)(「審査区分「一般」)で、これらの細目に応募する場合には、「系・分野・分科・細目表」付表キーワード一覧により、必ず「1」～「5」の分割番号を選択し、応募してください。また、「A」と「※」が併記されている細目は、必ず「A」を選択した後、「1」又は「2」の分割番号を選択し応募してください。

基盤研究(C)(審査区分「一般」)については、審査希望分野として、本表のほか「時限付き分科細目表」(63頁参照)に掲げる細目を設定しています。

系	分野	分科	細目名	細目番号	備考	系	分野	分科	細目名	細目番号	備考
総合系	情報学基礎		情報学基礎理論	1001		総合系	デザイン学	デザイン学	デザイン学	1651	
			数理情報学	1002				生活科学	家政・生活学一般	1701	
			統計科学	1003					衣・住生活学	1702	
	計算基盤		計算機システム	1101				科学教育・教育工学	食生活学	1703	A
			ソフトウェア	1102							B
			情報ネットワーク	1103							C
			マルチメディア・データベース	1104				科学教育	1801	※	
			高性能計算	1105				教育工学	1802	※	
	人間情報学		情報セキュリティ	1106				科学社会学・科学技術史	1901		
			認知科学	1201				文化財科学・博物館学	文化財科学・博物館学	2001	A
			知覚情報処理	1202						B	
			ヒューマンインタフェース・インタラクション	1203			地理学	2101			
			知能情報学	1204			社会・安全システム科学	社会システム工学・安全システム	2201	A	
			ソフトコンピューティング	1205						B	
			知能ロボティクス	1206			自然災害科学・防災学	2202	A		
	感性情報学	1207					B				
	情報学フロンティア		生命・健康・医療情報学	1301			人間医工学	生体医工学・生体材料学	2301	A	
			ウェブ情報学・サービス情報学	1302	A						B
			図書館情報学・人文社会情報学	1303				A	医用システム	2302	
								B	医療技術評価学	2303	
			学習支援システム	1304				リハビリテーション科学・福祉工学	2304	A※	
			エンタテインメント・ゲーム情報学	1305						B	
	環境学	環境解析学		環境動態解析	1401			健康・スポーツ科学	身体教育学	2401	A
				放射線・化学物質影響科学	1402		A				B
				環境影響評価	1403				スポーツ科学	2402	A※
		環境保全学		環境技術・環境負荷低減	1501					B	
				環境モデリング・保全修復技術	1502			応用健康科学	2403	A※	
				環境材料・リサイクル	1503					B	
				環境リスク制御・評価	1504			子ども学	2451		
		環境創成学		自然共生システム	1601			生体分子科学	子ども学(子ども環境学)	2501	
持続可能システム				1602		生物分子化学	2501				
環境政策・環境社会システム				1603		ケミカルバイオロジー	2502				
脳科学		基盤・社会脳科学	2601	A	脳計測科学	基盤・社会脳科学	2601	A			
				B				B			
						脳計測科学	2602				

系	分野	分科	細目名	細目番号	備考	
人 文 社 会 系	総合 人文 社会	地域研究	地域研究	2701		
		ジェンダー	ジェンダー	2801		
		観光学	観光学	2851		
	哲学		哲学・倫理学	2901		
			中国哲学・印度哲学・仏教学	2902	※	
			宗教学	2903		
			思想史	2904		
	芸術学		美学・芸術諸学	3001		
			美術史	3002		
			芸術一般	3003		
	文学		日本文学	3101	※	
			英米・英語圏文学	3102	※	
			ヨーロッパ文学	3103	※	
			中国文学	3104		
			文学一般	3105		
	言語学		言語学	3201	※	
			日本語学	3202		
			英語学	3203		
			日本語教育	3204		
	史学		外国語教育	3205	※	
			史学一般	3301		
			日本史	3302	※	
			アジア史・アフリカ史	3303		
			ヨーロッパ史・アメリカ史	3304		
	人文地理学		考古学	3305		
			人文地理学	3401		
文化人類学		文化人類学・民俗学	3501			

系	分野	分科	細目名	細目番号	備考
人 文 社 会 系	法学		基礎法学	3601	
			公法学	3602	
			国際法学	3603	
			社会法学	3604	
			刑事法学	3605	
			民事法学	3606	
			新領域法学	3607	
	政治学		政治学	3701	
			国際関係論	3702	
	経済学		理論経済学	3801	
			経済学説・経済思想	3802	
			経済統計	3803	
			経済政策	3804	
			財政・公共経済	3805	
			金融・ファイナンス	3806	
			経済史	3807	
	経営学		経営学	3901	※
			商学	3902	
			会計学	3903	
	社会学		社会学	4001	※
			社会福祉学	4002	
	心理学		社会心理学	4101	
			教育心理学	4102	
			臨床心理学	4103	
実験心理学			4104		
教育学		教育学	4201	※	
		教育社会学	4202		
		教科教育学	4203	※	
		特別支援教育	4204		

系	分野	分科	細目名	細目番号	備考
理工系	総合理工	ナノ・マイクロ科学	ナノ構造化学	4301	
			ナノ構造物理	4302	
			ナノ材料化学	4303	
			ナノ材料工学	4304	
			ナノバイオサイエンス	4305	
			ナノマイクロシステム	4306	
			応用物性	4401	
		応用物理学	結晶工学	4402	
			薄膜・表面界面物性	4403	
			光工学・光量子科学	4404	
			プラズマエレクトロニクス	4405	
			応用物理学一般	4406	
		量子ビーム科学	量子ビーム科学	4501	
	計算科学	計算科学	4601		
	数物系科学	数学	代数学	4701	※
			幾何学	4702	※
			解析学基礎	4703	※
			数学解析	4704	
			数学基礎・応用数学	4705	※
			天文学	天文学	4801
		物理学	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理	4901	※
			物性Ⅰ	4902	
			物性Ⅱ	4903	※
			数理物理・物性基礎	4904	
			原子・分子・量子エレクトロニクス	4905	
			生物物理・化学物理・ソフトマターの物理	4906	
		地球惑星科学	固体地球惑星物理学	5001	
			気象・海洋物理・陸水学	5002	
			超高層物理学	5003	
			地質学	5004	
			層位・古生物学	5005	
岩石・鉱物・鉱床学			5006		
地球宇宙化学			5007		
プラズマ科学		プラズマ科学	5101		
化学	基礎化学	物理化学	5201		
		有機化学	5202		
		無機化学	5203		
	複合化学	機能物性化学	5301		
		合成化学	5302		
		高分子化学	5303		
		分析化学	5304		
		生体関連化学	5305		
		グリーン・環境化学	5306		
		エネルギー関連化学	5307		
	材料化学	有機・ハイブリッド材料	5401		
		高分子・繊維材料	5402		
		無機工業材料	5403		
		デバイス関連化学	5404		

系	分野	分科	細目名	細目番号	備考
理工系	工学	機械工学	機械材料・材料力学	5501	
			生産工学・加工学	5502	
			設計工学・機械機能要素・トライボロジー	5503	
			流体工学	5504	
			熱工学	5505	
			機械力学・制御	5506	
			知能機械学・機械システム	5507	
		電気電子工学	電力工学・電力変換・電気機器	5601	
			電子・電気材料工学	5602	
			電子デバイス・電子機器	5603	
			通信・ネットワーク工学	5604	
			計測工学	5605	
			制御・システム工学	5606	
		土木工学	土木材料・施工・建設マネジメント	5701	
	構造工学・地震工学・維持管理工学		5702		
	地盤工学		5703		
	水工学		5704		
	土木計画学・交通工学		5705		
	土木環境システム		5706		
	建築学	建築構造・材料	5801		
		建築環境・設備	5802		
		都市計画・建築計画	5803		
		建築史・意匠	5804		
	材料工学	金属物性・材料	5901		
		無機材料・物性	5902		
		複合材料・表界面工学	5903		
		構造・機能材料	5904		
		材料加工・組織制御工学	5905		
		金属・資源生産工学	5906		
	プロセス・化学工学	化工物性・移動操作・単位操作	6001		
		反応工学・プロセスシステム	6002		
触媒・資源化学プロセス		6003			
生物機能・バイオプロセス		6004			
総合工学	航空宇宙工学	6101			
	船舶海洋工学	6102			
	地球・資源システム工学	6103			
	核融合学	6104			
	原子力学	6105			
	エネルギー学	6106			

系	分野	分科	細目名	細目番号	備考
生物系	総合生物	神経科学	神経生理学・神経科学一般	6201	
			神経解剖学・神経病理学	6202	A
			神経化学・神経薬理学	6203	B
		実験動物学	実験動物学	6301	
		腫瘍学	腫瘍生物学	6401	A
			腫瘍診断学	6402	B
			腫瘍治療学	6403	
		ゲノム科学	ゲノム生物学	6501	
			ゲノム医科学	6502	
			システムゲノム科学	6503	
	生物資源保全学	生物資源保全学	6601		
	生物学	生物科学	分子生物学	6701	
			構造生物化学	6702	
			機能生物化学	6703	
			生物物理学	6704	
			細胞生物学	6705	
			発生生物学	6706	
		基礎生物学	植物分子・生理科学	6801	
			形態・構造	6802	
			動物生理・行動	6803	
			遺伝・染色体動態	6804	
			進化生物学	6805	
			生物多様性・分類	6806	
		人類学	自然人類学	6901	
			応用人類学	6902	
	農学	生産環境農学	遺伝育種科学	7001	
			作物生産科学	7002	
			園芸科学	7003	
			植物保護科学	7004	A
		農芸化学	植物栄養学・土壌学	7101	B
			応用微生物学	7102	
			応用生物化学	7103	
生物有機化学			7104		
食品科学			7105	※	
森林園科学		森林科学	7201		
		木質科学	7202		
水圏応用科学		水圏生産科学	7301	A	
		水圏生命科学	7302	B	
社会経済農学		経営・経済農学	7401		
		社会・開発農学	7402		
農業工学		地域環境工学・計画学	7501		
		農業環境・情報工学	7502	A	

系	分野	分科	細目名	細目番号	備考	
生物系	農学	動物生命科学	動物生産科学	7601	A	
					B	
			獣医学	7602	A	
		境界農学	統合動物科学	7603	B	
			昆虫科学	7701		
			環境農学(含ランドスケープ科学)	7702	A	
		薬学	境界農学	応用分子細胞生物学	7703	B
				化学系薬学	7801	
				物理系薬学	7802	
				生物系薬学	7803	
	薬理系薬学			7804		
	天然資源系薬学			7805		
	基礎医学		創薬化学	7806		
			環境・衛生系薬学	7807		
			医療系薬学	7808	※	
			解剖学一般(含組織学・発生学)	7901	※	
	医歯薬学	基礎医学	生理学一般	7902		
			環境生理学(含体力医学・栄養生理学)	7903		
			薬理学一般	7904		
			医化学一般	7905		
			病態医化学	7906		
			人類遺伝学	7907		
			人体病理学	7908	※	
			実験病理学	7909	※	
			寄生虫学(含衛生動物学)	7910		
			細菌学(含真菌学)	7911		
	境界医学	ウイルス学	7912			
		免疫学	7913			
		医療社会学	8001			
		応用薬理学	8002			
		病態検査学	8003	※		
		疼痛学	8004			
医学物理学・放射線技術学		8005				
社会医学		疫学・予防医学	8101	※		
		衛生学・公衆衛生学	8102	※		
		病院・医療管理学	8103			
	法医学	8104				

系	分野	分科	細目名	細目番号	備考	
生物系	内科系臨床医学		内科学一般(含心身医学)	8201		
			消化器内科学	8202	※	
			循環器内科学	8203	※	
			呼吸器内科学	8204	※	
			腎臓内科学	8205	※	
			神経内科学	8206	※	
			代謝学	8207	※	
			内分泌学	8208		
			血液内科学	8209	※	
			膠原病・アレルギー内科学	8210	※	
			感染症内科学	8211		
			小児科学	8212	※	
			胎児・新生児医学	8213		
			皮膚科学	8214	※	
			精神神経科学	8215	※	
			放射線科学	8216	※	
	医歯薬学	外科系臨床医学		外科学一般	8301	※
				消化器外科学	8302	※
				心臓血管外科学	8303	※
				呼吸器外科学	8304	※
				脳神経外科学	8305	※
				整形外科科学	8306	※
				麻酔科学	8307	※
				泌尿器科学	8308	※
				産婦人科学	8309	※
				耳鼻咽喉科学	8310	※
				眼科学	8311	※
				小児外科学	8312	
				形成外科学	8313	
				救急医学	8314	
	歯学			形態系基礎歯科学	8401	
				機能系基礎歯科学	8402	
				病態科学系歯学・歯科放射線学	8403	
				保存治療系歯学	8404	
				補綴・理工系歯学	8405	※
				歯科医用工学・再生歯学	8406	
外科系歯学				8407	※	
矯正・小児系歯学				8408	※	
歯周治療系歯学				8409		
社会系歯学				8410	※	
看護学						基礎看護学
	臨床看護学	8502	※			
	生涯発達看護学	8503	※			
	高齢看護学	8504	※			
	地域看護学	8505	※			

「系・分野・分科・細目表」付表キーワード一覧

① このキーワードは、細目の内容を応募者が理解しやすくするために付しているものであり、キーワードに掲げていない内容を排除するものではありません。

② 分割欄に、「A」、「B」又は「C」が付されている細目は、全ての研究種目（審査区分「海外学術調査」を除く。）において、示されたキーワードにより分割されたグループごとに第1段審査を行うので、これらの細目に応募する場合には、キーワードにより、必ず「A」、「B」又は「C」を選択し、応募してください。

③ 分割欄に、「1」～「5」の番号が付されている細目は、基盤研究（C）（審査区分「一般」）において、示されたキーワードにより分割されたグループごとに第1段審査を行うので、基盤研究（C）（審査区分「一般」）で、これらの細目に応募する場合には、キーワードにより、必ず「1」～「5」を選択し、応募してください。また、「A」と「1」又は「2」が併記されている細目は、必ず「A」を選択した後、「1」又は「2」の分割番号を選択し応募してください。

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）
総合系	情報学	情報学基礎	1001	情報学基礎理論		(1)計算理論、(2)オートマトン理論・形式言語理論、(3)プログラム理論、(4)計算量理論、(5)アルゴリズム理論、(6)暗号系、(7)離散構造、(8)計算論の学習理論、(9)量子計算理論、(10)数理理論学、(11)情報理論、(12)符号理論
			1002	数理情報学		(1)最適化理論、(2)数理ファイナンス、(3)数理システム理論、(4)システム制御理論、(5)システム分析、(6)システム方法論、(7)システムモデリング、(8)システムシミュレーション、(9)組み合わせ最適化、(10)待ち行列論
			1003	統計科学		(1)調査・実験計画、(2)多変量解析、(3)時系列解析、(4)統計のパターン認識、(5)統計的推測、(6)統計計算・コンピュータ支援統計、(7)統計的予測・制御、(8)モデル化・選択、(9)医薬生物・ゲノム統計解析、(10)行動計量分析、(11)空間・環境統計、(12)統計教育、(13)統計的品質管理、(14)統計的学習理論、(15)社会調査の計画と解析、(16)データサイエンス、(17)仮説検定
		計算基盤	1101	計算機システム		(1)計算機アーキテクチャ、(2)回路とシステム、(3)LSI設計技術、(4)リコンフィギャラブルシステム、(5)高信頼アーキテクチャ、(6)低消費電力技術、(7)ハード・ソフト協調設計、(8)組み込みシステム
			1102	ソフトウェア		(1)プログラミング言語、(2)プログラミング方法論、(3)プログラミング言語処理系、(4)並列・分散処理、(5)オペレーティングシステム、(6)高信頼システム、(7)仮想化技術、(8)ソフトウェアセキュリティ、(9)クラウドコンピューティング基盤、(10)ソフトウェア工学、(11)仕様記述・検証、(12)開発環境、(13)開発管理
			1103	情報ネットワーク		(1)ネットワークアーキテクチャ、(2)ネットワークプロトコル、(3)インターネット、(4)モバイルネットワーク、(5)オーバーレイネットワーク、(6)センサーネットワーク、(7)トラフィックエンジニアリング、(8)ネットワーク構成・運用・管理・評価技術、(9)ユビキタスコンピューティング、(10)サービス構築基盤技術、(11)情報家電システム
			1104	マルチメディア・データベース		(1)データモデル、(2)関係データベース、(3)データベースシステム、(4)マルチメディア情報獲得、(5)マルチメディア情報処理、(6)マルチメディア情報表現、(7)マルチメディア情報生成、(8)情報検索、(9)構造化文書、(10)コンテンツ流通・管理、(11)地理情報システム、(12)メタデータ、(13)ビッグデータ分析・活用
			1105	高性能計算		(1)並列処理、(2)分散処理、(3)グリッド・クラウドコンピューティング、(4)数値解析、(5)可視化、(6)コンピュータグラフィクス、(7)高性能計算アプリケーション
			1106	情報セキュリティ		(1)アクセス制御、(2)個人識別、(3)暗号、(4)認証、(5)セキュリティ評価・監査、(6)マルウェア対策、(7)ネットワークセキュリティ、(8)不正アクセス対策、(9)ソフトウェア保護、(10)プライバシー保護、(11)情報フィルタリング、(12)デジタルフォレンジクス、(13)バイオメトリクス、(14)耐タンパー技術
	人間情報学	1201	認知科学		(1)進化・発達・学習、(2)認知・記憶・教育、(3)思考・推論・問題解決、(4)感覚・知覚・感性、(5)感情・情動・行動、(6)認知心理学、(7)比較認知心理学、(8)認知哲学、(9)脳認知科学、(10)認知言語学、(11)行動意思決定論、(12)認知工学、(13)認知考古学、(14)認知モデル、(15)社会性、(16)法と心理学、(17)安全・ヒューマンファクターズ	
		1202	知覚情報処理		(1)パターン認識、(2)画像情報処理、(3)コンピュータビジョン、(4)コンピュータショナルフォトグラフィ、(5)人間計測、(6)知的映像編集、(7)視覚メディア処理、(8)画像データベース、(9)音声情報処理、(10)音響情報処理、(11)音声音響データベース、(12)情報センシング、(13)センサ融合・統合、(14)センシングデバイス・システム、(15)接触センシング処理	
		1203	ヒューマンインタフェース・インタラクション		(1)ヒューマンインタフェース、(2)マルチモーダルインタフェース、(3)ヒューマンコンピュータインタラクション、(4)CSCW、(5)グループウェア、(6)バーチャルリアリティ、(7)拡張現実、(8)複合現実感、(9)臨場感コミュニケーション、(10)ウェアラブル機器、(11)ユーザビリティ、(12)人間工学	

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）
総合系	情報学	人間情報学	1204	知能情報学		(1)探索・論理・推論アルゴリズム、(2)機械学習、(3)知識獲得、(4)知識ベースシステム、(5)知的システムアーキテクチャ、(6)知能情報処理、(7)自然言語処理、(8)知識発見とデータマイニング、(9)オントロジー、(10)ヒューマンエージェントインタラクション、(11)マルチエージェントシステム
			1205	ソフトコンピューティング		(1)ニューラルネットワーク、(2)遺伝アルゴリズム、(3)ファジィ理論、(4)カオス、(5)フラクタル、(6)複雑系、(7)確率的情報処理
			1206	知能ロボティクス		(1)知能ロボット、(2)行動環境認識、(3)モーションプランニング、(4)感覚行動システム、(5)自律システム、(6)デジタルヒューマンモデル、(7)実世界情報処理、(8)物理エージェント、(9)インテリジェントルーム
			1207	感性情報学		(1)感性デザイン学、(2)感性表現学、(3)感性認識学、(4)感性認知科学・感性心理学、(5)感性ロボティクス、(6)感性計測評価、(7)あいまいと感性、(8)感性情報処理、(9)感性データベース、(10)感性インタフェース、(11)感性生理学、(12)感性材料製品、(13)感性産業、(14)感性環境学、(15)感性社会学、(16)感性哲学、(17)感性教育学、(18)感性脳科学、(19)感性経営学
	情報学 フロンティア		1301	生命・健康・医療情報学		(1)パイオインフォマティクス、(2)ゲノム情報処理、(3)プロテオーム情報処理、(4)コンピュータシミュレーション、(5)生命情報、(6)生体情報、(7)ニューロインフォマティクス、(8)脳型情報処理、(9)人工生命システム、(10)生命分子計算、(11)DNAコンピュータ、(12)医療情報、(13)画像診断、(14)遠隔診断治療、(15)保健情報、(16)健康情報、(17)医用画像、(18)細胞内ロジスティクス解析
			1302	ウェブ情報学・サービス情報学	A	〔ウェブ情報学〕 (1)ウェブシステム、(2)ウェブコンピューティング、(3)ソーシャルウェブ、(4)セマンティックウェブ、(5)推薦システム、(6)ウェブサービス、(7)ウェブマイニング、(8)ウェブインテリジェンス、(9)社会ネットワーク分析、(10)ネットワークコミュニティ
					B	〔サービス情報学〕 (11)サービス工学、(12)サービスマネジメント、(13)サービス品質、(14)待ち行列、(15)ビジネスモデル、(16)サービス指向アーキテクチャ、(17)知識マネージメント、(18)教育サービス、(19)医療・福祉サービス、(20)高度交通システム、(21)金融サービス、(22)社会・環境サービス、(23)スマートグリッド、(24)技術マネージメント
			1303	図書館情報学・人文社会情報学	A	〔図書館情報学〕 (1)図書館学、(2)情報サービス、(3)図書館情報システム、(4)デジタルアーカイブズ、(5)情報組織化、(6)情報検索、(7)情報メディア、(8)計量情報学・科学計量学、(9)情報資源の構築・管理
					B	〔人文社会情報学〕 (10)情報倫理、(11)メディア環境、(12)文学情報、(13)歴史情報、(14)情報社会学、(15)法律情報、(16)情報経済学、(17)経営情報、(18)教育情報、(19)芸術情報、(20)医療情報、(21)科学技術情報、(22)知的財産情報、(23)地理情報、(24)地域情報化
			1304	学習支援システム		(1)メディア・リテラシー、(2)学習メディア、(3)ソーシャルメディア、(4)学習コンテンツ開発支援、(5)学習管理システム、(6)知的学習支援システム、(7)遠隔学習、(8)分散協調学習支援システム、(9)プロジェクト型学習支援システム、(10)eラーニング、(11)運用・評価
	1305	エンタテインメント・ゲーム情報学		(1)音楽情報処理、(2)演奏支援、(3)3Dコンテンツ・アニメーション、(4)ゲームプログラミング、(5)ネットワークエンタテインメント、(6)メディアアート、(7)インタラクティブアート、(8)デジタルアーカイブズ、(9)デジタルミュージアム・ヴァーチャルミュージアム、(10)情報文化		
	環境学	環境解析学	1401	環境動態解析		(1)環境変動、(2)物質循環、(3)環境計測、(4)環境モデル、(5)環境情報、(6)地球温暖化、(7)地球規模水循環変動、(8)極域環境監視、(9)化学海洋、(10)生物海洋、(11)リモートセンシング
			1402	放射線・化学物質影響科学	A	(1)環境放射線(能)、(2)防護、(3)基礎過程、(4)線量測定・評価、(5)損傷、(6)応答、(7)修復、(8)感受性、(9)生物影響、(10)リスク評価、(11)放射線管理
					B	(12)トキシコロジー、(13)人体有害物質、(14)微量化学物質汚染評価、(15)内分泌かく乱物質
			1403	環境影響評価		(1)陸圏・水圏・大気圏影響評価、(2)生態系影響評価、(3)影響評価手法、(4)健康影響評価、(5)次世代環境影響評価、(6)極域の人間活動、(7)環境モニタリング、(8)モデルシミュレーション、(9)環境アセスメント
		環境保全学	1501	環境技術・環境負荷低減		(1)排水・排ガス・廃棄物等発生抑制、(2)適正処理・処分、(3)環境負荷低減・クローズド化、(4)汚染質除去技術、(5)騒音・振動・地盤沈下等対策、(6)環境分析、(7)簡易分析
			1502	環境モデリング・保全修復技術		(1)環境負荷解析、(2)汚染調査と評価、(3)汚染除去・修復技術、(4)汚染質動態とモデリング、(5)生物機能利用、(6)環境・生態系影響、(7)土壌・地下水・水環境
			1503	環境材料・リサイクル		(1)循環再生材料設計・生産、(2)3R、(3)有価物回収、(4)分離精製・高純度化、(5)適性処理・処分、(6)リサイクルとLCA、(7)環境配慮設計、(8)グリーンプロダクション、(9)ゼロエミッション、(10)リサイクル化学
			1504	環境リスク制御・評価		(1)汚染質評価、(2)モニタリング、(3)移動・拡散・蓄積、(4)環境基準、(5)生活環境・健康項目、(6)排出基準、(7)越境汚染評価、(8)化学物質管理、(9)暴露シナリオ、(10)リスク評価、(11)予防原則、(12)生分解性・濃縮性、(13)遺伝毒性・生態毒性、(14)リスクコミュニケーション

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）		
総合系	環境学	環境創成学	1601	自然共生システム		(1)生物多様性、(2)生態系サービス、(3)生態リスク、(4)生態系影響解析、(5)生態系管理・保全、(6)リモートセンシング、(7)景観生態、(8)生態系修復、(9)代償措置、(10)生態工学		
			1602	持続可能システム		(1)物質循環システム、(2)低炭素社会、(3)再生可能エネルギー、(4)バイオマス利活用、(5)都市・地域環境創生、(6)水資源・水システム、(7)産業共生、(8)物質・エネルギー収支解析、(9)ライフサイクル評価、(10)統合的環境管理		
			1603	環境政策・環境社会システム		(1)環境理念、(2)環境正義、(3)環境経済、(4)環境法、(5)環境情報、(6)環境地理情報、(7)環境教育、(8)環境マネジメント、(9)環境と社会活動、(10)環境規格・環境監査、(11)合意形成、(12)安全・安心、(13)環境CSR、(14)社会システム、(15)公共システム管理、(16)持続可能発展		
	複合領域	デザイン学	デザイン学	1651	デザイン学		(1)情報デザイン(コミュニケーション、メディア情報、コンテンツ、インタラクション、インタフェース)、(2)環境デザイン(建築、都市、ランドスケープ)、(3)工業デザイン(プロダクトデザイン、ユニバーサルデザイン)、(4)芸術、(5)美学、(6)デザイン史、(7)デザイン論、(8)デザイン規格、(9)デザイン設計支援、(10)空間・音響モデリング、(11)デザイン評価分析、(12)デザイン教育	
				生活科学	家政・生活学一般	1701	家政・生活学一般	
		1702	衣・住生活学				(1)衣生活、(2)衣環境、(3)染色・整理、(4)被服設計・生産、(5)被服材料、(6)服飾史、(7)服飾文化、(8)被服心理、(9)住生活、(10)住居計画、(11)住居管理、(12)住居史、(13)インテリア・住居・住環境デザイン、(14)住居環境・設備、(15)住居材料・構造、(16)地域居住・まちづくり、(17)子育て環境、(18)高齢者居住、(19)福祉住環境、(20)住文化、(21)住教育・住情報	
		1703	食生活学			A	[食品と調理] (1)調理と加工、(2)食品と貯蔵、(3)食嗜好と評価、(4)食素材、(5)調理と機能性成分、(6)フードサービス、(7)食文化、(8)テクスチャー、(9)咀嚼・嚥下	
				B	[統合栄養科学] (10)食と栄養、(11)機能性食品、(12)分子代謝学、(13)栄養疫学、(14)臨床栄養学			
				C	[食生活と健康] (15)食教育、(16)食習慣、(17)食行動、(18)食情報、(19)保健機能食品、(20)食と環境、(21)食生活の評価、(22)フードマネージメント			
		科学教育・教育工学	科学教育	科学教育	1801	科学教育	1	(1)高等教育(数学、物理、化学、生物、情報、天文、地球惑星、学際)、(2)初中等教育(算数・数学、理科、情報)、(3)工学教育
					2	(4)科学リテラシー、(5)実験・観察、(6)科学教育カリキュラム、(7)環境教育、(8)産業・技術教育、(9)科学と社会・文化、(10)科学教員養成、(11)科学コミュニケーション、(12)情報リテラシー		
			1802	教育工学	1	(1)カリキュラム・教授法開発、(2)教授学習支援システム、(3)分散協調教育システム、(4)ヒューマン・インターフェース		
					2	(5)教材情報システム、(6)メディアの活用、(7)遠隔教育、(8)e-ラーニング、(9)情報教育、(10)メディア教育、(11)学習環境、(12)教師教育、(13)授業		
	科学社会学・科学技術史	1901	科学社会学・科学技術史		(1)科学社会学、(2)科学史、(3)技術史、(4)医学史、(5)産業考古学、(6)科学哲学・科学基礎論、(7)科学技術社会論(STS)			
	文化財科学・博物館学	文化財科学・博物館学	文化財科学・博物館学	2001	文化財科学・博物館学	A	(1)年代測定、(2)材質分析、(3)製作技法、(4)保存科学、(5)遺跡探査、(6)動物遺体・人骨、(7)文化財・文化遺産、(8)文化資源、(9)文化財政策	
						B	(10)博物館展示学、(11)博物館教育学、(12)博物館情報学、(13)博物館経営学、(14)博物館行財政学、(15)博物館資料論、(16)博物館学史	
	地理学	2101	地理学		(1)地理学一般、(2)土地利用・景観、(3)環境システム、(4)地域計画、(5)地図・地誌・地理教育、(6)地形、(7)気候、(8)水文、(9)地理情報システム、(10)リモートセンシング、(11)植生・土壌、(12)ツーリズム			
	社会・安全システム科学	社会システム工学・安全システム	社会システム工学・安全システム	2201	社会システム工学・安全システム	A	[社会システム工学] (1)社会学、(2)社会システム、(3)政策科学、(4)開発計画、(5)経営工学、(6)経営システム、(7)OR、(8)品質管理、(9)インダストリアルエンジニアリング、(10)モデリング、(11)ロジスティクス、(12)マーケティング、(13)ファイナンス、(14)プロジェクトマネジメント、(15)環境管理	
						B	[安全システム] (16)安全工学・安全科学、(17)製品・設備・システム安全、(18)リスクマネジメント、(19)危機管理、(20)火災・爆発防止、(21)安全情報、(22)安心の社会技術(避難、群衆誘導、情報伝達、ハザードマップ)、(23)リスクベース工学、(24)診断・回生・維持管理、(25)機器・人間の信頼性、(26)労働安全衛生	
						2202	自然災害科学・防災学	A
	B	[自然災害] (11)気象災害、(12)水災害、(13)地盤災害、(14)土砂流、(15)濁水、(16)雪水災害、(17)自然災害予測・分析・対策、(18)ライフライン防災、(19)地域防災計画・政策、(20)復旧・復興工学、(21)災害リスク評価						

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）	
総合系	複合領域	人間工医学	2301	生体工医学・生体材料学	A	〔生体工医学〕 (1) 医用画像・バイオイメーキング、(2) 生体モデリング・フィジオーム、(3) 生体シミュレーション、(4) 生体情報・計測、(5) 人工臓器学、(6) 再生工医学、(7) 生体物性、(8) 生体制御・治療、(9) バイオメカニクス、(10) 細胞バイオメカニクス、(11) ナノバイオシステム、(12) 超音波医学、(13) 医用生理活性物質応用、(14) バイオインスパイアードシステム	
					B	〔生体材料学〕 (15) バイオマテリアル、(16) 生体機能材料、(17) 細胞・組織工学分学、(18) 生体適合材料、(19) ナノバイオ材料、(20) 再生工学分学材料、(21) 薬物送達システム、(22) 刺激応答材料、(23) 遺伝子・核酸工学分学材料	
			2302	医用システム		(1) 医用超音波システム、(2) 画像診断システム、(3) 検査・診断システム、(4) 低侵襲治療システム、(5) 遠隔診断治療システム、(6) 臓器保存・治療システム、(7) 医療情報システム、(8) コンピュータ外科学、(9) 医用ロボット	
			2303	医療技術評価学		(1) レギュラトリーサイエンス、(2) 安全性評価、(3) 臨床研究、(4) 医療技術倫理、(5) 医療機器	
			2304	リハビリテーション科学・福祉工学	A	1	〔リハビリテーション科学〕 (1) リハビリテーション医学、(2) 障害学、(3) 言語聴覚療法学、(4) 医療社会福祉学、(5) 人工感覚器、(6) 老年学、(7) 臨床心理療法学
						2	〔リハビリテーション科学〕 (8) 理学療法学、(9) 作業療法学
					B	〔福祉工学〕 (10) 健康・福祉工学、(11) 生活支援技術、(12) 介護予防・支援技術、(13) 社会参加、(14) バリアフリー、(15) ユニバーサルデザイン、(16) 福祉・介護用ロボット、(17) 生体機能代行、(18) 福祉用具・支援機器、(19) ヒューマンインターフェース、(20) 看護工学	
			健康・スポーツ科学	2401	身体教育学	A	〔身体の仕組みと発達メカニズム〕 (1) 教育生理学、(2) 身体システム学、(3) 生体情報解析、(4) 脳高次機能学、(5) 身体発達発達学、(6) 感覚と運動発達学
						B	〔心身の教育と文化〕 (7) 感性の教育、(8) 身体環境論、(9) 運動指導論、(10) 体育科教育、(11) フィットネス、(12) 身体運動文化論、(13) 身体性哲学、(14) 死生観の教育、(15) 体育心理学、(16) 情動の科学、(17) 野外教育、(18) 舞踊教育、(19) ジェンダー教育、(20) 成年・老年期の体育、(21) 武道論、(22) 運動適応生命科学
				2402	スポーツ科学	A	1
	2	〔スポーツ科学〕 (8) コーチング、(9) スポーツ・タレント、(10) 障害者スポーツ、(11) スポーツ社会学、(12) スポーツ環境学、(13) スポーツ文化人類学					
	B	〔スポーツ医科学〕 (14) スポーツ生理学、(15) スポーツ生化学、(16) スポーツ栄養学、(17) エネルギー代謝、(18) トレーニング医科学、(19) スポーツ障害、(20) ドーピング					
	2403	応用健康科学		A	1	〔健康教育・健康推進活動〕 (1) 健康教育、(2) ヘルスプロモーション、(3) 安全推進・安全教育、(4) 保健科教育、(5) ストレスマネジメント、(6) 喫煙・薬物乱用防止教育、(7) 学校保健	
					2	〔健康教育・健康推進活動〕 (8) 性・エイズ教育、(9) 保健健康管理、(10) 保健健康情報、(11) 栄養指導、(12) 心身の健康、(13) レジャー・レクリエーション	
				B	〔応用健康医学〕 (14) 生活習慣病、(15) 運動処方と運動療法、(16) 加齢・老化、(17) スポーツ医学、(18) スポーツ免疫学		
	子ども学	2451		子ども学（子ども環境学）		(1) 健康・成長、(2) 発達・子育て、(3) 運動・遊び、(4) 人権・権利、(5) 非行・逸脱、(6) 社会環境、(7) 文化環境、(8) 物理的環境、(9) 教育的環境	
	生体分子科学	2501		生物分子化学		(1) 天然物化学、(2) 二次代謝産物、(3) 生物活性物質の探索、(4) 生体分子の化学修飾、(5) 生体機能物質、(6) 活性発現の分子機構、(7) 生合成、(8) 生物活性分子の設計・全合成、(9) コンビナトリアル化学、(10) 化学生態学、(11) メタボローム解析	
		2502	ケミカルバイオロジー		(1) 生体内機能発現、(2) 医薬品探索、(3) 診断薬探索、(4) 農業開発、(5) 化合物ライブラリー、(6) 構造活性相関、(7) 化学プローブ、(8) 分子イメージング、(9) 生体分子計測、(10) 細胞内化学反応、(11) ポストゲノム創薬、(12) プロテオミクス、(13) 分子進化学		
	脳科学	2601	基盤・社会脳科学	A	(1) ゲノム脳科学、(2) エピジェネティクス、(3) 脳分子プロファイリング、(4) ナノ脳科学、(5) ケミカルバイオロジー、(6) 薬物脳科学、(7) 脳機能プローブ、(8) 脳イメージング、(9) 光脳科学、(10) ニューロングリア相互作用、(11) 脳機能モデル動物、(12) 脳機能行動解析、(13) 脳とリズム、(14) 睡眠、(15) 神経心理学・言語神経科学、(16) 病態脳科学、(17) 認知神経科学		
				B	(18) コミュニケーション、(19) 対人関係、(20) 社会行動、(21) 発達・教育、(22) 感性・情動・感情、(23) 価値・報酬・懲罰、(24) 動機づけ、(25) ニューロエコノミクス・ニューロマーケティング、(26) 政治脳科学		
	2602	脳計測科学		(1) 脳形態計測、(2) 脳機能計測・非侵襲的脳活動計測、(3) リアルタイム脳血流計測、(4) 脳活動記録(レコーディング)、(5) 脳情報読み出し(デコーディング)、(6) 感覚情報、(7) 運動情報、(8) 認知情報、(9) 高次脳機能計測、(10) 脳情報処理、(11) 脳機能操作、(12) ブレインマシンインターフェイス			

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）	
人文社会系	総合人文社会	地域研究	2701	地域研究		(1)ヨーロッパ、(2)ロシア・スラブ地域、(3)北アメリカ、(4)中・南アメリカ、(5)東アジア、(6)東南アジア、(7)南アジア、(8)西アジア・中央アジア、(9)アフリカ、(10)オセアニア、(11)世界、(12)地域間比較研究、(13)援助・地域協力	
		ジェンダー	2801	ジェンダー		(1)性差・性別役割、(2)セクシュアリティ、(3)思想・運動・歴史、(4)法・政治、(5)経済・労働、(6)社会政策・社会福祉、(7)身体・表現・メディア、(8)科学技術・医療・生命、(9)教育・発達、(10)開発、(11)暴力・売買春、(12)比較文化、(13)女性学・男性学・クイア・スタディーズ、(14)キャリア、(15)男女共同参画、(16)国際比較	
		観光学	2851	観光学		(1)ツーリズム（観光学原論）、(2)観光資源、(3)観光政策、(4)観光産業、(5)地域振興、(6)町づくり、(7)旅行者、(8)リゾート、(9)景観、(10)世界遺産、(11)祭礼・行事	
	人文学	哲学	哲学	2901	哲学・倫理学		(1)哲学原論・各論、(2)倫理学原論・各論、(3)西洋哲学、(4)西洋倫理学、(5)日本哲学、(6)日本倫理学、(7)比較哲学
				2902	中国哲学・印度哲学・仏教学	1	(1)中国哲学・思想、(2)中国仏教、(3)道教、(4)儒教
						2	(5)印度哲学・思想、(6)仏教学・仏教史全般
				2903	宗教学		(1)宗教学全般、(2)宗教史、(3)宗教社会学、(4)宗教哲学、(5)比較宗教学
				2904	思想史		(1)西洋思想史、(2)東洋・日本思想史、(3)比較思想史、(4)宗教思想史、(5)社会思想史、(6)政治思想史、(7)科学思想史、(8)芸術思想史
		芸術学	芸術学	3001	美学・芸術諸学		(1)美学、(2)芸術哲学・芸術論、(3)音楽学・音楽史、(4)芸術諸学
				3002	美術史		(1)日本・東洋美術史、(2)西洋美術史、(3)比較美術史、(4)画像学・宗教美術史、(5)建築史、(6)工芸・意匠・服飾史
				3003	芸術一般		(1)表象文化論、(2)大衆芸術、(3)映画論、(4)舞台芸術論、(5)芸術政策・産業、(6)芸術表現、(7)メディア芸術
		文学	文学	3101	日本文学	1	(1)日本文学一般、(2)古代文学、(3)中世文学、(4)漢文学、(5)関連書誌・文献
						2	(6)近世文学、(7)近・現代文学、(8)関連文学理論・文学批評・比較文学
				3102	英米・英語圏文学	1	(1)英文学、(2)比較文学
						2	(3)米文学、(4)英語圏文学、(5)関連文学理論・文学批評・書誌・文献
				3103	ヨーロッパ文学	1	(1)仏文学・仏語圏文学、(2)西洋古典学、(3)関連文学理論・文学批評・書誌・文献、(4)比較文学
						2	(5)独文学・独語圏文学、(6)ロシア東欧文学、(7)その他のヨーロッパ語系文学
				3104	中国文学		(1)中国文学、(2)関連書誌・文献、(3)関連文学批評・文学理論、(4)比較文学
		3105	文学一般		(1)文学理論・批評、(2)比較文学論、(3)諸地域・諸言語の文学		
		言語学	言語学	3201	言語学	1	(1)音声学、(2)音韻論、(3)形態論、(4)統語論、(5)意味論、(6)語用論、(7)文字論、(8)辞書論
						2	(9)社会言語学、(10)談話研究、(11)心理言語学、(12)言語の生物的基盤、(13)歴史言語学、(14)仏語学、(15)独語学、(16)中国語学、(17)その他の語学、(18)危機・少数言語、(19)神経言語学、(20)コーパス言語学
3202				日本語学		(1)音声・音韻、(2)文法、(3)語彙・意味、(4)文字、(5)文章・文体、(6)方言、(7)言語生活、(8)日本語史、(9)日本語学史	
3203				英語学		(1)音声・音韻、(2)文法、(3)語彙・意味、(4)文体、(5)英語史、(6)英語学史、(7)英語の多様性	
3204				日本語教育		(1)日本語教育制度・言語政策、(2)教師論・教室研究、(3)教授法・カリキュラム、(4)第二言語習得理論、(5)教育工学・教材・教育メディア、(6)母語保持・バイリンガル教育、(7)異文化理解・異文化間コミュニケーション、(8)日本事情、(9)日本語教育史、(10)教育評価・測定	
3205	外国語教育			1	(1)教授法・カリキュラム論		
				2	(2)教育工学・教材・教育メディア一般、(3)eラーニング・コンピュータ支援学習(CALL)		
				3	(4)第二言語習得理論、(5)異文化間コミュニケーション・翻訳・通訳		
		4	(6)早期外国語教育、(7)外国語教育制度・言語政策、(8)外国語教育論・教育史、(9)教育評価・測定、(10)外国語教師養成				

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）	
人文社会系	人文学	史学	3301	史学一般		(1)世界史、(2)交流史、(3)比較史、(4)比較文明論、(5)グローバル化、(6)環境史、(7)島嶼・海域史、(8)史料研究	
			3302	日本史	1	(1)古代史、(2)中世史、(3)文化史、(4)宗教史、(5)農村史、(6)日本史一般、(7)交流史、(8)史料研究	
					2	(9)近世史、(10)近現代史、(11)地方史、(12)環境史、(13)災害史、(14)都市史	
			3303	アジア史・アフリカ史		(1)中国古代・中近世史、(2)中国近現代史、(3)東アジア史、(4)東南アジア史、(5)オセアニア史、(6)南アジア史、(7)西アジア・イスラーム史、(8)中央ユーラシア史、(9)アフリカ史、(10)比較・交流史、(11)史料研究	
			3304	ヨーロッパ史・アメリカ史		(1)ヨーロッパ古代史、(2)ヨーロッパ中世史、(3)西欧近現代史、(4)東欧近現代史、(5)南欧近現代史、(6)北欧近現代史、(7)南北アメリカ史、(8)比較・交流史、(9)史料研究	
		3305	考古学		(1)考古学一般、(2)先史学、(3)歴史考古学、(4)日本考古学、(5)アジア考古学、(6)古代文明学、(7)物質文化学、(8)実験考古学、(9)埋蔵文化財研究、(10)情報考古学		
		人文地理学	3401	人文地理学		(1)地理思想・方法論、(2)経済・交通地理学、(3)政治・社会地理学、(4)文化地理学、(5)都市地理学、(6)農村地理学、(7)歴史地理学、(8)地域環境・災害、(9)地理教育、(10)地域計画・地域政策、(11)地誌学、(12)地理情報システム、(13)絵図・地図	
			文化人類学	3501	文化人類学・民俗学		(1)文化人類学、(2)民俗学、(3)民族学、(4)社会人類学、(5)比較民俗学、(6)物質文化、(7)先史・歴史、(8)芸能・芸術、(9)宗教・儀礼、(10)開発・援助、(11)医療、(12)移動・越境、(13)マイノリティー、(14)生態・環境、(15)メディア、(16)身体・スポーツ
		社会科学	法学	3601	基礎法学		(1)法哲学・法理学、(2)ローマ法、(3)法制史、(4)法社会学、(5)比較法、(6)外国法、(7)法政策学・立法学、(8)法と経済
				3602	公法学		(1)憲法、(2)行政法、(3)租税法、(4)国法学・憲法史、(5)憲法訴訟、(6)比較憲法・EU法、(7)行政組織法、(8)行政手続法、(9)行政救済法、(10)国際税法
	3603			国際法学		(1)国際公法、(2)国際私法、(3)国際人権・国籍法、(4)国際組織法、(5)国際経済法、(6)国際民事手続法、(7)国際取引法	
	3604			社会法学		(1)労働法、(2)経済法、(3)社会保障法、(4)教育法	
	3605			刑事法学		(1)刑法、(2)刑事訴訟法、(3)犯罪学、(4)刑事政策、(5)少年法、(6)法と心理	
	3606			民事法学		(1)民法、(2)商法、(3)民事訴訟法、(4)会社法・企業組織法、(5)金融法、(6)証券法、(7)保険法、(8)倒産法、(9)紛争処理法制、(10)民事執行法	
	3607			新領域法学		(1)環境法、(2)医事法、(3)情報・メディア法、(4)知的財産法、(5)法とジェンダー、(6)法学教育・法曹論・法教育、(7)法人・信託、(8)消費者法、(9)交通法、(10)土地法・住宅法、(11)司法制度論	
	政治学		3701	政治学		(1)政治理論、(2)政治学方法論、(3)西洋政治思想史、(4)日本・アジア政治思想史、(5)政治史、(6)日本政治史、(7)日本政治、(8)政治過程論、(9)選挙研究、(10)新制度論、(11)政治経済学、(12)行政学、(13)地方自治、(14)比較政治、(15)公共政策	
			3702	国際関係論		(1)国際理論、(2)外交史・国際関係史、(3)対外政策論、(4)安全保障論、(5)非伝統的安全保障・人間の安全保障、(6)国際政治経済論、(7)国際レジーム論、(8)国際統合論、(9)国際協調論、(10)国際交流論、(11)トランスナショナル関係、(12)グローバル・イシュー、(13)東アジア国際関係、(14)国際協力論	
経済学	3801		理論経済学		(1)ミクロ経済学、(2)マクロ経済学、(3)経済理論、(4)ゲーム理論、(5)行動経済学、(6)実験経済学、(7)進化経済学、(8)経済制度・体制論		
	3802		経済学説・経済思想		(1)経済学説、(2)経済思想、(3)社会思想、(4)経済哲学		
	3803		経済統計		(1)統計制度、(2)統計調査、(3)人口統計、(4)所得・資産分布、(5)国民経済計算、(6)計量経済学、(7)計量ファイナンス		
	3804		経済政策		(1)国際経済学、(2)産業組織論、(3)経済発展論、(4)経済政策論、(5)都市経済学、(6)交通経済学、(7)地域経済学、(8)環境経済学、(9)資源経済学、(10)日本経済論、(11)経済事情		
	3805		財政・公共経済		(1)財政学、(2)地方財政論、(3)公共経済学、(4)公共政策論、(5)医療経済学、(6)労働経済学、(7)社会保障論、(8)教育経済学、(9)法と経済学、(10)政治経済学		
	3806		金融・ファイナンス		(1)金融論、(2)ファイナンス、(3)国際金融論、(4)企業金融、(5)保険論、(6)金融工学		
	3807		経済史		(1)経済史、(2)経営史、(3)産業史		

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）
人文 社会系	社会科学	経営学	3901	経営学	1	(1)経営組織、(2)経営財務、(3)経営情報、(4)経営管理、(5)企業の社会的責任、(6)経営学説
					2	(7)経営戦略、(8)国際経営、(9)技術経営、(10)ベンチャー企業、(11)人的資源管理
			3902	商学		(1)マーケティング、(2)消費者行動、(3)広告、(4)流通・ロジスティクス、(5)マーケティングリサーチ、(6)商業、(7)保険
			3903	会計学		(1)財務会計、(2)管理会計、(3)会計監査、(4)簿記、(5)国際会計、(6)税務会計、(7)公会計、(8)環境会計
	社会学	4001	社会学	1	(1)社会哲学・社会思想、(2)社会学史、(3)社会学理論・社会学方法論、(4)社会システム、(5)社会調査法、(6)数理社会学、(7)相互行為・社会関係、(8)社会集団・社会組織、(9)制度・構造・社会変動、(10)知識・科学・技術、(11)政治・権力・国家、(12)階級・階層・社会移動	
				2	(13)家族・親族・人口、(14)地域社会・村落・都市、(15)産業・労働、(16)福祉社会学、(17)文化・宗教・社会意識、(18)コミュニケーション・情報・メディア、(19)ジェンダー、(20)教育・学校、(21)医療社会学・障害学、(22)社会問題・社会運動、(23)差別・排除、(24)環境・公害、(25)国際社会・エスニシティ、(26)身体・スポーツ、(27)自我・アイデンティティ	
		4002	社会福祉学		(1)社会福祉原論・社会福祉思想、(2)社会福祉史、(3)社会保障・社会福祉政策、(4)福祉国家・福祉社会、(5)ソーシャルワーク、(6)貧困・公的扶助、(7)子ども福祉、(8)女性福祉、(9)障害(児)者福祉、(10)高齢者福祉、(11)家族福祉、(12)地域福祉、(13)精神保健福祉・医療福祉・介護福祉、(14)司法福祉・更生保護、(15)福祉マネジメント・権利擁護・評価、(16)国際福祉・福祉NGO、(17)ボランティア・福祉NPO、(18)社会福祉教育・実習	
	心理学	4101	社会心理学		(1)自己過程、(2)社会的認知・感情、(3)態度・信念、(4)社会的相互作用・対人関係、(5)対人コミュニケーション、(6)集団・リーダーシップ、(7)集合現象・社会現象、(8)産業・組織・人事、(9)文化、(10)社会問題、(11)環境・環境問題、(12)メディア・電子ネットワーク、(13)消費者行動	
					(1)発達、(2)親子関係、(3)発達障害、(4)パーソナリティ、(5)教授法・学習、(6)教育測定・評価、(7)教育相談、(8)対人関係・行動、(9)自己・個人内過程、(10)学校・学級・教師	
		4103	臨床心理学		(1)心理的障害、(2)犯罪・非行、(3)心理アセスメント、(4)心理療法、(5)心理学的介入、(6)非言語コミュニケーション、(7)カウンセリング・学生相談、(8)心理面接過程、(9)事例研究、(10)セルフヘルプグループ、(11)セラピスト論、(12)地域援助、(13)健康心理学・健康開発、(14)心理リハビリテーション	
		4104	実験心理学		(1)生理、(2)感覚・知覚・感性、(3)意識・認知・注意、(4)記憶、(5)感情・情動・動機付け、(6)思考・推論・言語、(7)学習・行動分析、(8)進化・発達・比較認知、(9)原理・歴史・心理学研究法	
	教育学	4201	教育学	1	(1)教育哲学、(2)教育思想、(3)教育史、(4)カリキュラム論、(5)学習指導論、(6)学力論、(7)教育方法、(8)教育評価、(9)教師教育	
				2	(10)教育行財政、(11)学校経営、(12)学校教育、(13)幼児教育・保育、(14)生涯学習、(15)社会教育、(16)家庭教育、(17)教育政策	
		4202	教育社会学		(1)教育社会学、(2)教育経済学、(3)教育人類学、(4)教育政策、(5)比較教育、(6)人材開発・開発教育、(7)学校組織・学校文化、(8)教師・生徒文化、(9)青少年問題、(10)学力問題、(11)多文化教育、(12)ジェンダーと教育、(13)教育調査法、(14)教育情報システム	
		4203	教科教育学	1	(1)各教科の教育(国語、算数・数学、理科、社会、地理・歴史、公民、生活、音楽、図画工作・美術工芸、体育・保健体育、家庭、技術、英語、情報)、(2)専門教科の教育(工業、商業、農業、水産、看護、福祉)	
				2	(3)カリキュラム構成・開発、(4)教材開発、(5)教科外教育(総合的学習、道徳、特別活動)、(6)生活指導・生徒指導、(7)進路指導、(8)教員養成	
	4204	特別支援教育		(1)理念・思想・歴史、(2)制度・政策・行政、(3)心理学的臨床・実験、(4)アセスメント、(5)指導・支援・評価、(6)支援体制・コーディネーター、(7)コンサルテーション・カウンセリング、(8)家族・権利擁護、(9)共生社会・インクルージョン、(10)早期発見・早期支援、(11)通常学級・リソースルーム、(12)特別支援学校、(13)高等教育・キャリア教育、(14)発達障害・情緒障害、(15)知的障害、(16)視覚障害・聴覚障害・言語障害、(17)肢体不自由・病弱・身体虚弱、(18)学習困難・不応・非行、(19)ギフトド・才能		

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）
理工系	総合理工	ナノ・マイクロ科学	4301	ナノ構造化学		(1)ナノ構造化学、(2)ナノ構造作製、(3)クラスター・ナノ粒子、(4)フラレン・ナノチューブ・グラフェン、(5)メゾスコピック化学、(6)階層構造・超構造、(7)ナノ表面・界面、(8)自己組織化
			4302	ナノ構造物理		(1)ナノチューブ・グラフェン、(2)ナノ構造物性、(3)ナノ物性制御、(4)ナノマイクロ物理、(5)ナノプローブ、(6)量子情報、(7)量子効果、(8)量子ドット、(9)量子デバイス、(10)電子デバイス、(11)スピンドデバイス、(12)ナノトライボロジー
			4303	ナノ材料化学		(1)ナノ材料創製、(2)ナノ材料解析・評価、(3)ナノ表面・界面、(4)ナノ機能材料、(5)ナノ構造形成・制御、(6)分子素子、(7)ナノ粒子、(8)フラレン・ナノチューブ・グラフェン、(9)ナノカーボン材料、(10)1分子化学、(11)ナノ光デバイス、(12)分子デバイス
			4304	ナノ材料工学		(1)ナノ結晶材料・コンポジット、(2)ナノ粒子・ワイヤー・シート、(3)ナノドット・レイヤー、(4)ナノ欠陥制御、(5)ヘテロ・ホモ構造、(6)ナノ材料・創製プロセス、(7)ナノ加工・成形プロセス、(8)ナノカーボン応用、(9)ナノマイクロ構造解析・評価・試験法
			4305	ナノバイオサイエンス		(1)DNAデバイス、(2)ナノ合成、(3)分子マニピュレーション、(4)バイオチップ、(5)1分子生理・生化学、(6)1分子生体情報学、(7)1分子科学、(8)1分子イメージング・ナノ計測、(9)ゲノム工学
			4306	ナノマイクロシステム		(1)MEMS・NEMS、(2)ナノマイクロファブリケーション、(3)ナノマイクロ光デバイス、(4)ナノマイクロ化学システム、(5)ナノマイクロバイオシステム、(6)ナノマイクロメカニクス、(7)ナノマイクロセンサー
		応用物理学	4401	応用物性		(1)磁性体、(2)超伝導体、(3)誘電体、(4)光物性、(5)微粒子、(6)有機分子、(7)液晶、(8)新機能材料、(9)スピントロニクス、(10)有機・分子エレクトロニクス、(11)バイオエレクトロニクス
			4402	結晶工学		(1)金属、(2)半導体、(3)非晶質、(4)微結晶、(5)セラミックス、(6)結晶成長、(7)エピタキシャル成長、(8)結晶評価、(9)ヘテロ構造、(10)電子・光機能
			4403	薄膜・表面界面物性		(1)強誘電体薄膜、(2)カーボン系薄膜、(3)酸化物エレクトロニクス、(4)薄膜新材料、(5)表面、(6)界面、(7)真空、(8)ビーム応用、(9)走査プローブ顕微鏡、(10)電子顕微鏡
			4404	光工学・光量子科学		(1)光学素子・装置・材料、(2)光情報処理、(3)視覚工学、(4)量子エレクトロニクス、(5)レーザー、(6)非線形光学、(7)量子光学、(8)フォトリソグラフィ、(9)光エレクトロニクス、(10)微小光学、(11)光計測、(12)光記録、(13)光制御、(14)光プロセッシング
			4405	プラズマエレクトロニクス		(1)プラズマ、(2)プラズマプロセス、(3)プラズマ応用、(4)反応性プラズマ、(5)プラズマ化学、(6)プラズマ処理、(7)プラズマ計測
			4406	応用物理学一般		(1)力、(2)熱、(3)音、(4)振動、(5)電磁気、(6)物理計測・制御、(7)標準、(8)センサー、(9)エネルギー変換、(10)放射線、(11)加速器
	量子ビーム科学	4501	量子ビーム科学		(1)加速器要素技術開発、(2)量子ビーム測定手法、(3)データ処理・解析手法、(4)検出器、(5)量子ビーム産業応用、(6)量子ビーム医療応用、(7)小型量子ビーム発生技術、(8)レーザー、(9)X線、(10)ガンマ線、(11)放射光、(12)中性子、(13)ミュオン、(14)電子・陽電子、(15)ニュートリノ、(16)イオンビーム、(17)陽子ビーム、(18)その他の量子ビーム	
	計算科学	4601	計算科学		(1)数理工学(数理解析・計画・設計・最適化)、(2)計算力学、(3)数値シミュレーション、(4)マルチスケール、(5)大規模計算、(6)超並列計算(並列化計算、3次元計算)、(7)数値計算手法、(8)先進アルゴリズム	
	数物系科学	数学	4701	代数学	1	(1)数論、(2)数論幾何学、(3)群論(含 群の表現論)、(4)代数的組み合わせ論
					2	(5)代数幾何、(6)環論(含 リー環)、(7)代数一般(含 代数解析、計算代数、代数学の応用)
			4702	幾何学	1	(1)リーマン幾何(含 幾何解析)、(2)シンプレクティック幾何(含 接触幾何)、(3)複素幾何、(4)微分幾何一般(含 種々の幾何構造、離散幾何)
					2	(5)位相幾何学(代数的位相幾何学、位相空間論)、(6)微分位相幾何(葉層構造、特異点、位相変換群)、(7)低次元トポロジー(結び目理論、3次元多様体論、4次元多様体論)
			4703	解析学基礎	1	(1)関数解析(含 作用素論・表現論)、(2)作用素環、(3)力学系・可積分系、(4)代数解析
					2	(5)実解析、(6)複素解析、(7)確率論、(8)基礎解析一般(含 関数空間論・応用解析の基礎)
			4704	数学解析		(1)関数方程式、(2)応用解析、(3)非線形解析(含 変分解析・非線形現象)
4705			数学基礎・応用数学	1	(1)数学基礎論、情報数理、(2)離散数学	
				2	(3)数値解析・数理モデル(含 予測理論、最適化、データ解析)、(4)統計数学(含 ゲーム理論、実験計画法、凸計画問題、決定理論、推定論、検定論、確率過程の推測)、(5)応用数学一般	
天文学			4801	天文学		(1)光学赤外線天文学、(2)電波天文学、(3)太陽物理学、(4)位置天文学、(5)理論天文学、(6)X線γ線天文学

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード (記号)		
理工系	数物系 科学	物理学	4901	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理	1	(1)素粒子 (理論)		
					2	(2)原子核 (理論)、(3)宇宙線 (理論)、(4)宇宙物理 (理論)、(5)相対論・重力 (理論)		
					3	(6)素粒子 (実験)、(7)原子核 (実験)、(8)宇宙線 (実験)、(9)宇宙物理 (実験)、(10)相対論・重力 (実験)、(11)加速器、(12)粒子測定技術		
			4902	物性 I		(1)半導体、(2)メゾスコピック系・局在、(3)光物性、(4)表面・界面、(5)結晶成長、(6)誘電体、(7)格子欠陥、(8)X線・粒子線、(9)フォノン物性、(10)スピン物性(半導体)		
			4903	物性 II	1	(1)磁性、(2)磁気共鳴		
					2	(3)強相関係、(4)高温超伝導、(5)金属、(6)超低温・量子凝縮系、(7)超伝導・密度波、(8)分子性固体・有機導体		
			4904	数理物理・物性基礎		(1)統計物理学、(2)物性基礎論、(3)数理物理、(4)可積分系、(5)非平衡・非線形物理学、(6)応用数学、(7)力学、(8)流体物理、(9)不規則系、(10)計算物理学		
			4905	原子・分子・量子エレクトロニクス		(1)原子・分子、(2)量子エレクトロニクス、(3)量子情報、(4)放射線、(5)ビーム物理		
			4906	生物物理・化学物理・ソフトマターの物理		(1)生命現象の物理、(2)生体物質の物理、(3)数理生物学、(4)ガラス・液体・溶液、(5)光応答・光合成・化学反応、(6)高分子・液晶・ゲル、(7)エマルジョン・膜・コロイド、(8)界面・ぬれ・接着・破壊、(9)生物物理一般、(10)化学物理一般、(11)ソフトマターの物理一般		
			地球惑星科学	地球惑星科学	5001	固体地球惑星物理学		(1)地震現象、(2)火山現象、(3)地震発生予測・火山噴火予測、(4)地震災害・火山災害、(5)地殻変動・海底変動、(6)地磁気、(7)重力、(8)テクトニクス、(9)内部構造、(10)内部ダイナミクス・物性、(11)固体惑星・衛星・小惑星、(12)惑星形成・進化、(13)固体惑星探査、(14)観測手法
					5002	気象・海洋物理・陸水学		(1)気象、(2)気候、(3)惑星大気、(4)大気海洋相互作用、(5)地球流体力学、(6)海洋物理、(7)地球環境システム、(8)陸域水循環・物質循環、(9)水収支
					5003	超高層物理学		(1)地球惑星磁気圏、(2)地磁気変動、(3)地球惑星電離圏、(4)地球惑星上層大気、(5)オーロラ・磁気嵐、(6)太陽風・惑星間空間、(7)太陽地球システム・宇宙天気、(8)宇宙プラズマ・プラズマ波動、(9)惑星プラズマ・大気探査
					5004	地質学		(1)地域地質、(2)海洋地質、(3)付加体・造山帯、(4)構造地質・テクトニクス、(5)火山・活断層・災害地質、(6)環境・水理地質、(7)第四紀学、(8)応用・都市地質、(9)堆積・燃料地質、(10)地球史・惑星地質、(11)情報地質、(12)地学史
	5005	層位・古生物学				(1)層序、(2)化石、(3)系統・進化・多様性、(4)機能・形態、(5)古生態、(6)古生物地理、(7)古環境、(8)古海洋		
	5006	岩石・鉱物・鉱床学				(1)地球惑星物質、(2)地球惑星進化、(3)地殻・マントル・核、(4)マグマ・火成岩、(5)変成岩、(6)鉱物物理、(7)天然・人工結晶、(8)元素分別濃集過程、(9)鉱床形成、(10)鉱物資源、(11)生体・環境鉱物		
	5007	地球宇宙化学				(1)地球宇宙物質、(2)物質循環、(3)元素・分子分布、(4)同位体・放射年代、(5)宇宙・惑星化学、(6)地殻・マントル化学、(7)有機地球化学、(8)生物圏地球化学、(9)大気圏・水圏化学、(10)環境化学・地球環境化学、(11)計測手法		
	5101	プラズマ科学				(1)基礎・放電プラズマ、(2)宇宙・天体プラズマ、(3)核燃焼プラズマ、(4)高エネルギー密度科学、(5)複合プラズマ、(6)反応性プラズマ、(7)プラズマ化学、(8)プラズマ応用、(9)プラズマ計測、(10)プラズマ制御・レーザー、(11)プラズマ粒子加速、(12)電子ビーム・イオンビームへの応用、(13)ミリ波・テラヘルツ波への応用		
	化学	基礎化学	5201	物理化学		(1)構造化学、(2)電子状態、(3)分子動力学、(4)化学反応、(5)反応動力学、(6)分子分光、(7)表面・界面、(8)溶液、(9)クラスター、(10)理論化学、(11)生物物理化学		
			5202	有機化学		(1)構造有機化学、(2)反応有機化学、(3)有機合成化学、(4)有機元素化学、(5)有機光化学、(6)物理有機化学、(7)理論有機化学		
			5203	無機化学		(1)金属錯体化学、(2)有機金属化学、(3)無機固体化学、(4)生物無機化学、(5)核・放射化学、(6)超分子錯体、(7)多核・クラスター錯体、(8)配位高分子、(9)溶液化学、(10)ナノマテリアル、(11)結晶構造、(12)触媒、(13)元素資源		
		複合化学	5301	機能物性化学		(1)光物性、(2)電子物性、(3)スピン、(4)複合物性、(5)分子素子、(6)超分子、(7)液晶、(8)結晶、(9)薄膜、(10)表面・界面、(11)コロイド・量子ドット、(12)電気化学		
			5302	合成化学		(1)選択的合成、(2)錯体・有機金属触媒、(3)ファインケミカルズ、(4)不斉合成、(5)触媒設計・反応、(6)環境調和型合成、(7)反応場、(8)自動合成、(9)生体模倣合成、(10)コンビナトリアル合成、(11)有機分子触媒、(12)天然物合成、(13)合成関連資源		

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）
理工系	化学	複合化学	5303	高分子化学		(1)高分子合成、(2)高分子反応・分解、(3)不斉重合、(4)自己組織化高分子、(5)高分子構造、(6)高分子物性、(7)機能性高分子、(8)生体関連高分子、(9)高分子錯体、(10)高分子薄膜・表面、(11)重合触媒、(12)高分子資源
			5304	分析化学		(1)サンプリング・前処理、(2)溶媒・固相抽出、(3)機器分析、(4)スペクトル分析、(5)レーザー分光、(6)質量分析、(7)X線・電子分光、(8)界面・微粒子分析、(9)電気化学分析、(10)化学・バイオセンサー、(11)分離分析、(12)クロマトグラフィー、(13)電気泳動分析、(14)流れ分析(FIA)、(15)マイクロ流路分析、(16)分析試薬、(17)環境分析、(18)有機・高分子分析、(19)バイオ分析
			5305	生体関連化学		(1)核酸関連化学、(2)タンパク質・酵素化学、(3)糖質関連化学・糖鎖工学、(4)天然物有機化学、(5)生物無機化学、(6)生体関連反応、(7)分子認識、(8)生体機能化学、(9)バイオテクノロジー、(10)生体触媒、(11)生体機能材料、(12)生体構造化学
			5306	グリーン・環境化学		(1)環境計測、(2)センサー・モニタリング、(3)汚染物質評価、(4)汚染指標物質、(5)環境評価、(6)環境情報化学、(7)汚染物質、(8)汚染除去材料、(9)環境負荷低減物質、(10)生分解性物質、(11)環境修復材料、(12)グリーンケミストリー、(13)サステナブルケミストリー、(14)リサイクル、(15)元素回収、(16)安全化学、(17)資源分析
			5307	エネルギー関連化学		(1)エネルギー変換、(2)低炭素化学、(3)高機能触媒、(4)光触媒、(5)分子素子材料、(6)エネルギー資源、(7)省エネルギー化学
		材料化学	5401	有機・ハイブリッド材料		(1)液晶、(2)結晶、(3)有機半導体材料、(4)有機光学材料、(5)有機無機ハイブリッド材料、(6)分子素子材料、(7)機能材料
			5402	高分子・繊維材料		(1)高分子材料物性、(2)高分子材料合成、(3)繊維材料、(4)ゴム材料、(5)ゲル、(6)高分子機能材料、(7)天然・生体高分子材料、(8)ポリマーアロイ、(9)高分子系複合材料、(10)高分子・繊維加工
	5403		無機工業材料		(1)結晶、(2)ガラス、(3)セラミックス、(4)金属材料、(5)層状・層間化合物、(6)イオン交換体、(7)イオン伝導体、(8)光触媒、(9)高機能触媒、(10)電気化学材料、(11)ナノ粒子・量子ドット、(12)多孔体	
	5404		デバイス関連化学		(1)半導体デバイス、(2)電気・磁気・光デバイス、(3)生体機能応用デバイス、(4)電池、(5)分子センサー	
	工学	機械工学	5501	機械材料・材料力学		(1)材料設計・プロセス・物性・評価、(2)連続体力学、(3)構造力学、(4)損傷力学、(5)破壊、(6)疲労、(7)環境強度、(8)信頼性設計、(9)生体力学、(10)ナノマイクロ材料力学、(11)バイオ材料力学
			5502	生産工学・加工学		(1)生産モデリング、(2)生産システム、(3)生産管理、(4)工程設計、(5)工作機械、(6)成形加工、(7)切削・研削加工、(8)特殊加工、(9)超精密加工、(10)ナノマイクロ加工、(11)精密位置決め・加工計測
			5503	設計工学・機械機能要素・トライボロジー		(1)設計工学、(2)形状モデリング、(3)CAD・CAM・CAE、(4)創造工学、(5)機構学、(6)機械要素、(7)機能要素、(8)故障診断、(9)安全・安心設計、(10)ライフサイクル設計、(11)リサイクル設計、(12)トライボロジー、(13)ナノマイクロトライボロジー
			5504	流体工学		(1)数値流体力学、(2)流体計測、(3)圧縮・非圧縮流、(4)乱流、(5)混相流、(6)反応流、(7)非ニュートン流、(8)マイクロ流、(9)分子流体力学、(10)バイオ流体力学、(11)環境流体力学、(12)音響、(13)流体機械、(14)油空圧機器
			5505	熱工学		(1)熱物性、(2)対流、(3)伝導、(4)輻射、(5)物質輸送、(6)燃焼、(7)ナノマイクロ熱工学、(8)熱機関、(9)冷凍・空調、(10)伝熱機器、(11)エネルギー工学、(12)バイオ熱工学
			5506	機械力学・制御		(1)運動力学、(2)動的設計、(3)振動学、(4)振動解析・試験、(5)制御機器、(6)モーションコントロール、(7)振動制御、(8)機械計測、(9)耐震・免震設計、(10)交通機械制御、(11)音響情報・制御、(12)音響エネルギー
			5507	知能機械学・機械システム		(1)ロボティクス、(2)メカトロニクス、(3)ナノマイクロメカトロニクス、(4)バイオメカニクス、(5)ソフトメカニクス、(6)情報機器・知能機械システム、(7)精密機械システム、(8)人間機械システム、(9)情報システム
		電気電子工学	5601	電力工学・電力変換・電気機器		(1)電気エネルギー工学(発生・変換・貯蔵・省エネルギーなど)、(2)電力系統工学、(3)電気機器、(4)パワーエレクトロニクス、(5)電気有効利用、(6)電気・電磁環境、(7)照明
			5602	電子・電気材料工学		(1)電気・電子材料(半導体、誘電体、磁性体、超誘電体、有機物、絶縁体、超伝導体など)、(2)薄膜・量子構造、(3)厚膜、(4)作成・評価技術
			5603	電子デバイス・電子機器		(1)電子デバイス・集積回路、(2)回路設計・CAD、(3)光デバイス・光回路、(4)量子デバイス・スピンデバイス、(5)マイクロ波・ミリ波・テラヘルツ波、(6)波動利用工学、(7)バイオデバイス、(8)記憶・記録、(9)表示、(10)センシングデバイス、(11)微細プロセス技術、(12)インターコネクト・パッケージのシステム化・応用
5604			通信・ネットワーク工学		(1)電子回路網、(2)非線形理論・回路、(3)情報理論、(4)信号処理、(5)通信方式(無線、有線、衛星、光、移動)、(6)変復調、(7)符号化、(8)プロトコル、(9)アンテナ、(10)中継・交換、(11)ネットワーク・LAN、(12)マルチメディア、(13)暗号・セキュリティ	
5605			計測工学		(1)計測理論、(2)計測機器、(3)計測システム、(4)信号処理、(5)センシング情報処理	
5606	制御・システム工学		(1)制御理論、(2)システム理論、(3)知識型制御、(4)制御機器、(5)制御システム、(6)複雑系、(7)システム情報(知識)処理、(8)社会システム工学、(9)経営システム工学、(10)環境システム工学、(11)生産システム工学、(12)バイオシステム工学			

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）
理工系	工学	土木工学	5701	土木材料・施工・建設マネジメント		(1)コンクリート、(2)鋼材、(3)高分子材料、(4)複合材料・新材料、(5)木材、(6)施工、(7)舗装・瀝青材料、(8)維持・管理、(9)建設事業計画・設計、(10)建設マネジメント、(11)地下空間、(12)土木情報学
			5702	構造工学・地震工学・維持管理工学		(1)応用力学、(2)構造工学、(3)鋼構造、(4)コンクリート構造、(5)複合構造、(6)風工学、(7)地震工学、(8)耐震構造、(9)地震防災、(10)維持管理工学
			5703	地盤工学		(1)土質力学、(2)基礎工学、(3)岩盤工学、(4)土木地質、(5)地盤の挙動、(6)地盤と構造物、(7)地盤防災、(8)地盤環境工学、(9)トンネル工学
			5704	水工学		(1)水理学、(2)環境水理学、(3)水文学、(4)河川工学、(5)水資源工学、(6)海岸工学、(7)港湾工学、(8)海洋工学
			5705	土木計画学・交通工学		(1)土木計画、(2)地域都市計画、(3)国土計画、(4)防災計画・環境計画、(5)交通計画、(6)交通工学、(7)鉄道工学、(8)測量・リモートセンシング、(9)景観・デザイン、(10)土木史
			5706	土木環境システム		(1)環境計画・管理、(2)環境システム、(3)環境保全、(4)用排水システム、(5)廃棄物、(6)土壌・水環境、(7)大気循環・騒音振動、(8)環境生態
		建築学	5801	建築構造・材料		(1)荷重論、(2)構造解析、(3)構造設計、(4)コンクリート構造、(5)鋼構造、(6)木構造、(7)合成構造、(8)基礎構造、(9)構造材料、(10)建築工法、(11)保全技術、(12)地震防災、(13)構造制御、(14)耐震設計、(15)耐風設計
			5802	建築環境・設備		(1)音・振動環境、(2)光環境、(3)熱環境、(4)空気環境、(5)環境設備計画、(6)環境心理生理、(7)建築設備、(8)火災工学、(9)地球・都市環境、(10)環境設計
			5803	都市計画・建築計画		(1)計画論、(2)設計論、(3)住宅論、(4)各種建物・地域施設、(5)都市・地域計画、(6)行政・制度、(7)建築・都市経済、(8)生産管理、(9)防災計画、(10)景観・環境計画
			5804	建築史・意匠		(1)建築史、(2)都市史、(3)建築論、(4)意匠、(5)様式、(6)景観・環境、(7)保存・再生
		材料工学	5901	金属物性・材料		(1)電子・磁気物性、(2)力学・熱・光物性、(3)表面・薄膜物性、(4)磁性・電子・情報材料、(5)超伝導・半導体材料、(6)アモルファス・金属ガラス・準結晶、(7)第一原理計算・材料設計シミュレーション、(8)原子・電子構造評価、(9)拡散・相変態・状態図
			5902	無機材料・物性		(1)結晶構造・組織制御、(2)力学・電子・電磁・光・熱物性、(3)表面制御、(4)機能性セラミックス材料、(5)機能性ガラス材料、(6)構造用セラミックス材料、(7)カーボン材料、(8)誘電体、(9)無機材料創成・合成プロセス
	5903		複合材料・表面工学		(1)機能性複合材料、(2)構造用複合材料、(3)ハイブリッド・スマート・生体材料、(4)表面・界面・粒界制御、(5)プラズマ処理・レーザー加工・表面処理、(6)耐久性・環境劣化・モニタリング・評価、(7)接合・接着・溶接、(8)易リサイクル接合・複合、(9)設計・作製プロセス・加工、(10)複合高分子	
	5904		構造・機能材料		(1)強度・破壊靱性、(2)信頼性、(3)エネルギー材料、(4)燃料電池・電池材料、(5)センサー・光機能材料、(6)生体・医療・福祉材料、(7)多機能材料、(8)社会基盤構造材料、(9)機能性高分子材料	
	5905		材料加工・組織制御工学		(1)塑性加工・成形、(2)加工・熱処理、(3)精密・特殊加工プロセス、(4)結晶・組織制御、(5)電気化学プロセス、(6)粉末プロセス・粉末冶金、(7)薄膜プロセス・めっき・配線、(8)電極触媒・作用	
	5906		金属・資源生産工学		(1)反応・分離・精製、(2)融体・凝固、(3)鋳造、(4)結晶育成・成長、(5)各種製造プロセス、(6)エコマテリアル化・省エネルギープロセス、(7)希少資源代替プロセス・ユビキタス化、(8)環境浄化・低負荷・環境調和、(9)リサイクル・循環・再利用・変換、(10)資源分離・保障・確保	
	プロセス・化学工学	6001	化工物性・移動操作・単位操作		(1)平衡・輸送物性、(2)流動・伝熱・物質移動操作、(3)蒸留、(4)抽出、(5)吸収、(6)吸着、(7)イオン交換、(8)膜分離、(9)異相分離、(10)超高度分離、(11)攪拌・混合操作、(12)粉粒体操作、(13)晶析操作、(14)薄膜・微粒子形成操作、(15)高分子成形加工操作	
		6002	反応工学・プロセスシステム		(1)気・液・固・超臨界流体反応操作、(2)新規反応場、(3)反応速度、(4)反応機構、(5)反応装置、(6)材料合成プロセス、(7)重合プロセス、(8)計測、(9)センサー、(10)プロセス制御、(11)プロセスシステム設計、(12)プロセス情報処理、(13)プロセス運転・設備管理	
		6003	触媒・資源化学プロセス		(1)触媒反応、(2)触媒調製化学、(3)触媒機能解析、(4)エネルギー変換プロセス、(5)化石燃料有効利用技術、(6)資源・エネルギー有効利用技術、(7)省資源・省エネルギー技術、(8)燃焼技術	
		6004	生物機能・バイオプロセス		(1)生体触媒工学、(2)生物機能工学、(3)食品工学、(4)医用化学工学、(5)バイオ生産プロセス、(6)生物環境プロセス、(7)マイクロ・ナノバイオプロセス、(8)応用生物電気化学、(9)バイオリクター、(10)バイオセンサー、(11)バイオセパレーション、(12)バイオリファイナリー、(13)生物情報工学	

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）
理工系	工学	総合工学	6101	航空宇宙工学		(1)航空宇宙流体力学、(2)構造・材料、(3)振動・強度、(4)誘導・航法・制御、(5)推進・エンジン、(6)飛行力学、(7)航空宇宙システム、(8)設計・計装、(9)特殊航空機、(10)宇宙利用・探査、(11)航空宇宙環境
			6102	船舶海洋工学		(1)推進・運動性能、(2)材料・構造力学、(3)船舶海洋流体力学、(4)計画・設計・生産システム、(5)建造・艤装、(6)海上輸送システム、(7)船用機関・燃料、(8)海洋環境、(9)海洋資源・エネルギー、(10)海洋探査・機器、(11)海中・海底工学、(12)極地工学、(13)海事システム
			6103	地球・資源システム工学		(1)応用地質、(2)地殻工学、(3)リモートセンシング、(4)地球計測、(5)地球システム、(6)資源探査、(7)資源開発、(8)資源評価、(9)資源処理、(10)廃棄物地下保存・処分、(11)地層汚染修復、(12)深地層開発、(13)素材資源、(14)再生可能資源・エネルギー、(15)資源経済
			6104	核融合学		(1)炉心プラズマ、(2)周辺・ダイバータプラズマ、(3)プラズマ計測、(4)核融合理論・シミュレーション、(5)プラズマ・壁相互作用、(6)プラズマ対向機器・加熱機器、(7)燃料・ブランケット、(8)低放射化材料、(9)電磁・マグネット、(10)慣性核融合、(11)核融合システム工学、(12)安全・生物影響・社会環境
			6105	原子力学		(1)放射線工学・ビーム科学、(2)炉物理・核データ、(3)原子力計測・放射線物理、(4)熱流動、(5)構造、(6)システム設計・安全工学、(7)原子力材料・核燃料、(8)同位体・放射線化学、(9)燃料サイクル、(10)バックエンド、(11)新型原子炉、(12)保健物理・環境安全、(13)原子力社会環境
			6106	エネルギー学		(1)エネルギー生成・変換、(2)エネルギー輸送・貯蔵、(3)エネルギー節約・効率利用、(4)エネルギーシステム、(5)環境調和、(6)自然エネルギーの利用
生物系	総合生物	神経科学	6201	神経生理学・神経科学一般		(1)分子・細胞神経科学、(2)発生・発達・再生神経科学、(3)神経内分泌学、(4)臨床神経科学、(5)神経情報処理、(6)行動神経科学、(7)計算論的神経科学、(8)システム神経生理学、(9)体性・内臓・特殊感覚
			6202	神経解剖学・神経病理学	A	〔神経解剖学〕 (1)神経回路網、(2)神経組織学、(3)分子神経生物学、(4)神経微細形態学、(5)神経組織細胞化学、(6)神経発生・分化・異常、(7)神経再生・神経可塑性、(8)神経実験形態学、(9)脳画像解剖学、(10)神経細胞学
					B	〔神経病理学〕 (11)神経細胞病理学、(12)分子神経病理学、(13)神経変性疾患、(14)脳発達障害・代謝性疾患、(15)認知症疾患、(16)脳循環障害、(17)脳腫瘍、(18)脊髄・末梢神経・筋肉疾患
		6203	神経化学・神経薬理学		(1)分子・細胞・神経生物学、(2)発生・分化・老化、(3)神経伝達物質・受容体、(4)細胞内情報伝達、(5)グリア細胞、(6)精神・神経疾患の病態と治療、(7)幹細胞生物学・再生・修復、(8)神経可塑性、(9)中枢・末梢神経薬理学、(10)神経創薬、(11)神経ゲノム科学	
		実験動物学	6301	実験動物学		(1)環境・施設、(2)感染症、(3)凍結保存、(4)安全性、(5)疾患モデル、(6)育種遺伝、(7)発生工学、(8)実験動物福祉、(9)動物実験技術、(10)リサーチバイオリソース、(11)評価技術
		腫瘍学	6401	腫瘍生物学	A	(1)ゲノム不安定性、(2)エピジェネティクス、(3)がんゲノム解析、(4)発がん、(5)炎症とがん、(6)実験動物モデル、(7)遺伝子改変動物、(8)がん遺伝子、(9)がん制御遺伝子、(10)シグナル伝達、(11)DNA複製、(12)細胞周期、(13)がんと遺伝、(14)アポトーシス、(15)細胞極性、(16)細胞接着・運動、(17)浸潤・転移、(18)がん細胞の特性、(19)がん微小環境、(20)血管新生、(21)リンパ管新生、(22)幹細胞、(23)細胞老化、(24)細胞不死化
					B	(25)疫学研究、(26)バイオバンク、(27)遺伝子環境交互作用、(28)予防介入研究、(29)化学予防、(30)がん研究と社会の接点
			6402	腫瘍診断学		(1)ゲノム解析、(2)プロテオミクス解析、(3)発現解析、(4)がんの個性診断、(5)オーダーメイド治療、(6)薬効評価と予測、(7)バイオマーカー、(8)腫瘍マーカー、(9)分子イメージング、(10)エピゲノム、(11)miRNA、(12)機能性RNA
			6403	腫瘍治療学		(1)抗がん物質探索・ケミカルバイオロジー、(2)化学療法、(3)分子標的治療、(4)内分泌療法、(5)ドラッグデリバリー、(6)物理療法、(7)遺伝子治療、(8)核酸治療、(9)細胞療法、(10)液性免疫、(11)細胞免疫、(12)抗体療法、(13)免疫療法、(14)ワクチン療法、(15)細胞免疫療法、(16)サイトカイン、(17)免疫抑制、(18)免疫活性化
		ゲノム科学	6501	ゲノム生物学		(1)ゲノム構造多様性、(2)動物ゲノム、(3)植物ゲノム、(4)微生物ゲノム、(5)メタゲノム、(6)オルガネラゲノム、(7)ゲノム進化、(8)ゲノム構築、(9)ゲノム維持修復、(10)ゲノム機能発現、(11)遺伝子発現調節、(12)トランスクリプトーム、(13)プロテオーム、(14)メタボローム、(15)エピゲノム、(16)比較ゲノム、(17)生物多様性
			6502	ゲノム医科学		(1)疾患関連遺伝子、(2)個別化医療、(3)遺伝子診断、(4)ヒトゲノム構造多様性、(5)ゲノム創薬、(6)再生医療、(7)ゲノムワイド関連解析、(8)ヒトゲノム配列再解析、(9)疾患モデル生物ゲノム、(10)疾患エピゲノミクス、(11)ヒト集団遺伝学、(12)遺伝統計学、(13)メディカルインフォマティクス、(14)ヒト・動物細菌叢
6503	システムゲノム科学			(1)遺伝子ネットワーク、(2)蛋白質ネットワーク、(3)代謝ネットワーク、(4)発生分化、(5)合成生物学、(6)データベース生物学、(7)バイオデータベース、(8)モデル化とシミュレーション、(9)バイオインフォマティクス、(10)ゲノム解析技術、(11)機能性RNA、(12)エピゲノム制御、(13)ゲノム生物学、(14)遺伝子資源		
生物資源保全学	6601	生物資源保全学		(1)保全生物、(2)生物多様性保全、(3)系統生物保全、(4)遺伝子資源保全、(5)生態系保全、(6)在来種保全、(7)微生物保全、(8)細胞・組織・種子保存		

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）
生物系	生物学	生物科学	6701	分子生物学		(1)染色体構築・機能・分配、(2)エピジェネティクス、(3)クロマチン動態、(4)DNA複製、(5)DNA損傷・修復、(6)組換え、(7)転写・転写調節、(8)転写後調節、(9)RNA、(10)翻訳、(11)翻訳後修飾、(12)超分子複合体
			6702	構造生物化学		(1)糖質、(2)脂質、(3)核酸、(4)タンパク質、(5)酵素、(6)遺伝子及び染色体、(7)生体膜及び受容体、(8)細胞間マトリックス、(9)細胞小器官、(10)翻訳後修飾、(11)分子認識及び相互作用、(12)変性とフォールディング、(13)立体構造解析及び予測、(14)NMR、(15)質量分析、(16)X線結晶解析、(17)高分解能電子顕微鏡解析
			6703	機能生物化学		(1)酵素の触媒機構、(2)酵素の調節、(3)遺伝子の情報発現と複製、(4)生体エネルギー変換、(5)金属タンパク質、(6)生体微量元素、(7)ホルモンと生理活性物質、(8)細胞情報伝達機構、(9)膜輸送と輸送タンパク質、(10)細胞内タンパク質分解、(11)細胞骨格、(12)免疫生化学、(13)糖鎖生物学、(14)生物電気化学
			6704	生物物理学		(1)タンパク質・核酸の構造・動態・機能、(2)運動・輸送、(3)生体膜・受容体・チャンネル、(4)光生物、(5)細胞情報・動態、(6)脳・神経系の情報処理、(7)理論生物学・バイオインフォマティクス、(8)構造生物学、(9)フォールディング、(10)構造・機能予測、(11)1分子計測・操作、(12)バイオイメージング、(13)非平衡・複雑系
			6705	細胞生物学		(1)細胞構造・機能、(2)生体膜、(3)細胞骨格・運動、(4)細胞内情報伝達、(5)細胞間情報伝達、(6)細胞周期、(7)細胞質分裂、(8)核構造・機能、(9)細胞間相互作用・細胞外マトリックス、(10)タンパク質分解、(11)クロマチン、(12)オルガネラ形成・動態
			6706	発生生物学		(1)細胞分化、(2)幹細胞、(3)胚葉形成・原腸形成、(4)器官形成、(5)受精、(6)生殖細胞、(7)遺伝子発現調節、(8)発生遺伝、(9)進化発生
		基礎生物学	6801	植物分子・生理科学		(1)色素体機能・光合成、(2)植物ホルモン・成長生理・全能性、(3)オルガネラ・細胞壁、(4)環境応答、(5)植物微生物相互作用・共生、(6)代謝生理、(7)植物分子機能
			6802	形態・構造		(1)動物形態、(2)植物形態、(3)微生物・藻類形態、(4)比較内分泌、(5)分子形態学、(6)形態形成・シミュレーション、(7)組織構築、(8)微細構造、(9)顕微鏡技術・イメージング
			6803	動物生理・行動		(1)代謝生理、(2)神経生物、(3)神経行動、(4)行動生理、(5)動物生理化学
			6804	遺伝・染色体動態		(1)細胞遺伝、(2)集団遺伝、(3)進化遺伝、(4)人類遺伝、(5)遺伝的多様性、(6)発生遺伝、(7)行動遺伝、(8)変異誘発、(9)染色体再編・維持、(10)モデル生物開発、(11)トランスボゾン、(12)QTL解析、(13)エピジェネティクス
	6805		進化生物学		(1)生命起源、(2)真核生物起源、(3)オルガネラ起源、(4)多細胞起源、(5)分子進化、(6)形態進化、(7)機能進化、(8)遺伝子進化、(9)進化生物学一般、(10)比較ゲノム、(11)実験進化学	
	6806		生物多様性・分類		(1)分類群、(2)分類体系、(3)進化、(4)遺伝的多様性、(5)集団・種多様性、(6)群集・生態系多様性、(7)分類形質、(8)系統、(9)種分化、(10)自然史、(11)博物館	
	6807		生態・環境		(1)個体群、(2)生物社会、(3)種間関係、(4)群集、(5)生態系、(6)進化生態、(7)行動生態、(8)自然環境、(9)生理生態、(10)分子生態、(11)保全生態学	
	人類学	6901	自然人類学		(1)形態、(2)先史・年代測定、(3)生体機構、(4)分子・遺伝、(5)生態、(6)霊長類、(7)進化、(8)成長・老化、(9)社会、(10)行動・認知、(11)生殖・発生、(12)骨考古学、(13)地理的多様性	
		6902	応用人類学		(1)生理人類学、(2)人間工学、(3)生理的多型性、(4)環境適応能、(5)全身的協同、(6)機能的潜在性、(7)テクノ・アダプタビリティ、(8)ソマトメトリー、(9)被服、(10)生体・適応、(11)体質・健康、(12)法医学人類学、(13)医療人類学	
	農学	生産環境農学	7001	遺伝育種科学		(1)遺伝子発現制御・エピゲノム、(2)遺伝子ネットワーク、(3)オミクス解析、(4)トランスボゾン、(5)オルガネラ、(6)生長・発生遺伝、(7)ゲノム・染色体解析、(8)生殖・雑種・倍数性、(9)環境ストレス、(10)生物的ストレス、(11)収量・バイオマス、(12)加工適性・成分育種、(13)遺伝育種リソース・多様性、(14)遺伝子地図・QTL解析、(15)遺伝子導入・変異作出、(16)ゲノム育種・マーカー育種、(17)育種理論・インフォマティクス、(18)有用遺伝子組換え植物作出・アセスメント
			7002	作物生産科学		(1)食用作物、(2)工芸作物、(3)飼料・草地利用作物、(4)バイオ燃料植物、(5)資源植物、(6)栽培・作付体系、(7)農作業体系、(8)作物品質・食味、(9)雑草科学、(10)雑草制御、(11)アレロケミカル、(12)有機農業、(13)環境調和型作物生産、(14)ファイトレメディエーション、(15)休耕地管理、(16)地力維持・増強、(17)ストレス応答反応、(18)生育環境・気候変動、(19)生育予測・モデル
			7003	園芸科学		(1)果樹、(2)野菜、(3)観賞・景観環境植物、(4)植物生産管理技術、(5)組換え遺伝子・遺伝子解析技術、(6)園芸ゲノム科学・バイオインフォマティクス、(7)受粉受精・胚発生、(8)果実発育・成熟、(9)生育障害・生理障害、(10)植物成長調節物質、(11)色素芳香成分・機能性成分、(12)環境応答・環境調節、(13)施設園芸・植物工場、(14)ポストハーベスト・青果物加工技術、(15)種苗種子生産・繁殖、(16)資源植物開発利用、(17)生体計測・園芸ロボティクス、(18)園芸福祉・園芸療法

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）										
生物系	農学	生産環境農学	7004	植物保護科学	A	(1)植物病原体、(2)線虫・寄生性高等植物、(3)ゲノム、(4)系統分類・進化、(5)病原性、(6)抵抗性、(7)病害発生、(8)病害診断、(9)同定、(10)病害防除・治療、(11)伝染・生態・媒介、(12)宿主特異性、(13)植物感染生理、(14)植物-病原体相互作用、(15)植物生理病、(16)ポストハーベスト病害、(17)抵抗性育種、(18)RNAサイレンシング、(19)内生菌・共生菌										
					B	(20)化学農薬・生物農薬、(21)薬剤耐性・除草剤耐性、(22)農薬障害、(23)植物成長調整剤・プラントアクチベーター、(24)天然生理活性物質、(25)病害虫管理、(26)ダニ・線虫管理、(27)雑草管理、(28)外来植物、(29)アレロパシー、(30)総合的病害虫管理(I.P.M.)、(31)媒介昆虫、(32)害虫個体群、(33)天敵、(34)侵入病害虫、(35)昆虫分類、(36)発生予察、(37)鳥獣管理、(38)環境ストレス応答・耐性、(39)植物生育環境、(40)耕種の防除・物理的防除、(41)病害虫抵抗性作物、(42)植物傷害応答、(43)植物-昆虫相互作用										
	農芸化学	7101	植物栄養学・土壌学	7101	植物栄養学・土壌学		(1)植物成長・生理、(2)植物栄養代謝、(3)植物代謝調節、(4)植物分子生理学、(5)肥料、(6)土壌生成・分類、(7)土壌物理、(8)土壌化学、(9)土壌生物、(10)土壌環境、(11)土壌生態学、(12)土壌肥沃度、(13)土壌汚染防除									
							7102	応用微生物学		(1)微生物分類、(2)発酵生産、(3)微生物生理、(4)微生物遺伝・育種、(5)微生物酵素、(6)微生物代謝、(7)微生物機能、(8)微生物利用学、(9)環境微生物、(10)二次代謝産物生産、(11)微生物生態学、(12)微生物制御学、(13)遺伝子資源、(14)遺伝子発現、(15)代謝制御、(16)環境・細胞応答、(17)微生物ゲノム						
										7103	応用生物化学		(1)動物生化学、(2)植物生化学、(3)酵素利用学、(4)遺伝子工学、(5)タンパク質工学、(6)構造生物学、(7)生物工学、(8)代謝工学、(9)酵素化学、(10)糖質・脂質科学、(11)細胞・組織培養、(12)代謝生理、(13)遺伝子発現、(14)物質生産、(15)細胞応答、(16)情報伝達、(17)微量元素			
													7104	生物有機化学		(1)生物活性物質、(2)細胞機能調節物質、(3)農薬科学、(4)植物成長調節物質、(5)情報分子、(6)生合成、(7)天然物化学、(8)ケミカルバイオロジー、(9)物理化学、(10)分析化学、(11)有機合成化学、(12)生物制御化学、(13)分子認識、(14)構造活性相関
																7105
	2	(8)食品物理学、(9)食品分析、(10)食品工学、(11)食品製造・加工、(12)食品貯蔵、(13)食品安全性														
	森林圏科学	7201	森林科学	7201	森林科学		(1)生態・生物多様性、(2)遺伝・育種、(3)生理、(4)分類、(5)立地・気象、(6)造林、(7)病理・微生物、(8)昆虫・動物、(9)計画・管理、(10)政策・経済、(11)持続的林业、(12)作業システム・林道・機械、(13)治山・砂防・緑化、(14)水資源・水循環、(15)物質循環・フラックス、(16)気候変動・炭素収支、(17)バイオマス、(18)景観生態・風致・緑地管理、(19)環境教育・森林教育									
							7202	木質科学	(1)組織構造、(2)材質・物性、(3)セルロース・ヘミセルロース、(4)リグニン、(5)抽出成分・生理活性成分、(6)微生物、(7)きのこ・木材腐朽菌、(8)化学加工・接着、(9)保存・文化財、(10)乾燥、(11)機械加工、(12)木質材料、(13)強度・木質構造、(14)居住性、(15)林産教育、(16)木質バイオマス、(17)紙パルプ							
	水圏応用科学	7301	水圏生産科学	7301	水圏生産科学	A	(1)水圏環境、(2)生物環境、(3)環境保全、(4)水質・底質、(5)海洋・物質循環、(6)藻場・干潟、(7)修復・再生、(8)環境微生物、(9)プランクトン、(10)ネクトン、(11)ベントス、(12)赤潮、(13)環境毒性、(14)水圏生態システム、(15)温暖化、(16)生物多様性、(17)リモートセンシング									
						B	(18)分類・形態、(19)生態・行動、(20)バイオロギング、(21)資源・資源管理、(22)漁業、(23)増養殖、(24)水産動物、(25)水産植物、(26)遺伝・育種、(27)魚病・水族病理、(28)水産工学、(29)漁村社会・水産政策、(30)水産経済・経営・流通、(31)水産教育、(32)水産開発									
		7302	水圏生命科学	(1)発生、(2)生理、(3)免疫・生体防御、(4)代謝・酵素、(5)水族栄養、(6)生化学、(7)分子生物学、(8)マリンゲノム、(9)遺伝子資源、(10)生物工学、(11)微生物機能、(12)糖鎖生物学、(13)ケミカルバイオロジー、(14)バイオミメティクス、(15)生物活性物質、(16)天然物化学、(17)生体高分子、(18)分析化学、(19)水産食品化学、(20)機能性食品、(21)水産食品加工・貯蔵、(22)食品微生物、(23)食品衛生、(24)自然毒、(25)食品安全性、(26)ゼロエミッション、(27)水圏バイオマス利用、(28)バイオエネルギー												
	社会経済農学	7401	経営・経済農学	7401	経営・経済農学		(1)食料自給・食料安全保障、(2)食料経済、(3)農漁村経済・計画、(4)農業関連産業、(5)食農環境経済、(6)食料政策、(7)農林水産業政策、(8)国際食料経済・貿易、(9)農林水産投資・金融、(10)農畜水産物・食品流通、(11)フードシステム、(12)食の安全・リスク管理、(13)農林水産業経営、(14)農林水産技術・知識評価、(15)経営管理・診断・計画、(16)土地利用、(17)農の付加価値化、(18)マーケティング、(19)経営倫理・CSR、(20)集落営農、(21)農林水産業支援組織、(22)経営主体、(23)食農情報システム、(24)企業の農業参入、(25)農業普及									
							7402	社会・開発農学	(1)農村社会、(2)農村生活、(3)地産地消、(4)食農教育、(5)農村リーダー・NPO、(6)都市農村交流、(7)女性の農業・社会参画、(8)農社会と文化、(9)農業・農村の多面的機能、(10)農史・農法比較、(11)農思想・倫理、(12)国際農業、(13)国際農漁村開発、(14)開発プロジェクトマネジメント、(15)技術の普及と移転、(16)食遷移、(17)commons							

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）
生物系	農学	農業工学	7501	地域環境工学・計画学		(1)農業水利・灌漑排水、(2)農地整備・保全、(3)農村計画、(4)農村環境、(5)地域景観・生態系、(6)地域振興・持続可能性、(7)物質エネルギー循環・管理、(8)水資源、(9)自然エネルギー、(10)地域ガバナンス、(11)地域防災、(12)土壤環境保全、(13)農業施設・ストックマネジメント、(14)農村道路、(15)集落排水、(16)国際農業農村開発、(17)水理、(18)水文・気象、(19)水・水環境、(20)土壤物理、(21)土質力学、(22)応用力学、(23)材料・設計・施工
			7502	農業環境・情報工学	A	(1)生物生産システム、(2)生物生産機械、(3)施設園芸・植物工場、(4)生物環境調節、(5)バイオプロセッシング、(6)農業生産環境、(7)農業気象・微気象、(8)気象災害、(9)地球環境・温暖化影響、(10)環境改善・緑化、(11)再生可能エネルギー、(12)農作業技術管理、(13)農業労働科学、(14)ポストハーベスト工学、(15)流通管理
					B	(16)生体計測、(17)細胞計測、(18)非破壊計測、(19)画像計測、(20)環境ストレス応答、(21)バイオセンシング、(22)画像情報処理・画像認識、(23)アグリバイオインフォマティクス、(24)リモートセンシング、(25)地理情報システム、(26)モデリング・シミュレーション、(27)コンピュータネットワーク・ICT、(28)農業ロボティクス、(29)精密農業、(30)生物環境情報、(31)農業情報、(32)農作業情報
		動物生命科学	7601	動物生産科学	A	(1)育種、(2)繁殖、(3)栄養・飼養、(4)飼料、(5)代謝・内分泌制御
					B	(6)家畜衛生、(7)動物管理・福祉、(8)環境、(9)施設・生産システム、(10)草地、(11)放牧、(12)畜産物、(13)糞尿処理、(14)畜産バイオマス、(15)畜産経営、(16)畜産物流通
			7602	獣医学	A	(1)病理、(2)病態、(3)薬理、(4)トキシコロジー、(5)病原微生物、(6)人獣共通感染症、(7)寄生虫、(8)獣医公衆衛生、(9)防疫、(10)疫学
					B	(11)内科、(12)外科、(13)臨床繁殖・産科、(14)診断・検査、(15)臨床病理、(16)治療・看護、(17)疾病予防・制御、(18)麻酔・鎮痛、(19)放射線科学、(20)動物福祉・倫理
			7603	統合動物科学	A	(1)生理、(2)組織、(3)解剖、(4)内分泌、(5)細胞機能、(6)免疫、(7)生体防御、(8)遺伝、(9)エピジェネティクス、(10)ゲノム、(11)発生・分化、(12)生体情報、(13)生態、(14)行動、(15)心理
					B	(16)遺伝子工学、(17)細胞工学、(18)発生工学、(19)幹細胞、(20)再生医療、(21)イメージング、(22)野生動物、(23)実験動物、(24)疾患モデル動物、(25)コンパニオンアニマル、(26)動物介在療法、(27)バイオリソース、(28)生物多様性
		境界農学	7701	昆虫科学		(1)昆虫機能利用・有用物質生産、(2)養蚕・蚕糸、(3)昆虫病理、(4)昆虫病原微生物・ウイルス、(5)昆虫生態、(6)昆虫生理生化学、(7)昆虫分子生物学、(8)昆虫行動、(9)昆虫個体群・群集、(10)昆虫進化・系統分類、(11)昆虫遺伝・ゲノム、(12)昆虫発生・生殖、(13)生活史・季節適応、(14)化学生態学、(15)化学的・物理的交信、(16)寄生・共生、(17)クモ・ダニ・線虫、(18)養蜂、(19)ポリネーション、(20)社会性昆虫、(21)昆虫ミメティクス
					A	(1)バイオマス、(2)生物環境、(3)遺伝資源、(4)生物多様性、(5)環境分析、(6)環境修復、(7)環境浄化、(8)水域汚染、(9)環境適応、(10)生態系サービス、(11)資源環境バランス、(12)資源循環システム、(13)環境価値評価、(14)低炭素社会、(15)LCA、(16)環境調和型農業、(17)流域管理、(18)陸海域の統合農学、(19)地域農学
	7702		環境農学(含ランドスケープ科学)	B	(20)ランドスケープデザイン、(21)造園、(22)緑地計画、(23)景観形成・保全、(24)文化的景観、(25)自然環境保全・自然再生、(26)都市環境デザイン、(27)自然環境影響評価、(28)生物生息空間、(29)生態系機能、(30)景観生態、(31)都市農地、(32)公園管理・緑地環境管理、(33)都市公園・防災公園、(34)自然公園、(35)環境緑化学、(36)都市緑化植物、(37)観光・グリーンツーリズム・レクリエーション、(38)参加型まちづくり、(39)CSRと緑化	
						(1)細胞生物学、(2)染色体工学、(3)糖鎖工学、(4)オルガネラ工学、(5)細胞・組織工学、(6)エピジェネティクス、(7)発現制御、(8)発生・分化制御、(9)細胞間相互作用、(10)分子間相互作用、(11)生物間相互作用、(12)バイオセンサー、(13)細胞機能、(14)分子情報、(15)機能分子設計、(16)プロテオーム、(17)メタボローム、(18)物質生産、(19)培養工学、(20)バイオロジクス
	医歯薬学	薬学	7801	化学系薬学		(1)有機化学、(2)合成化学、(3)生体関連物質、(4)天然物化学、(5)有機反応学、(6)ヘテロ環化学、(7)不斉合成
			7802	物理系薬学		(1)物理化学、(2)分析化学、(3)製剤学、(4)生物物理化学、(5)同位体薬品化学、(6)生命錯体化学、(7)分子構造学、(8)構造生物学、(9)イメージング、(10)ドラッグデリバリー、(11)情報科学
			7803	生物系薬学		(1)生化学、(2)分子生物学、(3)免疫学、(4)細胞生物学、(5)発生生物学、(6)ゲノム機能学、(7)生理化学、(8)内分泌学
			7804	薬理系薬学		(1)薬理学、(2)薬効解析学、(3)神経生物学、(4)薬物治療学、(5)細胞情報伝達学、(6)毒性・医薬品安全性学、(7)システム薬理学、(8)ゲノム薬理学
			7805	天然資源系薬学		(1)生薬学、(2)薬用資源学、(3)天然薬物学、(4)漢方・和漢薬、(5)伝統医薬、(6)生合成、(7)抗生物質・微生物薬品学、(8)天然活性物質、(9)薬用食品学

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）
生物系	医歯薬学	薬学	7806	創薬化学		(1)医薬品化学、(2)医薬分子設計、(3)医薬品探索、(4)医薬分子機能学、(5)ゲノム創薬、(6)レギュラトリーサイエンス、(7)ケミカルバイオロジー、(8)バイオ医薬品
			7807	環境・衛生系薬学		(1)環境衛生学、(2)環境化学、(3)環境動態学、(4)食品衛生学、(5)栄養化学、(6)微生物・感染症学、(7)中毒学、(8)環境毒性学、(9)化粧品科学、(10)衛生試験
			7808	医療系薬学	1	(1)薬物動態学、(2)薬物代謝学、(3)薬物輸送担体、(4)薬物動態・代謝スクリーニング系、(5)ヒトの薬物動態・代謝予測系、(6)臨床化学、(7)個別医療
		2			(8)臨床薬学、(9)医療薬剤学、(10)医薬品情報・安全性学、(11)薬剤経済学、(12)社会薬学、(13)病院薬学・保険薬局管理学、(14)医療薬学教育学	
		基礎医学	7901	解剖学一般（含組織学・発生学）	1	(1)肉眼解剖学、(2)機能解剖学、(3)臨床解剖学、(4)比較解剖学、(5)画像解剖学、(6)発生学・形態形成学、(7)先天異常学・奇形学、(8)実験形態学、(9)解剖学教育
					2	(10)細胞学、(11)組織学、(12)細胞分化・組織形成、(13)細胞機能形態学、(14)細胞微細形態学、(15)分子形態学、(16)細胞組織化学、(17)顕微鏡技術
			7902	生理学一般		(1)分子・細胞生理学、(2)生体膜・チャネル・トランスポーター・能動輸送、(3)受容体・細胞内シグナル伝達、(4)刺激分泌連関、(5)上皮機能、(6)遺伝・受精・発生・分化、(7)細胞増殖・細胞死、(8)細胞運動・形態形成・細胞間相互作用、(9)微小循環・末梢循環・循環力学・循環調節、(10)換気力学・血液ガス・呼吸調節、(11)消化管運動・消化吸収、(12)腎・体液・酸塩基平衡、(13)血液凝固・血液レオロジー、(14)病態生理、(15)システム生理・フィジオーム、(16)比較生理学・発達生理学・ゲノム生理学、(17)筋肉生理学
			7903	環境生理学（含体力医学・栄養生理学）		(1)環境生理学、(2)体力医学、(3)栄養生理学、(4)適応・協同生理学、(5)生体リズム、(6)発達・成長・老化、(7)ストレス、(8)宇宙医学、(9)行動生理学、(10)生物時計、(11)温熱生理学、(12)摂食調節、(13)睡眠・覚醒、(14)生殖生理学
			7904	薬理学一般		(1)腎臓、(2)骨格筋・平滑筋、(3)消化器、(4)炎症・免疫、(5)生理活性物質、(6)中枢・末梢神経、(7)脊髄・痛み、(8)受容体・チャネル・輸送系・シグナル情報伝達系、(9)心血管・血液、(10)創薬・ゲノム薬理学、(11)薬物治療・トキシコロジー、(12)生薬・天然物薬理学
			7905	医化学一般		(1)生体分子医学、(2)細胞医化学、(3)ゲノム医化学、(4)発生医学、(5)再生医学、(6)加齢医学、(7)高次生命医学、(8)細胞内シグナル伝達
	7906		病態医化学		(1)代謝異常学、(2)分子病態学、(3)分子遺伝子診断学、(4)分子腫瘍学、(5)分子病態栄養学	
	7907		人類遺伝学		(1)ゲノム医科学、(2)分子遺伝学、(3)細胞遺伝学、(4)遺伝生化学、(5)遺伝疫学、(6)遺伝診断学、(7)遺伝子治療学、(8)社会遺伝学、(9)エピジェネティクス	
	7908		人体病理学	1	(1)消化器・唾液腺、(2)泌尿生殖器・内分泌	
				2	(3)脳・神経、(4)呼吸器・縦隔、(5)循環器、(6)骨・関節・筋肉・皮膚・感覚器、(7)血液	
				3	(8)診断病理学、(9)細胞診断学、(10)遺伝子病理診断学、(11)免疫病理診断学、(12)環境病理、(13)移植病理	
	7909	実験病理学	1	(1)細胞傷害、(2)腫瘍、(3)遺伝性疾患、(4)環境、(5)再生医学		
			2	(6)炎症、(7)循環障害、(8)免疫、(9)感染症、(10)代謝異常、(11)小児病理、(12)疾患モデル動物		
	7910	寄生虫学（含衛生動物学）		(1)蠕虫、(2)原虫、(3)媒介節足動物、(4)病害動物、(5)国際医療、(6)分子・細胞、(7)発生・遺伝、(8)疫学、(9)診断・治療、(10)感染防御・制御		
	7911	細菌学（含真菌学）		(1)遺伝・ゲノム情報、(2)構造・生理、(3)分類、(4)病原性、(5)毒素・エフェクター、(6)薬剤耐性、(7)疫学、(8)診断・治療、(9)感染防御・制御		
	7912	ウイルス学		(1)分子・構造、(2)細胞・複製、(3)個体・病態、(4)疫学、(5)診断・治療、(6)感染防御・制御、(7)プリオン		
	7913	免疫学		(1)サイトカイン、(2)免疫シグナル伝達、(3)抗体・補体、(4)自然免疫、(5)獲得免疫、(6)粘膜免疫、(7)免疫記憶、(8)免疫寛容・自己免疫、(9)免疫監視・腫瘍免疫、(10)免疫不全、(11)アレルギー・免疫関連疾患、(12)感染免疫、(13)炎症、(14)免疫制御・移植免疫		

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）
生物系	医歯薬学	境界医学	8001	医療社会学		(1) バイオエシックス、(2) 医歯薬学教育、(3) 医学史、(4) 医療経済学、(5) 医療行動学
			8002	応用薬理学		(1) 臨床薬理学、(2) 臨床試験・倫理、(3) 薬物治療学、(4) 医薬品副作用・薬物相互作用、(5) 薬物輸送学、(6) ファーマコゲノミックス、(7) 同位体医療薬学、(8) 機器医療薬学、(9) 薬物代謝酵素・トランスポーター、(10) イメージング、(11) ヒト組織利用研究、(12) 薬物依存・薬剤感受性、(13) 遺伝子診断・治療、(14) ドラッグデリバリー、(15) 薬剤疫学
			8003	病態検査学	1	(1) 臨床検査医学、(2) 臨床病理学、(3) 臨床化学、(4) 免疫血清学、(5) 臨床検査システム
					2	(6) 遺伝子検査学、(7) 臨床微生物学、(8) 腫瘍検査学、(9) 臨床血液学、(10) 生理機能検査学
			8004	疼痛学		(1) 疼痛の評価法、(2) 疼痛の疫学、(3) 鎮痛薬、(4) 疼痛の非薬物治療、(5) 発痛物質、(6) 疼痛の発生・増強機序、(7) 疼痛の神経機構、(8) 痛覚過敏、(9) 疼痛の遺伝的要因、(10) 疼痛の発達・加齢要因、(11) 疼痛の性差、(12) 疼痛反射、(13) しびれ、(14) 侵害受容器、(15) 組織障害性疼痛、(16) 神経障害性疼痛、(17) 精神・心理的疼痛、(18) 痒み評価法、(19) 痒みの疫学、(20) 鎮痒薬、(21) 起痒物質、(22) 痒みの発生・増強機序、(23) 痒みの神経機構、(24) 掻破行動、(25) 痒み過敏、(26) 精神・心理的痒み、(27) 痒みの発達・加齢要因
			8005	医学物理学・放射線技術学		(1) 医用物理学、(2) 放射線技術科学、(3) 放射線技術工学、(4) 放射線診断技術学、(5) 放射線治療技術学、(6) 核医学物理学、(7) 医用画像物理工学、(8) 医用画像情報学、(9) 放射線測定学、(10) 粒子線治療学、(11) 加速器工学、(12) 放射線防護学
		社会医学	8101	疫学・予防医学	1	(1) 臨床疫学、(2) 臨床試験、(3) 環境疫学、(4) 分子遺伝疫学
					2	(5) 疫学、(6) 予防医学、(7) 健康診断、(8) 検診、(9) 臨床統計学、(10) 集団検診、(11) 健康管理、(12) 健康増進
			8102	衛生学・公衆衛生学	1	(1) 分子予防、(2) 分子疫学、(3) 食品衛生、(4) 環境保健、(5) 産業保健、(6) 環境毒性学
					2	(7) 地域保健、(8) 地域医療、(9) 母子保健、(10) 成人保健、(11) 高齢者保健、(12) 国際保健、(13) 保健医療行政、(14) 保健医療政策、(15) 介護福祉
	8103		病院・医療管理学		(1) 病院管理学、(2) 医療管理学、(3) 医療情報学、(4) 医療の質、(5) 診療録管理、(6) リスクマネジメント、(7) 院内感染管理、(8) クリティカルパス	
	8104		法医学		(1) 法医学、(2) 法医鑑定学、(3) アルコール医学、(4) 法歯学、(5) DNA多型医学、(6) 法医病理学	
	内科系臨床医学	8201	内科学一般（含心身医学）		(1) 心療内科学、(2) ストレス科学、(3) 東洋医学、(4) 代替医療、(5) 緩和医療、(6) 総合診療、(7) プライマリケア、(8) 老年医学	
		8202	消化器内科学	1	(1) 上部消化管学（食道、胃、十二指腸）	
				2	(2) 下部消化管学（小腸、大腸）	
				3	(3) 肝臓学	
				4	(4) 胆道学、膵臓学	
				5	(5) 消化器内視鏡学	
		8203	循環器内科学	1	(1) 臨床心臓学	
				2	(2) 臨床血管学	
				3	(3) 分子心臓学	
				4	(4) 分子血管学	
		8204	呼吸器内科学	1	(1) 臨床呼吸器学	
				2	(2) 分子細胞呼吸器学	
		8205	腎臓内科学	1	(1) 腎臓学	
				2	(2) 高血圧学、(3) 水・電解質代謝学、(4) 人工透析学	

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）
生物系	医歯薬学	内科系臨床医学	8206	神経内科学	1	(1) 神経分子病態学
					2	(2) 神経病態免疫学、(3) 臨床神経分子遺伝学
					3	(4) 臨床神経生理学、(5) 臨床神経形態学、(6) 臨床神経心理学、(7) 神経機能画像学
			8207	代謝学	1	(1) エネルギー・糖質代謝異常
					2	(2) メタボリックシンドローム、(3) 脂質代謝異常、(4) プリン代謝異常、(5) 骨・カルシウム代謝異常、(6) 電解質代謝異常
			8208	内分泌学		(1) 内分泌学、(2) 生殖内分泌学
			8209	血液内科学	1	(1) 血液内科学、(2) 血栓・止血学、(3) 輸血学
					2	(4) 血液腫瘍学
					3	(5) 造血幹細胞移植学、(6) 血液免疫学、(7) 免疫制御学
			8210	膠原病・アレルギー内科学	1	(1) 膠原病学、(2) リウマチ学
					2	(3) アレルギー学、(4) 臨床免疫学、(5) 炎症学
			8211	感染症内科学		(1) 感染症診断学、(2) 感染症治療学、(3) 感染症防御学、(4) 国際感染症学、(5) 感染症疫学、(6) 日和見感染症
			8212	小児科学	1	(1) 発達小児科学、(2) 成育医学、(3) 小児代謝・栄養学、(4) 遺伝・先天異常学、(5) 小児保健学、(6) 小児社会医学
					2	(7) 小児神経学、(8) 小児内分泌学
					3	(9) 小児血液学、(10) 小児腫瘍学、(11) 小児免疫・アレルギー・膠原病学、(12) 小児感染症学
					4	(13) 小児循環器学、(14) 小児呼吸器学、(15) 小児腎・泌尿器学、(16) 小児消化器病学
			8213	胎児・新生児医学		(1) 出生前診断、(2) 胎児医学、(3) 先天異常学、(4) 新生児医学、(5) 未熟児医学
			8214	皮膚科学	1	(1) 皮膚診断学、(2) 皮膚病態学、(3) 皮膚生理・生物学、(4) レーザー・光生物学
					2	(5) 皮膚腫瘍学、(6) 色素細胞学、(7) 皮膚免疫・炎症学、(8) 皮膚感染症、(9) 皮膚再生学、(10) 皮膚遺伝学
			8215	精神神経科学	1	(1) 精神薬理学、(2) 臨床精神分子遺伝学
					2	(3) 精神生理学、(4) 精神病理学、(5) 老年精神医学
					3	(6) 社会精神医学、(7) 児童・思春期精神医学、(8) 司法精神医学、(9) 神経心理学、(10) リエゾン精神医学、(11) 精神科リハビリテーション医学
			8216	放射線科学	1	(1) 画像診断学(含放射線診断学)、(2) エックス線・CT、(3) 超音波診断学、(4) 放射性医薬品・造影剤
					2	(5) 核磁気共鳴画像(MRI)、(6) 放射線防護・管理学、(7) 医用画像工学
					3	(8) 核医学(PEITを含む)、(9) インターベンショナルラジオロジー(IVR)、(10) 血管形成術・骨形成術・血管塞栓術、(11) ラジオ波治療・ステント治療・レーザー治療、(12) 温熱治療学、(13) 超音波治療学、(14) 被ばく医療、(15) 医学放射線生物学
					4	(16) 放射線治療学、(17) 放射線腫瘍学、(18) 放射線治療物理学、(19) 放射線治療生物学、(20) 粒子線治療

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）
生物系	医歯薬学	外科系臨床医学	8301	外科学一般	1	(1)外科総論、(2)移植外科学、(3)人工臓器学、(4)内視鏡外科学、(5)ロボット外科学
					2	(6)実験外科学、(7)内分泌外科学、(8)乳腺外科学、(9)代謝栄養外科学
			8302	消化器外科学	1	(1)食道外科学、(2)胃十二指腸外科学
					2	(3)小腸大腸肛門外科学
					3	(4)肝臓外科学、(5)脾門脈外科学
					4	(6)胆道外科学、(7)膵臓外科学
			8303	心臓血管外科学	1	(1)冠動脈外科学、(2)弁膜疾患外科学、(3)心筋疾患外科学、(4)先天性心臓血管外科学
					2	(5)大血管外科学、(6)末梢動脈外科学、(7)末梢静脈外科学、(8)リンパ管学
			8304	呼吸器外科学	1	(1)肺外科
					2	(2)気管外科、(3)縦隔外科、(4)胸膜外科、(5)胸壁外科
			8305	脳神経外科学	1	(1)頭部外傷学、(2)脳血管障害学、(3)脳血管内外科学、(4)実験脳外科学
					2	(5)脳腫瘍学
					3	(6)神経画像診断学、(7)機能脳神経外科学、(8)小児脳神経外科学、(9)脊髄・脊椎疾患学、(10)脳外科手術機器学、(11)放射線脳外科学
			8306	整形外科	1	(1)脊椎脊髄病学、(2)筋・神経病学、(3)理学療法・リハビリテーション学
					2	(4)骨・軟部腫瘍学、(5)四肢機能再建学、(6)小児運動器学、(7)運動器外傷学
					3	(8)関節病学、(9)リウマチ病学、(10)骨・軟骨代謝学、(11)スポーツ医学
			8307	麻酔科学	1	(1)麻酔学、(2)麻酔蘇生学
					2	(3)周術期管理学
					3	(4)疼痛管理学
			8308	泌尿器科学	1	(1)腫瘍学
					2	(2)排尿機能学、(3)結石症学、(4)感染症学、(5)再生医学、(6)奇形学
					3	(7)副腎外科学、(8)腎移植、(9)アンドロロジー
			8309	産婦人科学	1	(1)産科学、(2)生殖医学
					2	(3)婦人科学、(4)婦人科腫瘍学、(5)更年期医学
			8310	耳鼻咽喉科学	1	(1)耳科学、(2)平衡科学、(3)聴覚医学
					2	(4)鼻科学、(5)アレルギー学、(6)頭蓋底外科学
					3	(7)口腔咽頭科学、(8)喉頭科学、(9)気管食道科学、(10)頭頸部外科学
8311	眼科学	1	(1)臨床研究、(2)疫学研究、(3)社会医学			
		2	(4)眼生化学・分子生物学、(5)眼細胞生物学、(6)眼遺伝学、(7)眼組織学、(8)眼病理学			
		3	(9)眼薬理学、(10)眼生理学、(11)眼発生・再生医学、(12)眼免疫学、(13)眼微生物学・感染症学、(14)視能矯正学、(15)眼光学、(16)眼医工学			
8312	小児外科学		(1)小児消化器疾患学、(2)胎児手術学、(3)小児泌尿器科学、(4)小児呼吸器外科学、(5)小児腫瘍学			
8313	形成外科学		(1)再建外科学、(2)創傷治癒学、(3)マイクロサージェリー学、(4)組織培養・移植学、(5)再生医学			
8314	救急医学		(1)集中治療医学、(2)外傷外科学、(3)救急蘇生学、(4)急性中毒学、(5)災害医学			

系	分野	分科	細目番号	細目名	分割	キーワード（記号）	
生物系	医歯薬学	歯学	8401	形態系基礎歯科学		(1)口腔解剖学(含組織学・発生学)、(2)口腔病理学、(3)口腔細菌学	
			8402	機能系基礎歯科学		(1)口腔生理学、(2)口腔生化学、(3)歯科薬理学	
			8403	病態科学系歯学・歯科放射線学		(1)実験腫瘍学、(2)免疫・感染・炎症、(3)歯科放射線学一般、(4)歯科放射線診断学	
			8404	保存治療系歯学		(1)保存修復学、(2)歯内治療学	
			8405	補綴・理工系歯学	1	(1)歯科補綴学一般、(2)有床義歯補綴学、(3)冠橋義歯補綴学、(4)顎顔面補綴学	
					2	(5)顎口腔機能学、(6)歯科理工学、(7)歯科材料学	
			8406	歯科医用工学・再生歯学		(1)生体材料学、(2)再生歯学、(3)歯科インプラント学	
			8407	外科系歯学	1	(1)口腔外科学一般	
					2	(2)臨床腫瘍学	
					3	(3)歯科麻酔学、(4)病態検査学、(5)口腔顎顔面再建外科学	
			8408	矯正・小児系歯学	1	(1)歯科矯正学	
					2	(2)小児歯科学、(3)小児口腔保健学、(4)顎口腔機能機構学	
			8409	歯周治療系歯学		(1)歯周病態・診断学、(2)歯周治療学、(3)歯周再生医学、(4)歯周予防学	
			8410	社会系歯学	1	(1)口腔衛生学(含公衆衛生学・栄養学)、(2)予防歯科学、(3)歯科医療管理学	
					2	(4)歯科法医学、(5)老年歯科学、(6)歯科心身医学、(7)歯学教育学	
		看護学		8501	基礎看護学	1	(1)看護哲学、(2)看護倫理学、(3)看護技術、(4)看護の歴史
						2	(5)看護教育学
						3	(6)看護管理学、(7)看護政策・行政、(8)災害看護
				8502	臨床看護学	1	(1)重篤・救急看護学、(2)周手術期看護学、(3)慢性病看護学
						2	(4)リハビリテーション看護学、(5)ターミナルケア、(6)がん看護学
				8503	生涯発達看護学	1	(1)家族看護学、(2)母性・女性看護学
						2	(3)助産学、(4)小児看護学
				8504	高齢看護学	1	(1)老年看護学、(2)リハビリテーション看護学
						2	(3)精神看護学、(4)在宅看護、(5)訪問看護、(6)家族看護学
				8505	地域看護学	1	(1)地域看護学、(2)産業看護
						2	(3)公衆衛生看護学、(4)学校看護

(2)平成29年度科学研究費助成事業 系・分野・分科・細目表の別表

この表は、「系・分野・分科・細目表」本表と併せて基盤研究(C)（審査区分「一般」）についてのみ適用されるものです。各分野の公募期間は公募を行う予定の年度です。応募可能な研究期間は、公募期間にかかわらず3～5年間となります。

○時限付き分科細目表

細目	内 容	細目 番号	公募期間 (予定)
震災問題と 人文学・社会 科学	<p>東日本大震災をはじめとする激甚な人的・物的被害をもたらした大震災は、さまざまな危機を日本社会に与えてきた。それらの危機的な状況を乗り越えていくためには、土木・建築等の分野を中心に行われてきた大震災による物的環境・インフラ被害の実態把握と復旧・復興に関する研究だけでなく、社会経済的な被害及びその復旧・復興に関する組織的・体系的な研究が不可欠である。研究アプローチの多様性・領域横断性への対応、研究支援の継続性の維持、対象地域の広域性及び被災地特性の個性への配慮を担保しつつ、復興支援さらには将来の減災対策に向けた知的基盤の充実を図るためには、震災問題をテーマとする人文学・社会科学のさまざまな領域における研究が必要である。</p> <p>本分野は、既存細目では扱いきれない「新たな視点からの研究」をも促進し、「災害の人文学・社会科学」の体系化に向けた契機となりうる点で、重要性が高い。既存細目内の課題設定を超えて「震災の被害と復興の全体像」を領域横断的に把握するため、人文学・社会科学系諸領域での研究促進と知見共有化の契機となる研究を期待する。</p>	9055	平成25年度 ～ 平成29年度